

[保健福祉事業]

医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係る
Q O L 向上等のための調査研究事業報告書

【令和元事業年度報告書】

令和3年3月

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

はじめに

独立行政法人医薬品医療機器総合機構の保健福祉事業の一環として、平成 17 年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者の QOL の向上策及び必要なサービス提供の在り方等を検討するための資料を得るため、健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況を報告していただく調査研究事業を実施するにあたり、有識者の方からご意見をいただくために平成 18 年 4 月に「医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係る QOL 向上等のための調査研究班」を設置しました。

本報告書は、平成 31 年 4 月から令和 2 年 3 月までの日常生活の状況等について調査を実施してその結果をとりまとめたものです。

日常生活の状況等の調査の実施に当たっては、健康被害を受けた方や家族の方々のご協力をいただき心から感謝を申し上げます。

〔医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に
係るQOL向上等のための調査研究班〕

小澤	温	筑波大学大学院・人間総合科学研究科 教授（生涯発達専攻）
金子	美子	京都府立医科大学大学院医学研究科 助教（呼吸器内科学）
高橋	孝雄	慶應義塾大学医学部教授（小児科学）
坪田	一男	慶應義塾大学医学部教授（眼科学）
松永	千恵子	国際医療福祉大学医療福祉学部教授

目 次

I 医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係るQOL向上等のための調査 研究事業の実施概要	1
II 生活状況調査結果のとりまとめについて	
1. 回答状況	3
2. 基本情報	3
3. 調査結果の概要	
(1) A票(福祉サービスの利用状況についての調査)からみた生活状況の概要	
○ 使用している点眼液について	4
○ 福祉サービスの利用状況について	6
○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況について	7
○ 介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況	10
(2) B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要	
① 外出の頻度	16
② 外出に当たって困ること・不満に思うことの有無	20
③ 社会参加・社会活動等の状況	31
④ 屋内での生活における工夫の有無	38
⑤ 日常生活について	49
⑥ 主たる介護者の状況について	71
主たる介護者の健康状態	72
⑦ 介護をしていく中で困ったことの有無	76
⑧ 主たる介護者を支えるものの有無	86
⑨ 介護者の社会参加・社会活動等の状況	89
⑩ 新しい発見や気分転換などの有無	96
(3) C票(過去1年間の日常生活状況調査)からみた生活状況の概要	
○ 治療状況	99
○ 過去1年間の日常生活について	105
○ 福祉サービスについて	121
○ 必要な情報について	122
III むすび	124

IV	参考資料	125
V	用語の解説	156
VI	保健福祉事業の一環として実施する調査研究報告書(生活状況調査票)	160
VII	健康状態報告書(診断書様式)	194

**I 医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係る
QOL向上等のための調査研究事業の実施概要**

医薬品による重篤かつ希少な健康被害に係る QOL向上等のための調査研究事業の実施概要

1. 目的

独立行政法人医薬品医療機器総合機構の保健福祉事業の一環として、平成17年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者のQOLの向上策及び必要なサービス提供の在り方等を検討するための資料を得ることを目的として、調査研究事業を実施した。

2. 事業内容

健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況等について、調査票等により報告していただき、その内容について集計と解析・評価を行う。

(1) 事業実施時期

平成31年4月1日から令和2年3月31日

(2) 調査研究対象者

医薬品の副作用により重篤(障害年金受給相当)かつ希少な健康被害(ライ症候群及び重度のSJS)を受けた者

(3) 調査票の種別

ア. 生活状況調査票(本人記入用)

A票(福祉サービスの利用状況についての調査)

B票(社会活動を中心とした調査)

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)

イ. 健康状態報告書(医師記入用)

D票(調査研究事業用診断書)

①医薬品副作用被害救済制度における障害年金等受給者は、現況届に添付する診断書の写しを健康状態報告書として取り扱う。

②医薬品副作用被害救済制度の障害年金等受給者以外の者はD票(本

調査研究事業用診断書)を提出する。

(4) 調査票の記入時期及び提出時期

調査票	記 入 時 期	提 出 時 期
A票	毎月の状況を末日に記入する。	3ヶ月分まとめて 7月、10月、1月、4月の各月の10日までに提出
B票	3ヶ月間の状況を四半期毎の(6月、9月、12月、3月)末日に記入する。	7月、10月、1月、4月の各月の10日までに提出
C票	1年間の状況を年1回3月末日に記入する。	4月10日までに提出
D票	年1回12月の健康状態を医師が記入する。	1月10日までに本人が提出

II 生活状況調査結果のとりまとめについて

生活状況調査結果のとりまとめについて

1. 回答状況（各四半期共通）

各四半期における調査への回答状況（回収率等）は、

- 第1・四半期：65名中55名（回収率84.6%）うちライ症候群：8名、SJS：47名
 - 第2・四半期：65名中57名（回収率87.7%）うちライ症候群：7名、SJS：50名
 - 第3・四半期：65名中54名（回収率83.1%）うちライ症候群：6名、SJS：48名
 - 第4・四半期：65名中53名（回収率81.5%）うちライ症候群：6名、SJS：47名
- である。以下、特段の記載がない限り、各四半期の集計に当たっての母数は上記のとおり。
また、割合等の集計結果は端数処理（四捨五入）の関係で合計が一致しない場合がある。

2. 基本情報

表－1 男女・年代別（人数）

	10代以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	合計
男	0	0	3	0	5	8	4	5	2	27
女	0	1	2	1	4	7	8	7	2	32
合計	0	1	5	1	9	15	12	12	4	59

表－2 男女・疾病別（人数）

	ライ症候群	SJS	合計
男	3	24	27
女	5	27	32
合計	8	51	59

表－3 疾病・年代別（人数）

	10代以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	合計
ライ症候群	0	1	4	0	2	1	0	0	0	8
SJS	0	0	1	1	7	14	12	12	4	51
合計	0	1	5	1	9	15	12	12	4	59

3. 調査結果の概要

(1) A 票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

■ 使用している点眼液について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

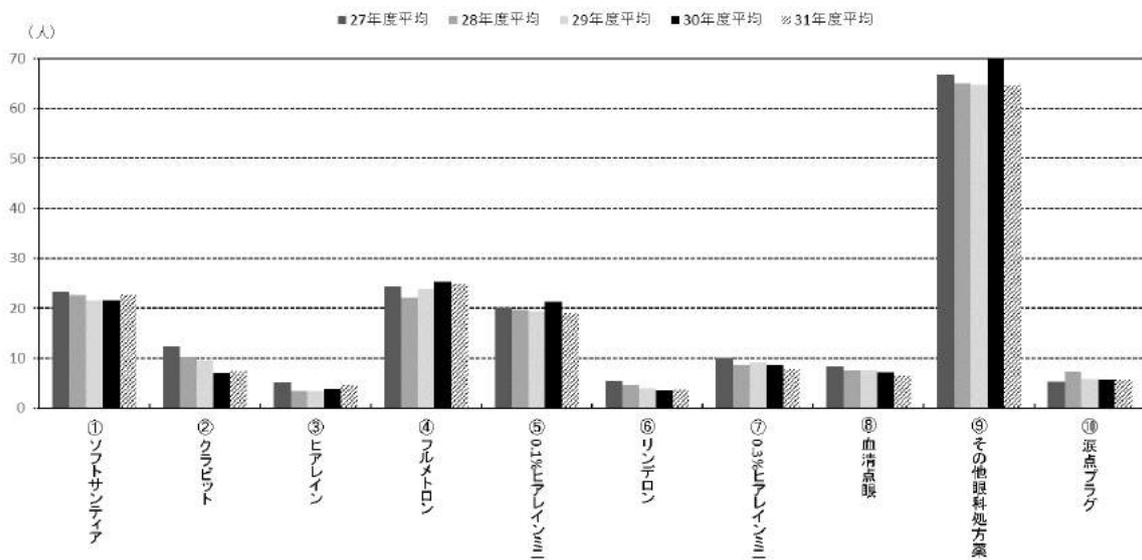
○SJS の健康被害者が現在使用している点眼液は、表 1-1 のとおり。なお、各月の延べの使用人数を示している。

表 1-1 現在使用している点眼液

点眼液	投与	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
① ソフトサンティア	両眼	20	20	20	22	24	23	21	22	22	22	23	23	21.8
	右眼	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0.9
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	21	21	21	23	25	24	22	23	23	23	24	23	22.8
② クラビット	両眼	6	6	8	8	8	8	8	8	6	6	6	5	6.9
	右眼	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0.3
	左眼	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0.3
	合計	6	6	8	10	10	10	9	8	6	6	6	5	7.5
③ ヒアレイン	両眼	7	6	6	5	5	5	4	4	4	4	3	2	4.6
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
	合計	7	6	6	5	5	5	4	4	4	4	3	3	4.7
④ フルメトロン	両眼	20	19	18	22	23	23	20	22	24	27	26	24	22.3
	右眼	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	0	0	1.3
	左眼	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.3
	合計	24	23	22	25	26	26	23	24	26	28	27	25	24.9
⑤ 0.1%ヒアレインミニ	両眼	15	15	12	17	17	17	18	18	18	21	21	21	17.5
	右眼	1	2	2	3	3	3	1	1	1	1	1	0	1.6
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	16	17	14	20	20	20	19	19	19	22	22	21	19.1
⑥ リンデロン	両眼	1	1	2	3	3	2	2	2	2	3	3	4	2.3
	右眼	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0.8
	左眼	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0.6
	合計	3	3	4	5	5	4	3	2	2	4	4	5	3.7
⑦ 0.3%ヒアレインミニ	両眼	10	9	10	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7.8
	右眼	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	11	9	10	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7.9
⑧ 血清点眼	両眼	7	7	6	9	8	8	6	5	5	6	6	6	6.6
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	7	7	6	9	8	8	6	5	5	6	6	6	6.6
⑨ その他眼科処方薬	両眼	57	54	56	54	57	56	51	54	53	55	56	54	54.8
	右眼	6	6	6	6	7	7	7	7	6	6	4	6	6.2
	左眼	3	3	2	3	5	4	7	5	4	2	3	3	3.7
	合計	66	63	64	63	69	67	65	66	63	63	63	63	64.6
⑩ 涙点プラグ	両眼	6	7	7	5	6	6	4	4	4	4	4	4	5.1
	右眼	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0.5
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	6	7	7	5	6	6	5	5	5	5	5	5	5.6
SJS回答者数		54	54	54	57	57	57	54	54	54	55	55	55	—
点眼液投与患者数		48	48	48	50	50	50	47	47	47	49	49	48	—

□点眼液を使用している平均延べ人数では、フルメトロンが 24.9 人、ソフトサンティアが 22.8 人、0.1%ヒアレインミニが 19.1 人、クラビットが 7.5 人となっている

点眼液	27年度平均	28年度平均	29年度平均	30年度平均	31年度平均
① ソフトサンティア	23.3	22.6	21.5	21.6	22.8
② クラビット	12.4	10.3	9.5	7.0	7.5
③ ヒアレイン	5.2	3.4	3.4	3.9	4.7
④ フルメロン	24.4	22.1	23.8	25.3	24.9
⑤ 0.1%ヒアレインミニ	20.1	19.7	19.4	21.3	19.1
⑥ リンデロン	5.5	4.7	4.1	3.6	3.7
⑦ 0.3%ヒアレインミニ	10.1	8.7	9.3	8.6	7.9
⑧ 血清点眼	8.4	7.6	7.6	7.2	6.6
⑨ その他眼科処方薬	66.9	65	64.7	70.2	64.6
⑩ 涙点プラグ	5.3	7.3	5.8	5.6	5.6



■ 福祉サービスの利用状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○ 福祉サービスの利用状況は、以下のとおり。

表 1-2 福祉サービスの月別の利用状況

利用状況(人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
①障害者総合支援法に基づく福祉サービス	18	19	19	21	20	20	22	22	22	21	20	20	20.3
②介護保険制度に基づく福祉サービス	6	6	6	4	4	4	5	5	5	4	4	4	4.8
③上記①②以外の福祉サービス	6	5	5	7	7	7	10	9	8	9	9	9	7.6

□ 利用者数は「①障害者総合支援法に基づく福祉サービス」は延べ 244 人で、平均では毎月 20.3 人が、「②介護保険制度に基づく福祉サービス」は延べ 57 人で、平均では毎月 4.8 人が、「③上記①②以外の福祉サービス」は延べ 91 人で、平均では毎月 7.6 人が利用している

○ 「③上記①②以外の福祉サービス」の主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 病院に同行してもらっています。
- ・ 買物に同行してもらっています。
- ・ 社会福祉協議会、福祉開発研究センター
- ・ サピエ図書
- ・ 一部自己負担での横浜市福祉特別乗車券の支給
- ・ 音訳サービス、在宅訪問による PC サポート
- ・ 音訳サービス、東京都障害者福祉会館における視覚障害者文字サービス
- ・ 計画相談、在宅訪問によるパソコンや家電のサポート。音訳サービス
- ・ 在宅訪問による PC サポート、音訳サポート
- ・ 地域公共図書館における蔵書対面朗読。
- ・ 社会福祉協議会 福祉開発センター（非営利）某眼科、某病院眼科その他の病院等同行援護
- ・ 世田谷区緊急介護人制度
- ・ 地元公共図書館における対面朗読サービス、CD 音訳サービス
- ・ 同行援護（ヘルパー）

■ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況は、以下のとおり。

○ なお、満足度の点数は、「不満」～「満足」を以下の4段階で評価しており、

- ・ 満足： 4点
- ・ やや満足： 3点
- ・ やや不満： 2点
- ・ 不満： 1点

の点数となっている。

① 同行援護

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、同行援護の利用状況は、表1-3のとおり。

表1-3 同行援護の月別の利用状況

同行援護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	15	14	15	15	14	15	16	16	16	14	14	12	14.7
平均利用日数（日）	7.4	7.4	7.2	6.5	6.8	6.4	8.1	7.7	7.6	5.6	5.6	6.4	6.9
満足度平均（4点満点）	3.5	3.5	3.6	3.4	3.5	3.4	3.6	3.5	3.5	3.5	3.6	3.7	3.5

□ 利用者数は延べ176人で、平均では毎月14.7人が利用している

□ 平均利用日数は月に6.9日となっている

□ サービスに対する満足度は平均すると3.5点となっている

□ 満足度が高い理由としては「安全に移動が出来安心できる」などをあげている

② 就労移行支援

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、就労移行支援の利用状況は、表1-4のとおり。

表1-4 就労移行支援の月別利用状況

就労移行支援	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	1	0	1	1	0	1	0	0	0	1	2	2	0.8
平均利用日数（日）	4.0	-	4.0	4.0	-	4.0	-	-	-	4.0	5.5	6.0	4.5
満足度平均（4点満点）	4.0	-	4.0	4.0	-	4.0	-	-	-	4.0	3.5	3.5	3.9

□ 利用者数は延べ9人で、平均0.8人が利用している

□ 平均利用日数は月に4.5日となっている

□ サービスに対する満足度は平均3.9点となっている

③ 就労継続支援 A 型

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、就労継続支援 A 型の利用状況は、表 1-5 のとおり。

表 1-5 就労継続支援 A 型の月別の利用状況

就労継続支援A型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均利用日数（日）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
満足度平均（4点満点）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

本年度の利用者はなかった

④ 就労継続支援 B 型

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、就労継続支援 B 型の利用状況は、表 1-6 のとおり。

表 1-6 就労継続支援 B 型の月別の利用状況

就労継続支援B型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均利用日数（日）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
満足度平均（4点満点）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

本年度の利用者はなかった

⑤ 上記以外のサービス

○ 上記①～④以外の障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況は、表 1-7 のとおり。

表 1-7 上記以外のサービスの月別の利用状況

上記以外のサービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	7	7	7	8	7	7	8	7	7	8	8	7	7.3
平均利用回数（回）	4.1	4.1	4.3	4.1	4.3	4.3	5.0	4.6	4.0	6.6	6.8	6.4	4.9
満足度平均（4点満点）	3.4	3.5	3.6	3.6	3.7	3.7	3.5	3.7	3.7	3.4	3.4	3.5	3.6

利用者数は延べ 88 人で、平均では毎月 7.3 人が利用している

平均利用日数は月に 4.9 日となっている

サービスに対する満足度は平均すると 3.6 点となっている

満足度が高い理由としては「感染などのリスクが軽減している感じがする」などをあげている

○具体的な「⑤上記以外のサービス」の内容は、以下のとおりとなっている
(自由記載、順不同、複数記載)。

- ・ 対面朗読・居宅サービス
- ・ CD朗読サービス貸し出し
- ・ デイジー図書
- ・ パソコンを使った読上げ機
- ・ ホームヘルパー (家事代行)
- ・ 家事 (かい物・そうじ、食事づくり) 朗読CDの貸し出しサービス
- ・ 家事代行サービス
- ・ 居宅サービス
- ・ 居宅介護 家事・生活援助 代読・代筆
- ・ 居宅支援サービス 家事援助や印刷物の簡単な読み書き
担当者との支援計画についてのモニタリング調査と契約
- ・ 計画相談 1月からの就労移行支援プログラムのための準備
- ・ 居宅支援
- ・ 計画相談 実際に訪問などの相談の機会はなかったが、引き続きサービス自体は継続中
- ・ 計画相談 就職移行支援のケアプラン作成のため
- ・ 計画相談 定期的に行われる同行援護や居宅支援など状況モニタリング報告書のチェック
- ・ 計画相談サービスにおけるモニタリング
- ・ 社会福祉協議会 失語訓練、料理教室
- ・ 対面朗読、居宅サービス
- ・ 朗読CD貸し出し

■ 介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況について

○ 介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況は、以下のとおり。

○ なお、満足度の点数は、「不満」～「満足」を以下の4段階で評価しており、

- ・ 満足： 4点
- ・ やや満足： 3点
- ・ やや不満： 2点
- ・ 不満： 1点

の点数となっている。

○ 併せて、平成26年度～平成30年度の平均値も示してある。

① 訪問介護

○ 介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問介護の利用状況および介護内容は、表1-8、表1-9のとおり。（介護内容の平成27年度平均についてはSJSの健康被害者の方のみに選択質問）

表1-8 訪問介護の月別の利用状況

訪問介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	30 平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均
利用者数(人)	7	7	6	4	4	4	4	4	4	3	3	5	4.6	3.2	3.3	2.6	4.2	8.7
平均利用日数(日)	15.3	15.6	16.3	21.0	21.0	20.8	19.8	19.5	20.0	18.0	17.0	13.2	18.1	22.2	22.4	24.9	17.1	12.6
満足度平均(4点満点)	3.7	3.6	3.7	3.8	3.8	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.8	3.9	3.9	3.7	3.8	3.5	3.5

表1-9 介護内容の月別の状況

介護内容(人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	30 平均	29 平均	28 平均	27 平均
身体介護中心型	4	2	2	3	3	3	3	2	2	3	3	3	2.8	2.1	2.3	2.4	2.0
生活援助中心型	5	6	4	3	3	3	4	3	3	5	5	6	4.2	2.3	1.7	1.8	2.1
通院等乗降介助	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	1	0.4	0.2	0.8	0.1	0.8
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0

□ 利用者数は延べ55人で、平均では毎月4.6人が利用している

□ 平均利用日数は月に18.1日となっている

□ サービスに対する満足度は平均すると3.9点となっている

□ 満足度が高い理由としては「気配りが出来て助かっている」などをあげている

② 訪問入浴介護

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問入浴介護の利用状況は、表 1-10 のとおり。

表 1-10 訪問入浴介護の月別利用状況

訪問入浴介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	30 平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均
利用者数（人）	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	2.8	2.8	3.0	2.6	3.1
平均利用日数（日）	20.0	20.3	18.7	18.7	18.3	20.7	18.7	20.0	19.0	19.3	19.0	19.7	19.4	18.6	18.3	17.3	20.0	16.5
満足度平均（4点満点）	3.3	3.7	3.3	3.7	3.7	3.7	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.4	3.4	3.5	3.4	3.4	3.4

- 利用者数は延べ 36 人で、平均では毎月 3.0 人が利用している
- 平均利用日数は月に 19.4 日となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.4 点となっている
- 満足度が高い理由としては「ヘルパーさんが慣れている」などをあげている

③ 訪問看護

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問看護の利用状況は、表 1-11 のとおり。

表 1-11 訪問看護の月別の利用状況

訪問看護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	30 平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均
利用者数（人）	4	4	3	4	4	2	3	3	3	3	3	3	3.3	2.7	2.9	1.8	2.1	3.5
平均利用日数（日）	3.8	6.0	5.3	3.5	4.3	5.5	5.7	4.7	5.0	6.0	6.0	4.7	5.0	4.6	5.7	5.8	4.2	3.8
満足度平均（4点満点）	3.5	4.0	3.8	3.5	3.5	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.4	3.8	3.4	3.1

- 利用者数は延べ 39 人で、平均では毎月 3.3 人が利用している
- 平均利用日数は月に 5.0 日となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.7 点となっている
- 満足度が高い理由としては「管理がいき届き満足している」などをあげている

④ 訪問リハビリテーション

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問リハビリテーションの利用状況は、表 1-12 のとおり。

表 1-12 訪問リハビリテーションの月別の利用状況

訪問リハビリテーション	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	30 平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均
利用者数（人）	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4.4	4.7	4.8	4.4	3.0	3.5
平均利用日数（日）	6.6	7.6	7.0	7.6	7.6	7.8	7.8	8.0	7.8	8.0	8.0	7.5	7.6	7.3	6.7	7.4	7.4	4.7
満足度平均（4点満点）	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.0	3.2	3.2	3.2	3.3	3.1	3.2

- 利用者数は延べ 53 人で、平均では毎月 4.4 人が利用している
- 平均利用日数は月に 7.6 日となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.2 点となっている
- 満足度が高い理由としては「身体のことを良く分かっている」などをあげている

⑤ 居宅療養管理指導

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、居宅療養管理指導の利用状況は、表 1-13 のとおり。

表 1-13 居宅療養管理指導の月別の利用状況

居宅療養管理指導	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	30 平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均
利用者数（人）	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	2.9	4.8	3.0	2.4	1.7	3.2
平均利用回数（回）	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.5	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	0.9	1.3	1.4	1.6	1.3
満足度平均（4点満点）	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.5	3.7	3.5	3.3	3.3	3.3	3.3	3.5	3.9	3.7	3.7	3.7	3.5

- 利用者数は延べ 35 人で、平均では毎月 2.9 人が利用している
- 平均利用回数は月に 1.3 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.5 点となっている
- 満足度が高い理由としては「本人の話をよく聞いてくれる」などをあげている

⑥ 通所介護

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、通所介護の利用状況は、表 1-14 のとおり。

表 1-14 通所介護の月別の利用状況

通所介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	30 平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均
利用者数（人）	4	4	4	3	3	3	3	3	3	2	2	3	3.1	2.9	2.0	1.5	1.0	2.4
平均利用回数（回）	16.8	16.8	16.3	16.0	17.0	16.7	11.3	11.0	10.7	14.0	13.0	15.7	14.6	15.2	12.8	10.1	8.6	12.4
満足度平均（4点満点）	3.5	3.8	3.8	3.7	2.7	3.7	3.7	3.0	3.7	3.5	3.5	3.3	3.5	3.6	3.5	3.9	4.0	3.8

- 利用者数は延べ 37 人で、平均では毎月 3.1 人が利用している
- 平均利用回数は月に 14.6 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.5 点となっている
- 満足度が高い理由としては「気晴らしが出来満足している」などをあげている

⑦ 通所リハビリテーション

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、通所リハビリテーションの利用状況は、表 1-15 のとおり。

表 1-15 通所リハビリテーションの月別の利用状況

通所リハビリテーション	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	30 平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均
利用者数（人）	4	4	4	5	5	6	4	3	4	4	4	4	4.3	4.0	4.0	3.3	3.8	5.1
平均利用回数（回）	6.3	5.3	6.5	5.8	5.4	6.0	6.3	5.7	7.0	7.3	6.3	6.5	6.2	6.1	5.8	6.3	6.7	6.4
満足度平均（4点満点）	3.8	3.7	3.7	3.4	3.6	3.5	3.8	4.0	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.6	3.4	3.6	3.2	3.2

- 利用者数は延べ 51 人で、平均では毎月 4.3 人が利用している
- 平均利用回数は 6.2 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.7 点となっている

- 満足度が高い理由としては「視力障害の為、通常のジムの利用が出来ず運動不足になるのでこのデイサービスは助かる」などをあげている

⑧ 短期入所

- 介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、短期入所の利用状況および入所内容は、表 1-16、表 1-17 のとおり。（入所内容の平成 27 年度平均については SJS の健康被害者の方のみに選択質問）

表 1-16 短期入所の月別の利用状況

短期入所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	30平均	29平均	28平均	27平均	26平均
利用者数（人）	1	2	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0.6	1.4	1.1	1.5	0.8	1.4
平均利用回数（回）	5.0	4.0	1.0	2.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	2.3	3.0	1.0	1.1	1.3	2.8
満足度平均（4点満点）	4.0	3.5	4.0	2.0	3.0	-	3.0	-	-	-	-	-	3.3	3.3	2.7	2.5	2.1	3.3

表 1-17 入所内容の月別の利用状況

入所内容（人）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	30平均	29平均	28平均	27平均
短期入所療養介護	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0
短期入所生活介護（ショートステイ）	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0.3	1.1	1.1	0.0	0.0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

- 利用者数は延べ7人で、平均では毎月 0.6 人が利用している
- 平均利用回数は 2.3 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.3 点となっている
- SJS の健康被害者の入所はなかった

⑨ 送迎サービス

- 介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、送迎サービスの利用状況は、表 1-18 のとおり。

表 1-18 送迎サービスの月別の利用状況

送迎サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	30平均	29平均	28平均	27平均	26平均
利用者数（人）	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	4	5.7	6.3	5.6	5.0	5.2	7.2
平均利用回数（回）	5.7	4.5	5.2	4.5	4.5	5.5	4.8	5.3	4.5	6.0	4.8	5.8	5.1	5.2	6.0	8.3	7.5	7.8
満足度平均（4点満点）	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.8	4.0	3.7	3.7	3.4	3.4	3.4	3.5	3.4

- 利用者数は延べ 68 人で、平均では毎月 5.7 人が利用している
- 平均利用回数は月に 5.1 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.7 点となっている
- 満足度が高い理由としては「ヘルパーさんが慣れている。」などをあげている

⑩ その他の福祉サービス

○ 上記①～⑨以外の介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況は、表 1-19 のとおり。

表 1-19 その他の福祉サービスの月別の利用状況

その他の福祉サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	30 平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均
利用者数(人)	2	2	2	3	3	4	4	4	4	2	2	1	2.8	2.3	4.0	4.7	5.8	11.3
平均利用回数(回)	8.0	3.5	8.0	4.0	4.0	4.5	4.5	5.0	4.3	7.5	7.0	5.0	5.4	5.5	9.0	8.8	6.0	5.3
満足度平均(4点満点)	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.4	3.3	3.3	3.2	3.7	3.3	3.5	3.4	3.1	3.3	3.3	3.2	3.2

- 利用者数は延べ 33 人で、平均では毎月 2.8 人が利用している
- 平均利用回数は月に 5.4 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.4 点となっている
- 具体的なサービス内容としては「料理教室」や「フラワー教室」などをあげている
- 満足度が高い理由としては「スタッフが慣れている」などをあげている

⑪ 福祉サービスの年間利用状況

○ 上記①～⑩に示した各福祉サービスの年間の平均利用状況（日数または回数）及び満足度の平均点数をとりまとめると、図1-1のとおり。

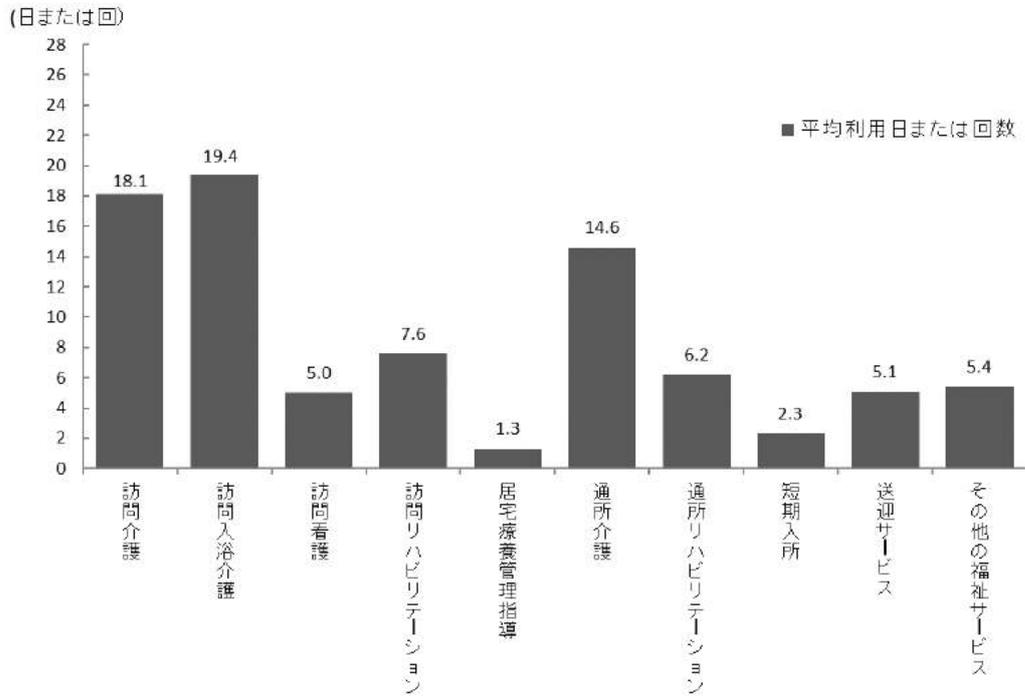


図1-1 福祉サービスの年間利用状況

□ 1年間、福祉サービスを利用して満足度が高かったサービスは、「訪問介護」の3.9点、つづいて「訪問看護」「通所リハビリテーション」「送迎サービス」が3.7点となっている。

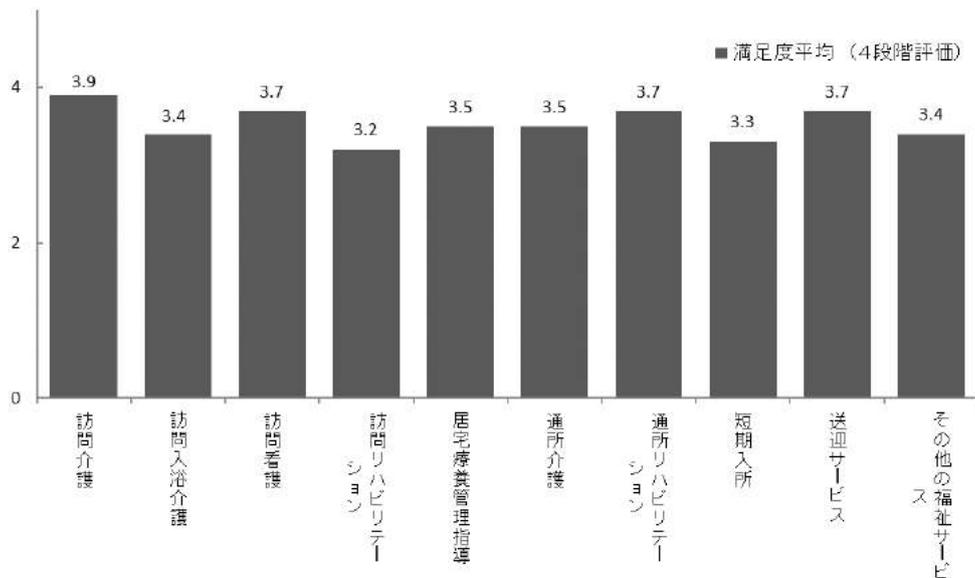


図1-2 福祉サービスの満足度平均

(2) B票（社会活動を中心とした調査）からみた生活状況の概要

■ 健康被害者の外出について

① 外出の頻度

ア 第1・四半期（回答者 53人）

- 第1・四半期における健康被害者の外出頻度については、表2-1及び図2-1のとおり。
- ほぼ毎日が24.5%、週に4~5回が17.0%、週に2~3回が26.4%となっている
- 一方、月に2~3回が26.4%、まったく外出していないが5.7%となっている

イ 第2・四半期（回答者 55人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出頻度については、表2-1及び図2-1のとおり。
- ほぼ毎日が25.5%、週に4~5回が25.5%、週に2~3回が21.8%となっている
- 一方、月に2~3回が21.8%、まったく外出していないが5.5%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 52人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出頻度については、表2-1及び図2-1のとおり。
- ほぼ毎日が25.0%、週に4~5回が19.2%、週に2~3回が28.8%となっている
- 一方、月に2~3回が19.2%、まったく外出していないが7.7%となっている

エ 第4・四半期（回答者 52人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出頻度については、表2-1及び図2-1のとおり。
- ほぼ毎日が23.1%、週に4~5回が17.3%、週に2~3回が28.8%となっている
- 一方、月に2~3回が23.1%、まったく外出していないが7.7%となっている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-1及び図2-1のとおり。
- 年間の平均では、ほぼ毎日外出している人が24.5%、週に4~5回外出している人が19.8%、週に2~3回外出している人が26.4%、月に2~3回外出している人が22.6%となっている

表 2-1 健康被害者の外出頻度の推移

	ほぼ毎日	週に4から5回	週に2から3回	月に2から3回	まったく外出していない	回答なし	合計
第1・四半期	13	9	14	14	3	0	53
	24.5%	17.0%	26.4%	26.4%	5.7%	—	100.0%
第2・四半期	14	14	12	12	3	1	55
	25.5%	25.5%	21.8%	21.8%	5.5%	—	100.0%
第3・四半期	13	10	15	10	4	0	52
	25.0%	19.2%	28.8%	19.2%	7.7%	—	100.0%
第4・四半期	12	9	15	12	4	0	52
	23.1%	17.3%	28.8%	23.1%	7.7%	—	100.0%
年間単純平均	13.0	10.5	14.0	12.0	3.5	0.3	53.0
	24.5%	19.8%	26.4%	22.6%	6.6%	—	100.0%
30年度平均	14.3	12.3	15.0	10.3	3.3	0.0	55.0
	25.9%	22.3%	27.3%	18.6%	5.9%	—	100.0%
29年度平均	13.0	11.8	13.0	12.8	2.0	1.0	52.5
	24.8%	22.4%	24.8%	24.3%	3.8%	—	100.0%
28年度平均	13.8	12.0	12.8	14.0	2.8	0.8	55.3
	24.9%	21.7%	23.1%	25.3%	5.0%	—	100.0%
27年度平均	13.3	12.0	13.5	15.0	2.3	0.5	56.0
	23.7%	21.4%	24.1%	26.8%	4.0%	—	100.0%
26年度平均	16.3	13.8	15.3	14.8	2.8	2.3	62.8
	25.9%	21.9%	24.3%	23.5%	4.4%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

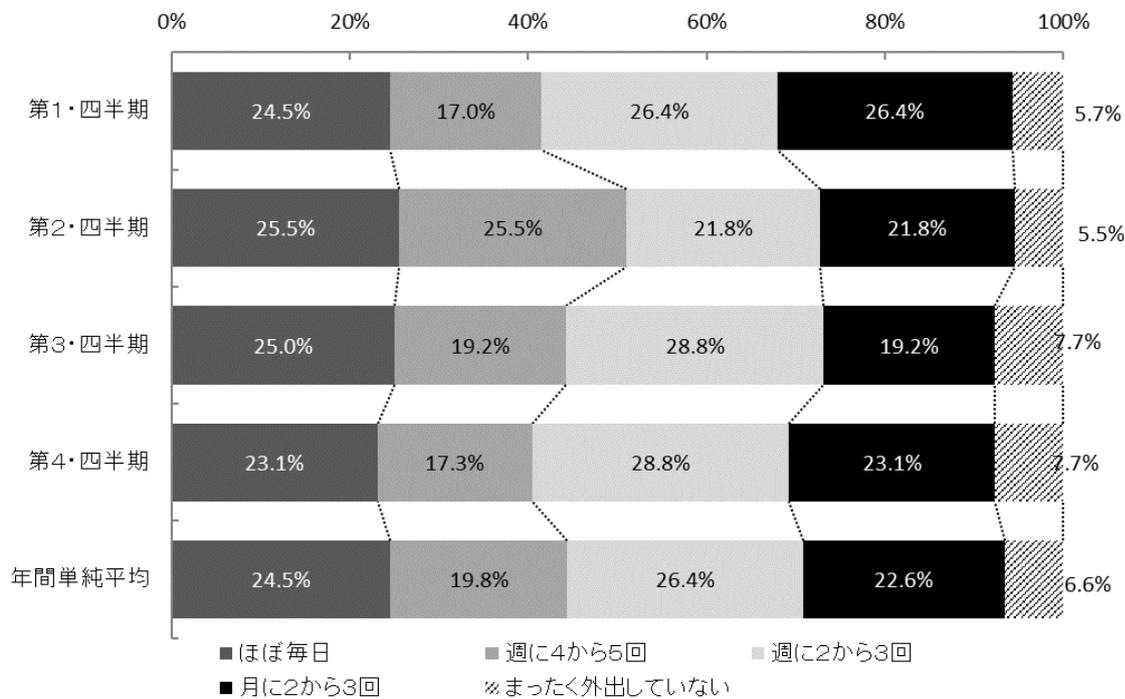


図 2-1 健康被害者の外出頻度の推移

①-1 外出に当たっての介助者

ア 第1・四半期（回答者 48人）

- 外出したとする人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表2-2及び図2-2のとおり（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が43.8%、「親」が29.2%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が27.1%、「子供」と「ボランティア」が22.9%、となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は35.4%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「病棟職員」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 50人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表2-2及び図2-2のとおり（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が44.0%、「親」が34.0%、「子供」が28.0%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は38.0%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「デイサービススタッフ」「盲導犬」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 46人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表2-2及び図2-2のとおり（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が47.8%、「子供」が32.6%、「ボランティア」が30.4%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は39.1%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「友人」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 46人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表2-2及び図2-2のとおり（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が47.8%、「親」が32.6%「ボランティア」が28.3%、「子供」が23.9%、となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は41.3%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「デイサービススタッフ」「盲導犬」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-2 及び図 2-2 のとおり（複数回答）。

- 外出時の主な介助者の年間の平均では「配偶者」が 45.8%、「親」が 31.1%、「子供」が 26.8%、「ボランティア」が 26.8%となっている
- 一方、「介助なし」で外出している人は 38.4%となっている

表 2-2 健康被害者の外出時の主たる介助者の推移

	介助なし	配偶者	親	子供	その他の家族	親戚	ホーム(ガイド)ヘルパー	隣人・知人	雇人	ボランティア	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	17	21	14	11	4	4	13	8	0	11	7	2	48
	35.4%	43.8%	29.2%	22.9%	8.3%	8.3%	27.1%	16.7%	0.0%	22.9%	14.6%	—	—
第2・四半期	19	22	17	14	6	3	13	10	1	13	5	2	50
	38.0%	44.0%	34.0%	28.0%	12.0%	6.0%	26.0%	20.0%	2.0%	26.0%	10.0%	—	—
第3・四半期	18	22	13	15	5	4	13	10	2	14	6	2	46
	39.1%	47.8%	28.3%	32.6%	10.9%	8.7%	28.3%	21.7%	4.3%	30.4%	13.0%	—	—
第4・四半期	19	22	15	11	7	3	10	7	1	13	6	2	46
	41.3%	47.8%	32.6%	23.9%	15.2%	6.5%	21.7%	15.2%	2.2%	28.3%	13.0%	—	—
年間単純平均	18.3	21.8	14.8	12.8	5.5	3.5	12.3	8.8	1.0	12.8	6.0	2.0	47.5
	38.4%	45.8%	31.1%	26.8%	11.6%	7.4%	25.8%	18.4%	2.1%	26.8%	12.6%	—	—
30年度平均	25.8	23.5	14.5	15.0	5.5	3.3	12.8	7.3	0.3	3.0	7.0	3.0	48.8
	52.8%	48.2%	29.7%	30.8%	11.3%	6.7%	26.2%	14.9%	0.5%	6.2%	14.4%	—	—
29年度平均	19.3	22.8	13.8	13.5	4.5	3.3	11.5	7.5	0.8	3.0	7.5	0.3	50.3
	38.3%	45.3%	27.4%	26.9%	9.0%	6.5%	22.9%	14.9%	1.5%	6.0%	14.9%	—	—
28年度平均	17.8	24.5	13.5	15.0	5.5	3.8	11.8	7.8	1.5	1.5	6.5	0.3	52.3
	34.0%	46.9%	25.8%	28.7%	10.5%	7.2%	22.5%	14.8%	2.9%	2.9%	12.4%	—	—
27年度平均	19.5	25.5	14.0	13.8	4.8	3.8	13.5	9.3	3.0	2.8	3.8	0.0	53.8
	36.3%	47.4%	26.0%	25.6%	8.8%	7.0%	25.1%	17.2%	5.6%	5.1%	7.0%	—	—
26年度平均	21.8	26.5	17.0	13.0	5.5	3.5	15.5	9.3	1.3	2.8	5.3	0.0	53.0
	41.0%	50.0%	32.1%	24.5%	10.4%	6.6%	29.2%	17.5%	2.4%	5.2%	9.9%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

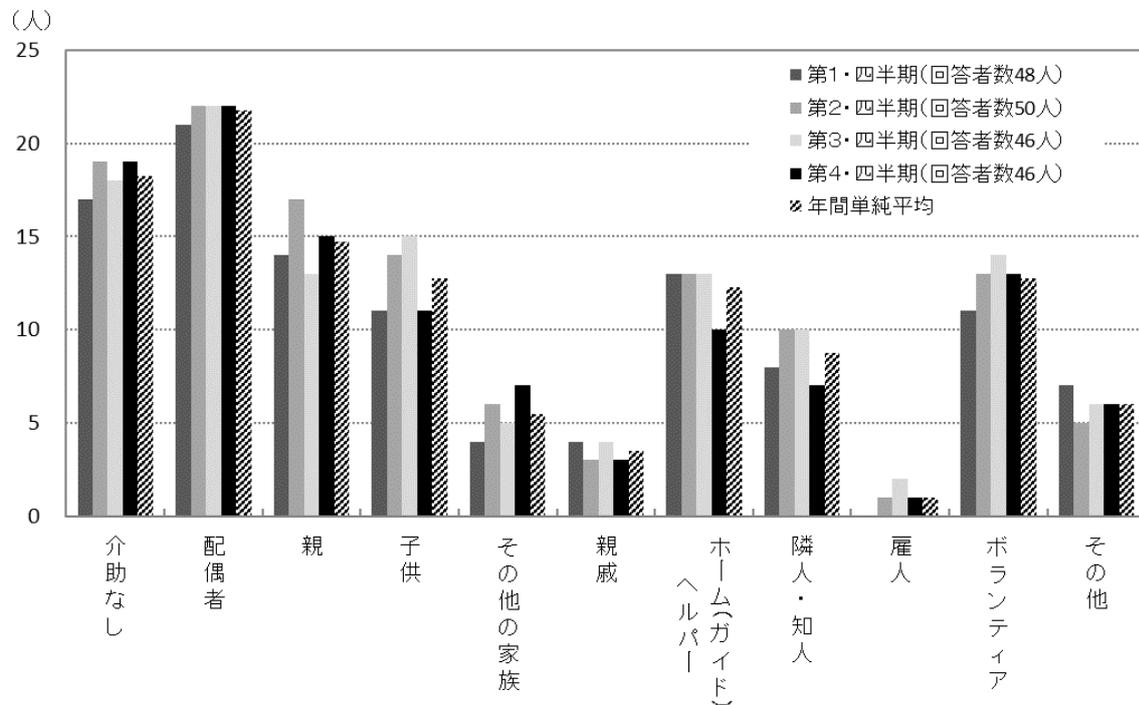


図 2-2 健康被害者の外出時の主たる介助者の推移

■ 外出に当たって困ること・不満に思うことについて

② 外出に当たって困ること・不満に思うことの有無

ア 第1・四半期（回答者 53 人）

○ 第1・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおり。

□ 88.7%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

イ 第2・四半期（回答者 54 人）

○ 第2・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおり。

□ 87.0%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

ウ 第3・四半期（回答者 52 人）

○ 第3・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおり。

□ 92.3%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

エ 第4・四半期（回答者 50 人）

○ 第4・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおり。

□ 88.0%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-3 及び図 2-3 のとおり。

□ 外出時に困ることや不満に思うことがあると回答した人は、年間の平均では、89.0%となっている

表 2-3 外出時の困難・不満の有無の推移

	困ることや 不満に思う ことがある	困ることや 不満に思う ことがない	回答なし	合 計
第1・四半期	47	6	2	53
	88.7%	11.3%	—	100.0%
第2・四半期	47	7	3	54
	87.0%	13.0%	—	100.0%
第3・四半期	48	4	2	52
	92.3%	7.7%	—	100.0%
第4・四半期	44	6	3	50
	88.0%	12.0%	—	100.0%
年間単純平均	46.5	5.8	2.5	52.3
	89.0%	11.0%	—	100.0%
30年度平均	46.0	5.3	3.8	51.3
	89.8%	10.2%	—	100.0%
29年度平均	47.5	5.0	1.0	52.5
	90.5%	9.5%	—	100.0%
28年度平均	47.8	6.3	2.0	54.0
	88.4%	11.6%	—	100.0%
27年度平均	47.5	6.5	2.5	54.0
	88.0%	12.0%	—	100.0%
26年度平均	51.8	9.5	3.8	61.3
	84.5%	15.5%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

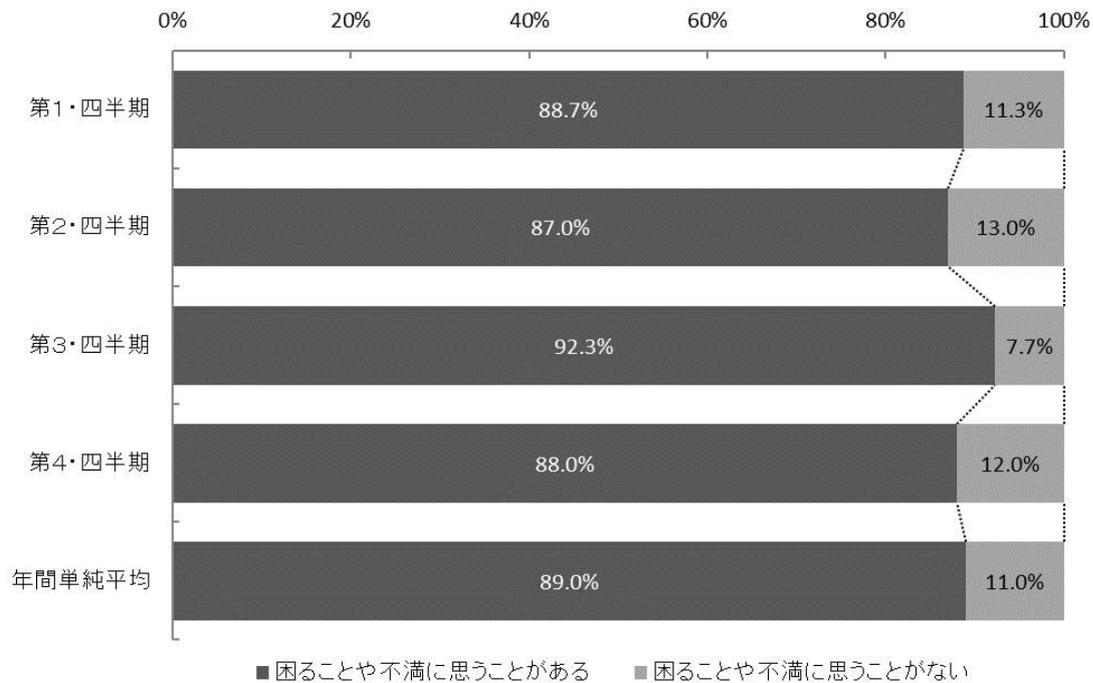


図 2-3 外出時の困難・不満の有無の推移

②-1 外出に当たって困ること・不満に思うこと

ア 第1・四半期（回答者 47人）

- 外出に当たって困ること・不満に思うことがあると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおり（複数回答）。
- 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が70.2%、「利用する建物の設備の利用が不便」が61.7%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」「道路や駅などの公共の場所の利用が不便」が44.7%となっている
- その他としては、「光がまぶしい」「対人恐怖症あり」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 47人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおり（複数回答）。
- 「利用する建物の設備の利用が不便」と「人の混雑や車に身の危険を感じる」が68.1%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が63.8%となっている
- その他としては、「本人が大きくなって、体重もふえ、かつぐのも大変になった。」「バリアフリートイレを使用しているのか悩む」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 48人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおり（複数回答）。
- 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が68.8%、「利用する建物の設備の利用が不便」が58.3%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が56.3%となっている
- その他としては、「道路等での段差が見辛い」「トイレの使い方が一定してないので困ることが多々ある」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 44人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおり（複数回答）。
- 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が65.9%、「利用する建物の設備の利用が不便」が61.4%、「道路や駅などの公共の場所の利用が不便」が59.1%となっている
- その他としては、「ウィルスや細菌がこわい」「盲導犬がいると入るのを嫌がられる」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-4 及び図 2-4 のとおり（複数回答）。

○ 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が 68.3%、「利用する建物の設備の利用が不便」が 62.4%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が 53.8%となっている

表 2-4 外出に当たって困ること・不満に思うことの推移

	介護者がいない	経費がかかる	人の目が気にかかる	人と話をすることが困難	外出に必要な情報が得られない	電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便	道路や駅などの公共の場所の利用が不便	利用する建物の設備の利用が不便	人の混雑や車に身の危険を感じる	駅などにおける人間関係のトラブル	その他	回答者数
第1・四半期	8	16	10	10	9	21	21	29	33	11	10	47
	17.0%	34.0%	21.3%	21.3%	19.1%	44.7%	44.7%	61.7%	70.2%	23.4%	21.3%	—
第2・四半期	11	15	9	9	9	30	24	32	32	13	5	47
	23.4%	31.9%	19.1%	19.1%	19.1%	63.8%	51.1%	68.1%	68.1%	27.7%	10.6%	—
第3・四半期	11	16	6	8	11	27	23	28	33	13	6	48
	22.9%	33.3%	12.5%	16.7%	22.9%	56.3%	47.9%	58.3%	68.8%	27.1%	12.5%	—
第4・四半期	9	14	8	8	8	22	26	27	29	11	8	44
	20.5%	31.8%	18.2%	18.2%	18.2%	50.0%	59.1%	61.4%	65.9%	25.0%	18.2%	—
年間単純平均	9.8	15.3	8.3	8.8	9.3	25.0	23.5	29.0	31.8	12.0	7.3	46.5
	21.0%	32.8%	17.7%	18.8%	19.9%	53.8%	50.5%	62.4%	68.3%	25.8%	15.6%	—
30年度平均	21.3	15.8	7.5	8.5	9.3	25.3	22.3	26.5	31.0	5.5	10.3	46.0
	46.2%	34.2%	16.3%	18.5%	20.1%	54.9%	48.4%	57.6%	67.4%	12.0%	22.3%	—
29年度平均	6.8	14.5	10.3	8.0	10.3	25.0	21.8	29.0	33.5	2.3	9.0	47.5
	14.2%	30.5%	21.6%	16.8%	21.6%	52.6%	45.8%	61.1%	70.5%	4.7%	18.9%	—
28年度平均	4.8	12.8	9.8	8.8	10.0	25.0	25.0	28.3	32.8	3.8	15.0	47.5
	9.9%	26.7%	20.4%	18.3%	20.9%	52.4%	52.4%	59.2%	68.6%	7.9%	31.4%	—
27年度平均	7.5	13.8	9.8	8.0	9.5	25.5	24.0	30.5	33.3	3.3	10.0	47.5
	15.8%	28.9%	20.5%	16.8%	20.0%	53.7%	50.5%	64.2%	70.0%	6.8%	21.1%	—
26年度平均	5.8	16.5	11.3	9.3	11.3	30.0	26.5	31.5	34.0	5.0	7.5	47.5
	12.1%	34.7%	23.7%	19.5%	23.7%	63.2%	55.8%	66.3%	71.6%	10.5%	15.8%	—

注：上段は人数、下段は割合

(人)

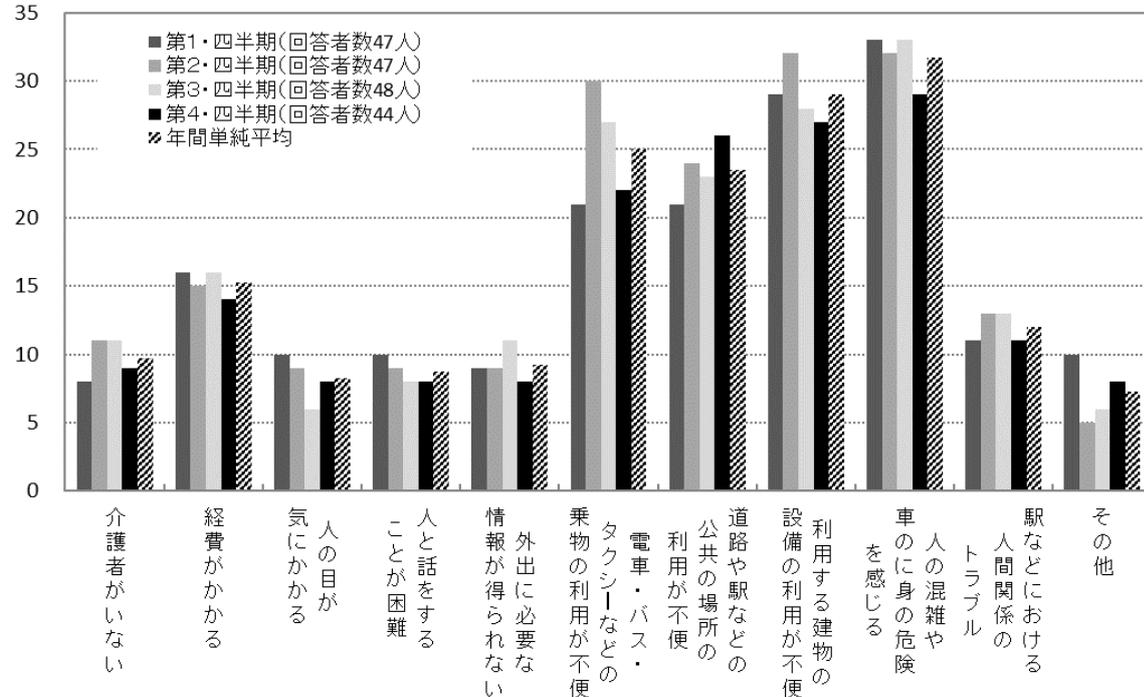


図 2-4 外出に当たって困ること・不満に思うことの推移

②-2 外出する上で工夫したこと【外出前の準備】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 39 人）

- 第1・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表 2-5 及び図 2-5 のとおり（複数回答）。
- 「予め、交通機関や経路について調べておく」が 76.9%、「コースを事前に決めておく」が 61.5%、「介助者を依頼する」が 59.0%となっている
- その他としては、「盲導犬同行」「サングラスと帽子」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 43 人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表 2-5 及び図 2-5 のとおり（複数回答）。
- 「予め、交通機関や経路について調べておく」が 76.7%、「コースを事前に決めておく」が 58.1%、「介助者を依頼する」が 46.5%となっている
- その他としては、「予め家族に言うておく。」「自家用車（だけの外出のみ）その他の所へはでかけない」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 42 人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表 2-5 及び図 2-5 のとおり（複数回答）。
- 「予め、交通機関や経路について調べておく」が 83.3%、「介助者を依頼する」が 57.1%、「コースを事前に決めておく」が 52.4%となっている
- その他としては、「車イスがあるトイレ場所を事前に確認しておく」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 38 人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表 2-5 及び図 2-5 のとおり（複数回答）。
- 「予め、交通機関や経路について調べておく」が 76.3%、「コースを事前に決めておく」が 57.9%、「介助者を依頼する」が 50.0%となっている
- その他としては、「親、姉、友人の車を依頼する」「介護トイレのある所のみ」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-5及び図2-5のとおり（複数回答）。

□ 外出する上で工夫した「外出前の準備」の年間の平均では「予め、交通機関や経路について調べておく」が78.4%、「コースを事前に決めておく」が57.4%、「介助者を依頼する」が53.1%となっている

表2-5 外出する上で工夫したこと【外出前の準備】の推移

	予め、 交通機関や 経路について 調べておく	介助者を 依頼する	コースを 事前に 決めておく	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	30 76.9%	23 59.0%	24 61.5%	4 10.3%	8 —	39 —
第2・四半期	33 76.7%	20 46.5%	25 58.1%	3 7.0%	7 —	43 —
第3・四半期	35 83.3%	24 57.1%	22 52.4%	1 2.4%	6 —	42 —
第4・四半期	29 76.3%	19 50.0%	22 57.9%	3 7.9%	9 —	38 —
年間単純平均	31.8 78.4%	21.5 53.1%	23.3 57.4%	2.8 6.8%	7.5 —	40.5 —
30年度平均	32.5 74.7%	22.5 51.7%	24.5 56.3%	3.0 6.9%	4.5 —	43.5 —
29年度平均	31.8 77.9%	15.8 38.7%	23.0 56.4%	3.5 8.6%	7.0 —	40.8 —
28年度平均	31.8 80.9%	17.3 43.9%	21.0 53.5%	2.8 7.0%	8.5 —	39.3 —

注：上段は人数、下段は割合

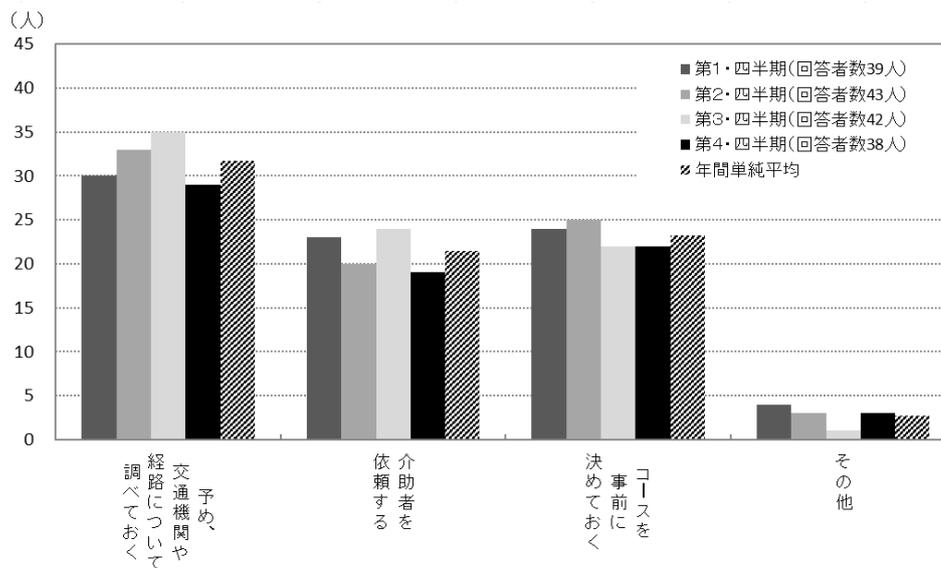


図2-5 外出する上で工夫したこと【外出前の準備】の推移

②-2 外出する上で工夫したこと【服装・持ち物】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 43 人）

- 第1・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表2-6及び図2-6のとおり（複数回答）
 - 「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が 88.4%、「白杖の使用」が 69.8%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が 58.1%となっている
 - その他としては、「同行者と手をつなぐ」「携帯ラジオ」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 44 人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表2-6及び図2-6のとおり（複数回答）
 - 「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が 81.8%、「白杖の使用」が 68.2%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が 63.6%となっている
 - その他としては、「盲導犬同拌」「マスクやのどあめ、目薬」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 42 人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表2-6及び図2-6のとおり（複数回答）
 - 「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が 88.1%、「白杖の使用」が 69.0%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が 54.8%となっている
 - その他としては、「小さなカート」「肩掛ケカバン」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 42 人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表2-6及び図2-6のとおり（複数回答）
 - 「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が 83.3%、「白杖の使用」が 66.7%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が 54.8%となっている
 - その他としては、「滑りにくく歩きやすい靴、飲み物を持参」「マスク、エタノール、ケータイ」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-6及び図2-6のとおり（複数回答）。

□ 外出する上で工夫した「服装・持ち物」の年間の平均では「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が85.4%、「白杖の使用」が68.4%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が57.9%、「目立つ服装」が30.4%となっている

表2-6 外出する上で工夫したこと【服装・持ち物】の推移

	目立つ服装	目の保護のためサングラス、帽子を着用	白杖の使用	両手が使えるよう、リュックサックを使用	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	15	38	30	25	4	4	43
	34.9%	88.4%	69.8%	58.1%	9.3%	—	—
第2・四半期	11	36	30	28	5	6	44
	25.0%	81.8%	68.2%	63.6%	11.4%	—	—
第3・四半期	12	37	29	23	7	6	42
	28.6%	88.1%	69.0%	54.8%	16.7%	—	—
第4・四半期	14	35	28	23	6	5	42
	33.3%	83.3%	66.7%	54.8%	14.3%	—	—
年間単純平均	13.0	36.5	29.3	24.8	5.5	5.3	42.8
	30.4%	85.4%	68.4%	57.9%	12.9%	—	—
30年度平均	13.3	35.5	32.0	26.3	5.0	3.8	44.3
	29.9%	80.2%	72.3%	59.3%	11.3%	—	—
29年度平均	13.8	36.0	29.3	25.0	8.3	4.3	43.5
	31.6%	82.8%	67.2%	57.5%	19.0%	—	—
28年度平均	11.5	36.5	29.5	23.0	7.5	4.8	43.0
	26.7%	84.9%	68.6%	53.5%	17.4%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

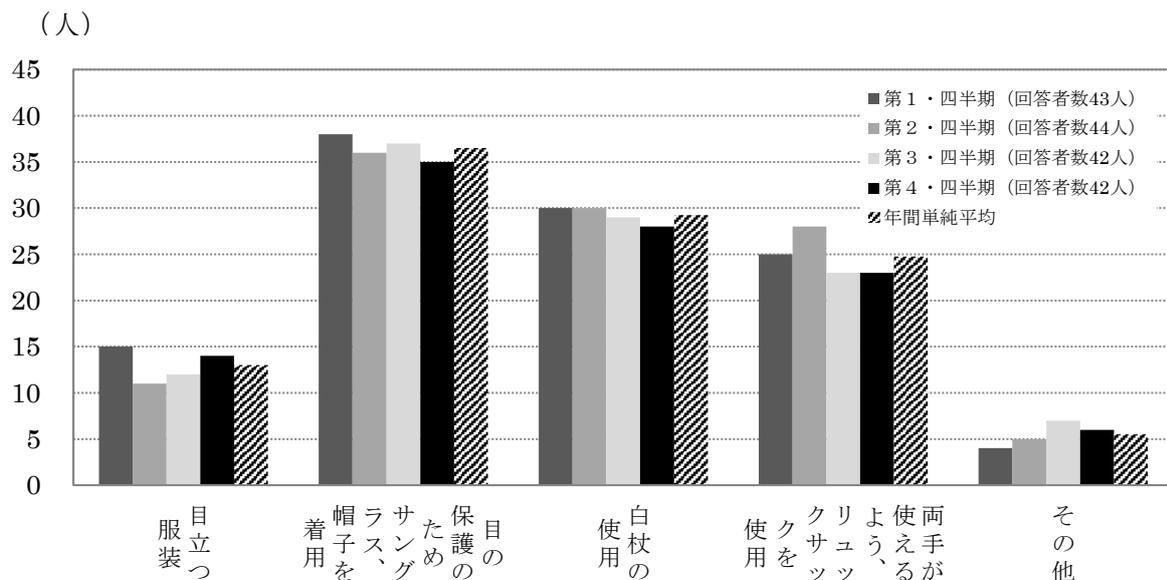


図2-6 外出する上で工夫したこと【服装・持ち物】の推移

②-2 外出する上で工夫したこと【移動手段】（SJSの健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者46人）

- 第1・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表2-7及び図2-7のとおり（複数回答）
 - 「公共交通機関を利用」が73.9%、「自家用車を利用」が65.2%、「介護タクシーを利用」が8.7%となっている
 - その他としては、「タクシー」「徒歩」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者48人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表2-7及び図2-7のとおり（複数回答）
 - 「公共交通機関を利用」が75.0%、「自家用車を利用」が68.8%、「介護タクシーを利用」が8.3%となっている
 - その他としては、「タクシー」「日常のおつかいは徒歩」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者45人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表2-7及び図2-7のとおり（複数回答）
 - 「公共交通機関を利用」が77.8%、「自家用車を利用」が66.7%、「介護タクシーを利用」が6.7%となっている
 - その他としては、「タクシー」「徒歩」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者46人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表2-7及び図2-7のとおり（複数回答）
 - 「公共交通機関を利用」が69.6%、「自家用車を利用」が60.9%、「介護タクシーを利用」が13.0%となっている
 - その他としては、「タクシー」「徒歩」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-7及び図2-7のとおり（複数回答）。
 - 外出する上で工夫した「移動手段」の年間の平均では「公共交通機関を利用」が74.1%、「自家用車を利用」が65.4%、「介護タクシーを利用」が9.2%となっている

表 2-7 外出する上で工夫したこと【移動手段】の推移

	自家用車 を利用	介護タクシー を利用	公共交通機関 を利用	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	30	4	34	3	1	46
	65.2%	8.7%	73.9%	6.5%	—	—
第2・四半期	33	4	36	6	2	48
	68.8%	8.3%	75.0%	12.5%	—	—
第3・四半期	30	3	35	7	3	45
	66.7%	6.7%	77.8%	15.6%	—	—
第4・四半期	28	6	32	4	1	46
	60.9%	13.0%	69.6%	8.7%	—	—
年間単純平均	30.3	4.3	34.3	5.0	1.8	46.3
	65.4%	9.2%	74.1%	10.8%	—	—
30年度平均	30.5	5.0	34.8	4.8	7.0	41.0
	74.4%	12.2%	84.8%	11.6%	—	—
29年度平均	29.0	5.8	33.5	7.3	2.0	45.8
	63.4%	12.6%	73.2%	15.8%	—	—
28年度平均	29.3	4.3	34.3	5.0	2.0	45.8
	63.9%	9.3%	74.9%	10.9%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

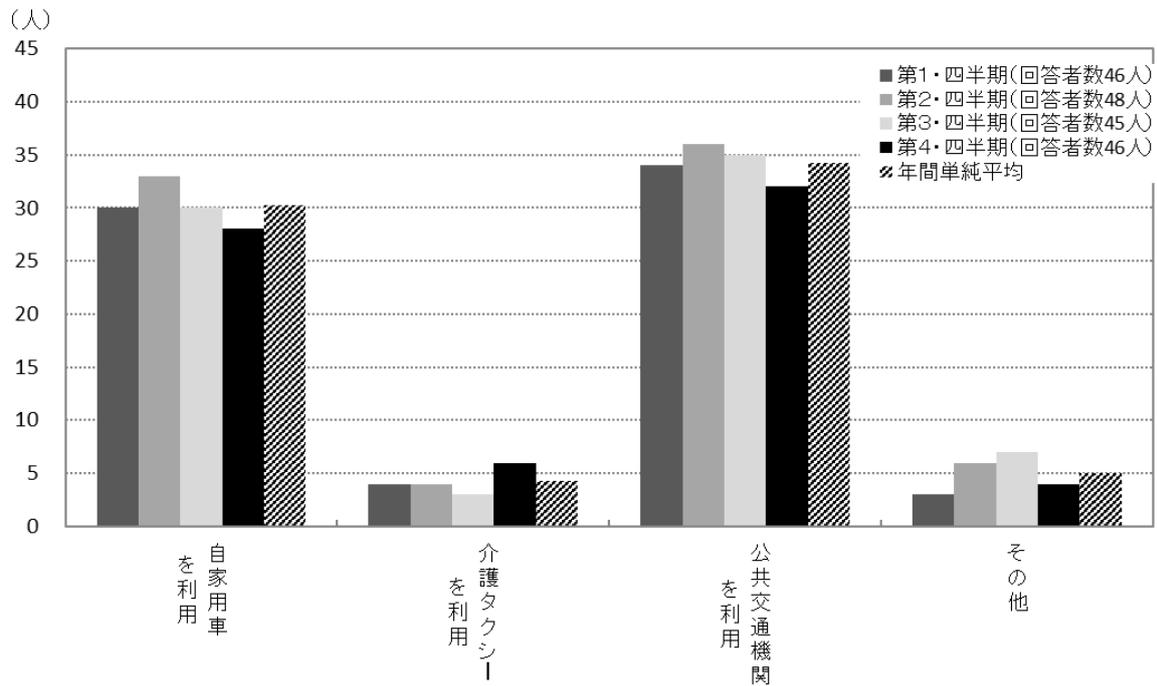


図 2-7 外出する上で工夫したこと【移動手段】の推移

②-2 外出する上で工夫したこと

○本人または介護者にたずねた外出する上で工夫したことの主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ JR利用の際は手引きをJRの方をお願いしている
- ・ 暑さ対策のためアイスノン、扇風機を持って行く。
- ・ オムツ以外の工夫は特になし。
- ・ 公衆トイレも広いところがないところもあるのでパッドは2重にしておく。
- ・ 時間帯を考える。
- ・ すべりにくいくつ
- ・ タクシーすぐにt e lしても来てくれないので早めに連絡しておく
- ・ ツアー旅行の申し込み時に状況を説明してバスの席位置に配慮してもらった
- ・ つまづかない様、歩きやすいくつ
- ・ トイレ入っても、1人ではかたげない為パットを二重にしたりしている。
- ・ なるべく荷物を小さくする（人にぶつかるから）
- ・ 人の少ない時間帯を選んで行く。
- ・ ヘルプマークをつけている
- ・ ポケットのついているズボンや服を着て目薬の出し入れをしやすくする。
- ・ 何をやるにも動作に時間がかかりますので余裕をもった時間配分を心がける
- ・ 滑りにくく歩きやすい靴、飲み物持参（出先で買うのが難しい）、マスク着用（呼吸器の保護、加湿、感染症予防）
- ・ 時間を充分にとり何事もゆっくり行動する。駅の階段等は前の人足元をみながら歩く
- ・ 出かける用事によって娘の車に乗せてもらったり、色々あります
- ・ 盲導犬使用

■ 社会参加や社会活動について

③ 社会参加・社会活動等の状況

ア 第1・四半期（回答者 54 人）

- 第1・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-8 及び図 2-8 のとおり。
- 社会参加や社会活動などを行っている人が 70.4%、行っていない人が 29.6%となっている

イ 第2・四半期（回答者 56 人）

- 第2・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-8 及び図 2-8 のとおり。
- 社会参加や社会活動などを行っている人が 71.4%、行っていない人が 28.6%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 52 人）

- 第3・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-8 及び図 2-8 のとおり。
- 社会参加や社会活動などを行っている人が 67.3%、行っていない人が 32.7%となっている

エ 第4・四半期（回答者 51 人）

- 第4・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-8 及び図 2-8 のとおり。
- 社会参加や社会活動などを行っている人が 58.8%、行っていない人が 41.2%となっている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-8 及び図 2-8 のとおり。
- 社会参加や社会活動などを行っている人と行っていない人の割合は、年間の平均では、行っている人が 67.1%、行っていない人が 32.9%となっている

表 2-8 社会参加・社会活動等の状況の推移

	参加(活動)した	まったくしていない	回答なし	合計
第1・四半期	38	16	1	54
	70.4%	29.6%	—	100.0%
第2・四半期	40	16	1	56
	71.4%	28.6%	—	100.0%
第3・四半期	35	17	2	52
	67.3%	32.7%	—	100.0%
第4・四半期	30	21	2	51
	58.8%	41.2%	—	100.0%
年間単純平均	35.8	17.5	1.5	53.3
	67.1%	32.9%	—	100.0%
30年度平均	39.0	14.3	1.8	53.3
	73.2%	26.8%	—	100.0%
29年度平均	38.3	15.3	0.0	53.5
	71.5%	28.5%	—	100.0%
28年度平均	38.0	16.8	1.3	54.8
	69.4%	30.6%	—	100.0%
27年度平均	37.3	18.5	0.8	55.8
	66.8%	33.2%	—	100.0%
26年度平均	40.5	21.0	3.5	61.5
	65.9%	34.1%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

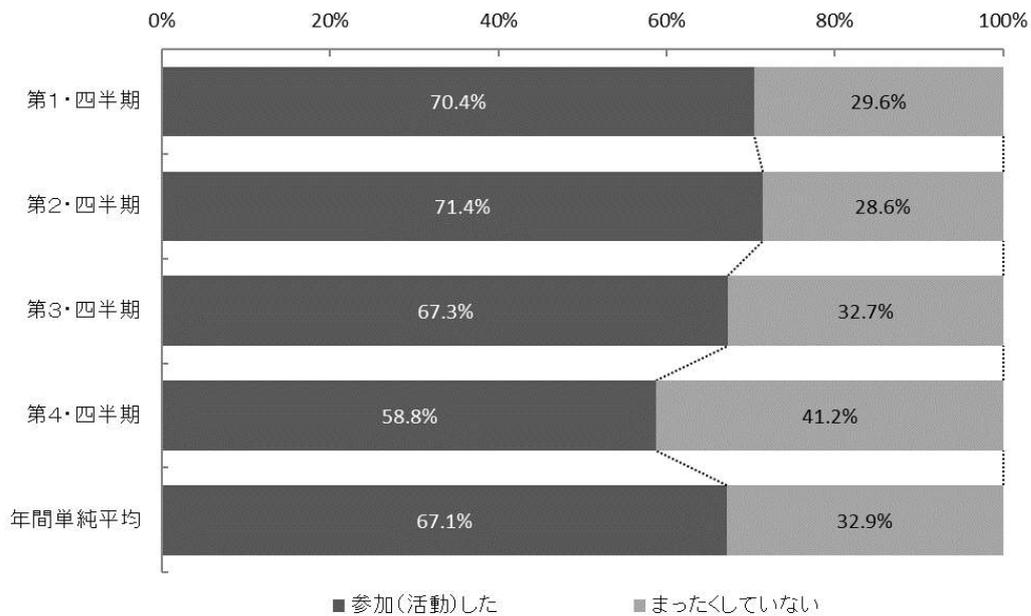


図 2-8 社会参加・社会活動等の状況の推移

③-1 社会参加・社会活動等をしなかった理由（SJSの健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者10人）

- 社会参加や社会活動などを行っていないと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。
第1・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-9及び図2-9のとおり（複数回答）。
- 「体力的に余裕なし」が100.0%、「介助なし」が30.0%、「時間的・経済的余裕なし」が10.0%となっている
- その他としては、「適当な活動が集団にない」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者10人）

- 第2・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-9及び図2-9のとおり（複数回答）。
- 「体力的に余裕なし」が60.0%、「介助なし」が30.0%、「時間的・経済的余裕なし」が20.0%となっている
- その他としては、「目がみえないから不自由」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者15人）

- 第3・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-9及び図2-9のとおり（複数回答）。
- 「体力的に余裕なし」が46.7%、「介助なし」が26.7%、「時間的・経済的余裕なし」が6.7%となっている
- その他としては、「気分がよくない。」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者12人）

- 第4・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-9及び図2-9のとおり（複数回答）。
- 「体力的に余裕なし」が58.3%、「介助なし」と「時間的・経済的余裕なし」が16.7%となっている
- その他としては、「コロナウイルスの為」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-9及び図2-9のとおり（複数回答）。
社会参加や社会活動などを行わなかった理由の年間の平均では「体力的に余裕なし」が63.8%、「介助なし」が25.5%、「時間的・経済的余裕なし」が12.8%となっている

表 2-9 社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

	介助なし	時間的・経済的 余裕なし	体力的に 余裕なし	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	3 30.0%	1 10.0%	10 100.0%	5 50.0%	0	10
第2・四半期	3 30.0%	2 20.0%	6 60.0%	6 60.0%	1	10
第3・四半期	4 26.7%	1 6.7%	7 46.7%	4 26.7%	4	15
第4・四半期	2 16.7%	2 16.7%	7 58.3%	7 58.3%	1	12
年間単純平均	3.0 25.5%	1.5 12.8%	7.5 63.8%	5.5 46.8%	1.5	11.8
30年度平均	3.5 29.8%	1.0 8.5%	5.3 44.7%	1.3 10.6%	3.8	11.8
29年度平均	2.5 21.3%	2.0 17.0%	3.8 31.9%	3.0 25.5%	3.0	11.8
28年度平均	1.3 10.6%	2.8 23.4%	2.0 17.0%	5.8 48.9%	2.8	11.8

注：上段は人数、下段は割合

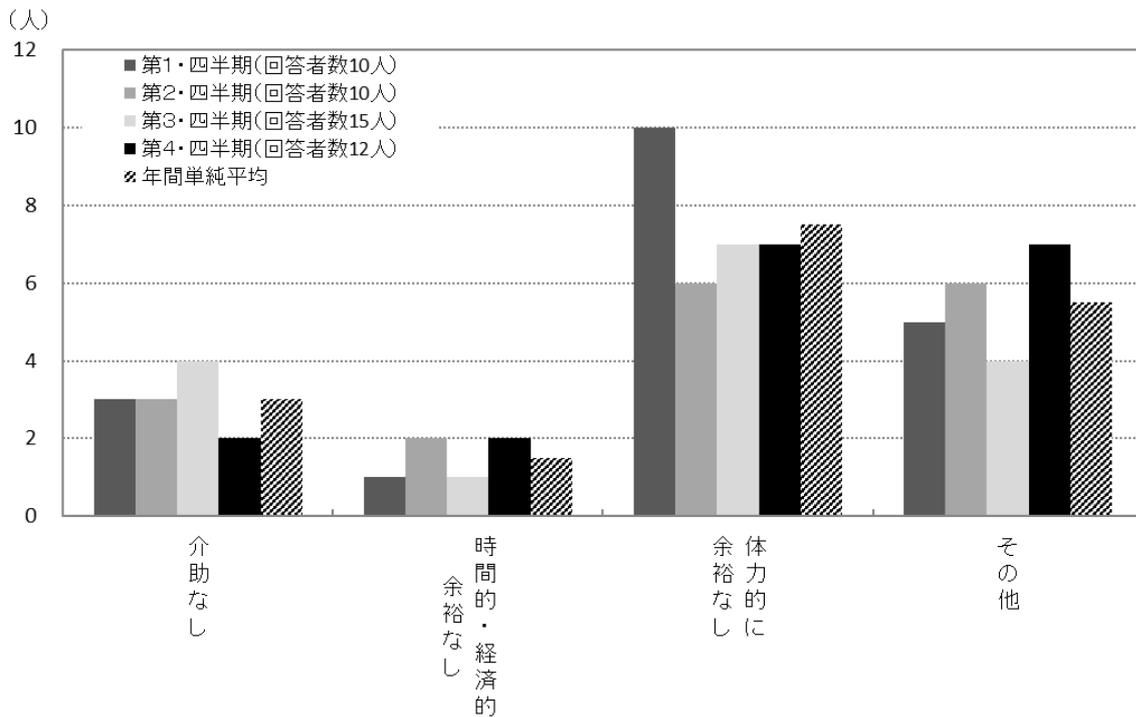


図 2-9 社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

③-2 社会参加・社会活動等のきっかけ（SJSの健康被害者の方のみに質問）

○本人または介護者にたずねた社会参加・社会活動等のきっかけの主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

1. 家族、親類
 - ・ 孫に心配ないからと言われて思いきって旅行に行った
 - ・ 家族の勧めがあった
2. 友人、知人等
 - ・ 視覚障害になる前の友人知人が誘ってくれる
 - ・ 友人、知人がさそってくれる
3. 患者団体、同好会等
 - ・ 興味のある講習会・勉強会があったため
 - ・ S J S患者の会
4. 情報誌や広告等
 - ・ 自治体の公報
 - ・ 市の身障者協会イベント
7. 自発的な活動
 - ・ 身心の健康のため
 - ・ 出来るだけ生活を豊かに楽しみたい
 - ・ 時間的・経済的余裕があったから
 - ・ パソコン、散歩、買い物
 - ・ 体力不足になってるので
 - ・ もともと好きだから
 - ・ 運動になるし、楽しいから
 - ・ 身体的・精神的両者の健康保持、増進のため

③-3 社会参加・社会活動等の内容

ア 第1・四半期（回答者 38人）

- 社会参加や社会活動などを行ったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10及び図2-10のとおり（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」と「旅行・キャンプ・つりなどの活動」と「障害者団体の活動」が36.8%、「趣味の同好会活動」と「友達との遊び」が28.9%となっている
- その他としては、「通所施設での娯楽」「学校で遠足」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 40人）

- 第2・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10及び図2-10のとおり（複数回答）。
- 「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が47.5%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が45.0%、「友達との遊び」が42.5%、「障害者団体の活動」が35.0%となっている
- その他としては、「食事会」「学生時代の友人宅を訪ねる。墓参り」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 34人）

- 第3・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10及び図2-10のとおり（複数回答）。
- 「友達との遊び」が47.1%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」と「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が41.2%、「障害者団体の活動」と「パソコンを利用した社会参加」が35.3%となっている
- その他としては、「家族での月に何度かの外食」「陶芸教室」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 30人）

- 第4・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10及び図2-10のとおり（複数回答）。
- 「友達との遊び」が40.0%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」と「障害者団体の活動」が36.7%、「スポーツ教室、大会などへの参加」と「趣味の同好会活動」と「パソコンを利用した社会参加」が30.0%となっている
- その他としては、「盲導犬（小学校）の紹介等」「講習会」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-10及び図2-10のとおり（複数回答）。

□ 社会参加・社会活動などの内容の年間の平均では「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が40.1%、と「友達との遊び」が39.4%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が37.3%となっている

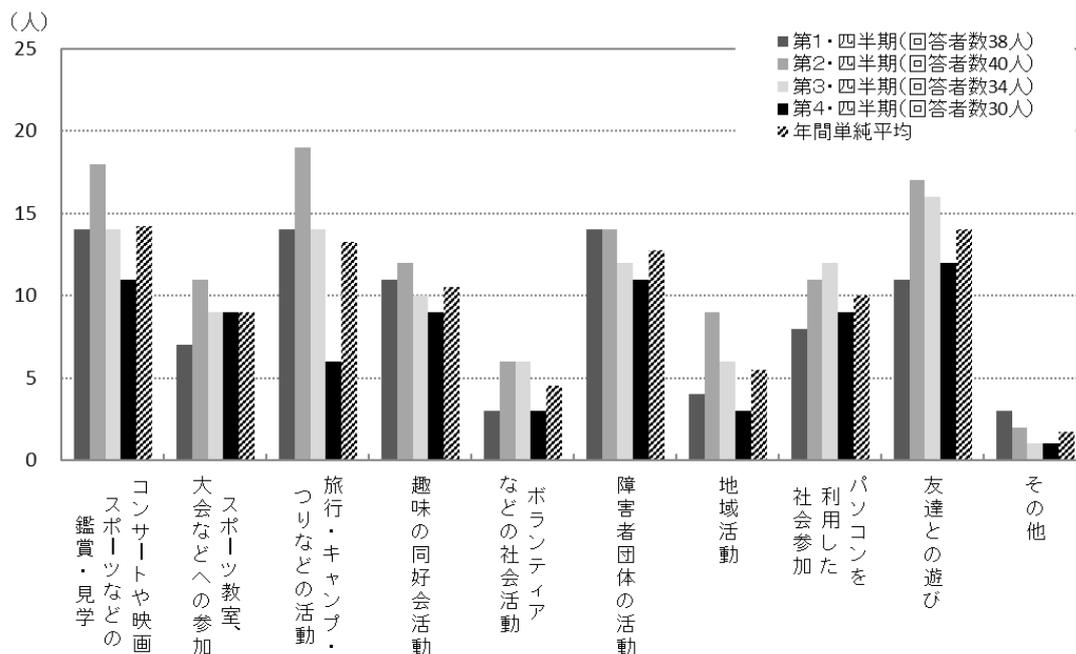
□

表2-10 社会参加・社会活動等の内容の推移

	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	スポーツ教室、大会などへの参加	旅行・キャンプ・つりなどの活動	趣味の同好会活動	ボランティアなどの社会活動	障害者団体の活動	地域活動	パソコンを利用した社会参加	友達との遊び	その他	特になし	回答なし	回答者数
第1・四半期	14	7	14	11	3	14	4	8	11	3	0	0	38
	36.8%	18.4%	36.8%	28.9%	7.9%	36.8%	10.5%	21.1%	28.9%	7.9%	0.0%	—	—
第2・四半期	18	11	19	12	6	14	9	11	17	2	0	0	40
	45.0%	27.5%	47.5%	30.0%	15.0%	35.0%	22.5%	27.5%	42.5%	5.0%	0.0%	—	—
第3・四半期	14	9	14	10	6	12	6	12	16	1	0	1	34
	41.2%	26.5%	41.2%	29.4%	17.6%	35.3%	17.6%	35.3%	47.1%	2.9%	0.0%	—	—
第4・四半期	11	9	6	9	3	11	3	9	12	1	0	0	30
	36.7%	30.0%	20.0%	30.0%	10.0%	36.7%	10.0%	30.0%	40.0%	3.3%	0.0%	—	—
年間単純平均	14.3	9.0	13.3	10.5	4.5	12.8	5.5	10.0	14.0	1.8	—	0.3	35.5
	40.1%	25.4%	37.3%	29.6%	12.7%	35.9%	15.5%	28.2%	39.4%	4.9%	—	—	—
30年度平均	21.3	8.8	15.0	10.5	4.0	15.0	5.0	9.5	13.8	5.5	—	6.3	32.0
	66.4%	27.3%	46.9%	32.8%	12.5%	46.9%	15.6%	29.7%	43.0%	17.2%	—	—	—
29年度平均	15.0	6.8	13.8	12.0	3.5	11.8	4.5	8.8	15.0	6.0	—	0.0	38.3
	39.2%	17.6%	35.9%	31.4%	9.2%	30.7%	11.8%	22.9%	39.2%	15.7%	—	—	—
28年度平均	15.0	5.3	13.3	11.5	4.0	13.3	4.5	8.0	13.3	7.5	—	0.0	38.0
	39.5%	13.8%	34.9%	30.3%	10.5%	34.9%	11.8%	21.1%	34.9%	19.7%	—	—	—
27年度平均	15.3	7.3	14.0	10.0	4.3	12.3	3.0	8.0	0.8	7.3	0.0	0.0	37.3
	40.9%	19.5%	37.6%	26.8%	11.4%	32.9%	8.1%	21.5%	2.0%	19.5%	0.0%	—	—
26年度平均	14.3	7.3	15.3	9.8	4.3	12.5	2.0	9.0	1.3	6.0	0.0	0.3	40.3
	35.4%	18.0%	37.9%	24.2%	10.6%	31.1%	5.0%	22.4%	3.1%	14.9%	0.0%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

図2-10 社会参加・社会活動等の内容の推移



■ 屋内での生活における工夫について

④ 屋内での生活における工夫の有無（SJSの健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者40人）

○第1・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表2-11及び図2-11のとおり。

□屋内での生活に工夫がある人が90.0%、工夫がない人が10.0%となっている

イ 第2・四半期（回答者46）

○第2・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表2-11及び図2-11のとおり。

□屋内での生活に工夫がある人が87.0%、工夫がない人が13.0%となっている

ウ 第3・四半期（回答者45人）

○第3・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表2-11及び図2-11のとおり。

□屋内での生活に工夫がある人が93.3%、工夫がない人が6.7%となっている

エ 第4・四半期（回答者44人）

○第4・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表2-11及び図2-11のとおり。

□屋内での生活に工夫がある人が88.6%、工夫がない人が11.4%となっている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-11及び図2-11のとおり。

□屋内での生活の工夫の有無の割合は、年間の平均では、工夫がある人が89.7%、ない人が10.3%となっている

表 2-11 屋内での生活における工夫の有無の推移

	ある	ない	回答なし	合計
第1・四半期	36	4	7	40
	90.0%	10.0%	—	100.0%
第2・四半期	40	6	4	46
	87.0%	13.0%	—	100.0%
第3・四半期	42	3	3	45
	93.3%	6.7%	—	100.0%
第4・四半期	39	5	3	44
	88.6%	11.4%	—	100.0%
年間単純平均	39.3	4.5	4.3	43.8
	89.7%	10.3%	—	100.0%
30年度平均	44.0	2.3	8.8	46.3
	95.1%	4.9%	—	100.0%
29年度平均	44.8	2.0	1.0	46.8
	95.7%	4.3%	—	100.0%
28年度平均	39.0	4.3	5.3	43.3
	90.2%	9.8%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

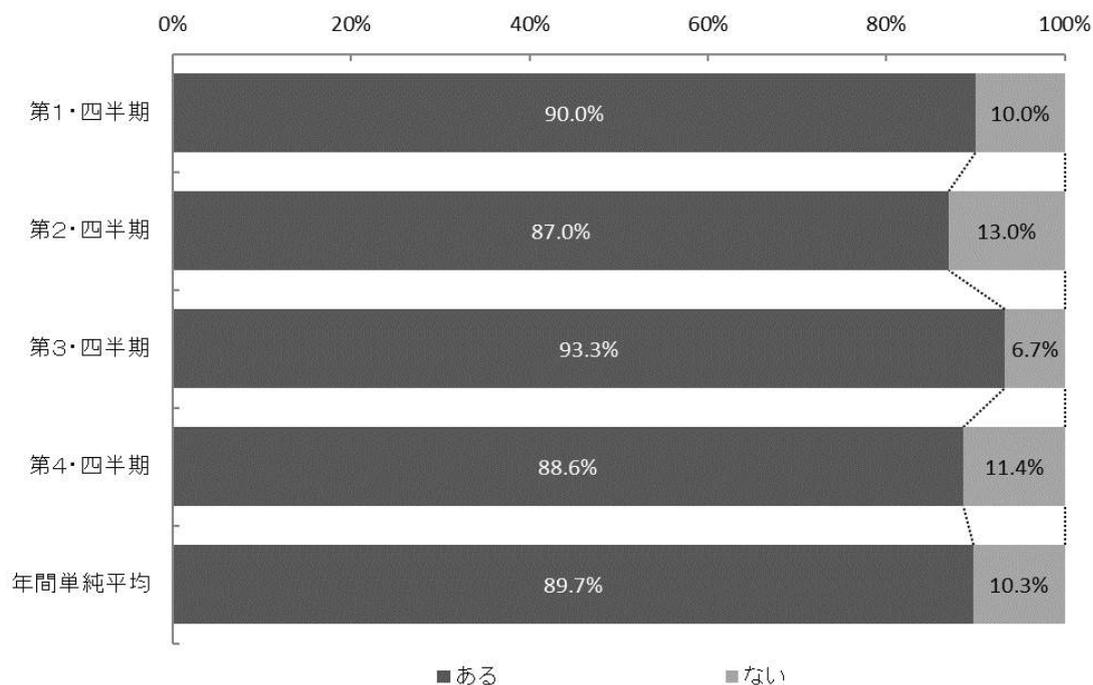


図 2-11 屋内での生活における工夫の有無の推移

④-1 屋内での生活における工夫【家のつくり等】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 35 人）

- 屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表2-12及び図2-12のとおり（複数回答）。
- 「よく使う物は同じ場所に置く」が94.3%、「通路や床に物を置かない」が74.3%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が45.7%、「段差がないように敷物などで調整」が25.7%となっている
- その他としては、「手すりの設置」「AIスピーカーと連動させて使用できる音声指示」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 39 人）

- 第2・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表2-12及び図2-12のとおり（複数回答）。
- 「よく使う物は同じ場所に置く」が97.4%、「通路や床に物を置かない」が79.5%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が46.2%、「段差がないように敷物などで調整」が17.9%となっている
- その他としては、「常に台風や災害等の時は貴重品等リスクにつめ近所の人に同行してもらうように頼んでいる」「明りをつけたままにする」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 41 人）

- 第3・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表2-12及び図2-12のとおり（複数回答）。
- 「よく使う物は同じ場所に置く」が95.1%、「通路や床に物を置かない」が80.5%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が39.0%、「段差がないように敷物などで調整」が22.0%となっている
- その他としては、「家電製品でよく使う機能ボタンに点字シールをつけておく」「階段の数を必ず数える」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 38 人）

- 第4・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表2-12及び図2-12のとおり（複数回答）。
- 「よく使う物は同じ場所に置く」が100.0%、「通路や床に物を置かない」が76.3%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が39.5%、「段差がないように敷物などで調整」が26.3%となっている
- その他としては、「部屋、廊下等は常に照りをつけて置く」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-12及び図2-12のとおり（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容の年間の平均では「よく使う物は同じ場所に置く」が96.7%、「通路や床に物を置かない」が77.8%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が42.5%、「段差がないように敷物などで調整」が22.9%となっている

表2-12 屋内での生活における工夫【家のつくり等】の推移

	通路や床に物を置かない	よく使う物は同じ場所に置く	段差がないように敷物などで調整	移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	26	33	9	16	6	1	35
	74.3%	94.3%	25.7%	45.7%	17.1%	—	—
第2・四半期	31	38	7	18	3	1	39
	79.5%	97.4%	17.9%	46.2%	7.7%	—	—
第3・四半期	33	39	9	16	8	1	41
	80.5%	95.1%	22.0%	39.0%	19.5%	—	—
第4・四半期	29	38	10	15	3	1	38
	76.3%	100.0%	26.3%	39.5%	7.9%	—	—
年間単純平均	29.8	37.0	8.8	16.3	5.0	1.0	38.3
	77.8%	96.7%	22.9%	42.5%	13.1%	—	—
30年度平均	32.0	41.3	9.3	18.0	7.0	1.5	42.5
	75.3%	97.1%	21.8%	42.4%	16.5%	—	—
29年度平均	34.3	40.8	11.0	16.8	6.5	2.0	42.8
	80.1%	95.3%	25.7%	39.2%	15.2%	—	—
28年度平均	31.8	36.3	9.0	12.5	5.0	1.0	38.0
	83.6%	95.4%	23.7%	32.9%	13.2%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

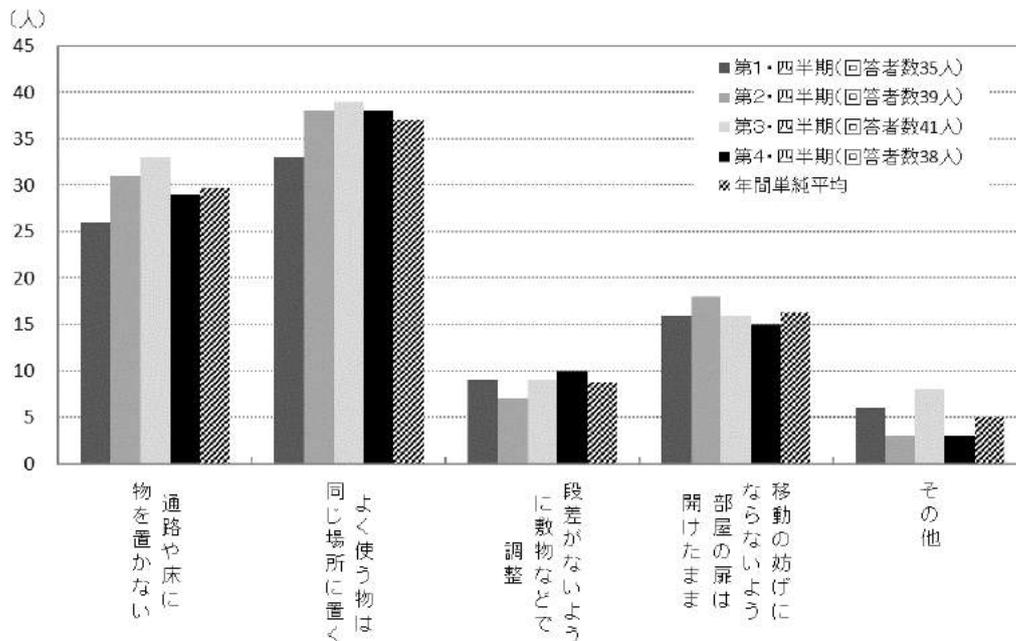


図2-12 屋内での生活における工夫【家のつくり等】の推移

④-1 屋内での生活における工夫【補助用具等】（SJSの健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 35人）

○屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表2-13及び図2-13のとおり（複数回答）。

- 「音声ガイドや朗読サービスの活用」が60.0%、「拡大読書器・ルーペの活用」が54.3%となっている
- その他としては、「ラジオを活用」「音声パソコン」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 38人）

○第2・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表2-13及び図2-13のとおり（複数回答）。

- 「拡大読書器・ルーペの活用」が55.3%、「音声ガイドや朗読サービスの活用」が52.6%となっている
- その他としては、「スマホ」「音訳ボランティア利用」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 37人）

○第3・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表2-13及び図2-13のとおり（複数回答）。

- 「音声ガイドや朗読サービスの活用」が64.9%、「拡大読書器・ルーペの活用」が56.8%となっている
- その他としては、「読み上げソフト」「スマホ」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 38人）

○第4・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表2-13及び図2-13のとおり（複数回答）。

- 「音声ガイドや朗読サービスの活用」が71.1%、「拡大読書器・ルーペの活用」が57.9%となっている
- その他としては、「各種AIスピーカーで利用できる地方局の番組聴取」「音声ウォッチ（腕時計・置き時計）」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-13及び図2-13のとおり（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容の年間の平均では「音声ガイドや朗読サービスの活用」が62.2%、「拡大読書器・ルーペの活用」が56.1%となっている

表2-13 屋内での生活における工夫【補助用具等】の推移

	拡大読書器・ ルーペの活用	音声ガイドや 朗読サービスの 活用	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	19 54.3%	21 60.0%	8 22.9%	1 —	35 —
第2・四半期	21 55.3%	20 52.6%	5 13.2%	2 —	38 —
第3・四半期	21 56.8%	24 64.9%	9 24.3%	5 —	37 —
第4・四半期	22 57.9%	27 71.1%	5 13.2%	1 —	38 —
年間単純平均	20.8 56.1%	23.0 62.2%	6.8 18.2%	2.3 —	37.0 —
30年度平均	22.8 55.2%	21.0 50.9%	5.5 13.3%	2.8 —	41.3 —
29年度平均	21.3 53.1%	25.0 62.5%	8.8 21.9%	4.8 —	40.0 —
28年度平均	19.0 53.5%	22.0 62.0%	6.8 19.0%	3.5 —	35.5 —

注：上段は人数、下段は割合

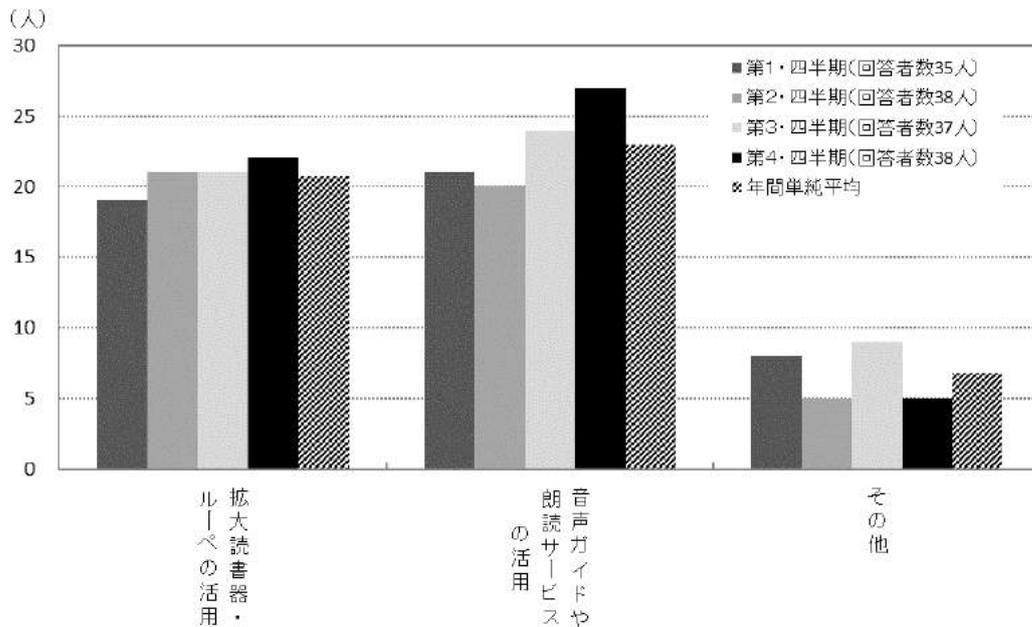


図2-13 屋内での生活における工夫【補助用具等】の推移

④-1 屋内での生活における工夫【衛生面等】（SJSの健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者31人）

○屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表2-14及び図2-14のとおり（複数回答）。

- 「こまめな温度調節」が71.0%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が41.9%、「ハウスダストの徹底した除去」が35.5%となっている
- その他としては、「よく手を洗う、うがい」「眼帯を就寝時につける」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者32人）

○第2・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表2-14及び図2-14のとおり（複数回答）。

- 「こまめな温度調節」が75.0%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が37.5%、「ハウスダストの徹底した除去」が28.1%となっている
- その他としては、「湿ったマスクの着用」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者32人）

○第3・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表2-14及び図2-14のとおり（複数回答）。

- 「乾燥予防のため加湿器を利用」が68.8%、「こまめな温度調節」が65.6%、「ハウスダストの徹底した除去」が40.6%となっている
- その他としては、「除菌スプレーを使用する」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者28人）

○第4・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表2-14及び図2-14のとおり（複数回答）。

- 「こまめな温度調節」が67.9%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が64.3%、「ハウスダストの徹底した除去」が32.1%となっている
- その他としては、「空気清浄機を利用している」「室内にて洗濯物をする（加湿のため）を干す」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-14及び図2-14のとおり（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容の年間の平均では「こまめな温度調節」が69.9%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が52.8%、「ハウスダストの徹底した除去」が34.1%となっている

表2-14 屋内での生活における工夫【衛生面等】の推移

	乾燥予防のため加湿器を利用	こまめな温度調節	ハウスダストの徹底した除去	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	13 41.9%	22 71.0%	11 35.5%	6 19.4%	5	31
第2・四半期	12 37.5%	24 75.0%	9 28.1%	5 15.6%	8	32
第3・四半期	22 68.8%	21 65.6%	13 40.6%	4 12.5%	10	32
第4・四半期	18 64.3%	19 67.9%	9 32.1%	4 14.3%	11	28
年間単純平均	16.3 52.8%	21.5 69.9%	10.5 34.1%	4.8 15.4%	8.5	30.8
30年度平均	17.3 54.8%	19.5 61.9%	7.5 23.8%	3.3 10.3%	12.5	31.5
29年度平均	18.8 58.6%	21.3 66.4%	9.8 30.5%	6.5 20.3%	12.8	32.0
28年度平均	17.8 60.7%	18.3 62.4%	9.3 31.6%	4.5 15.4%	9.8	29.3

注：上段は人数、下段は割合

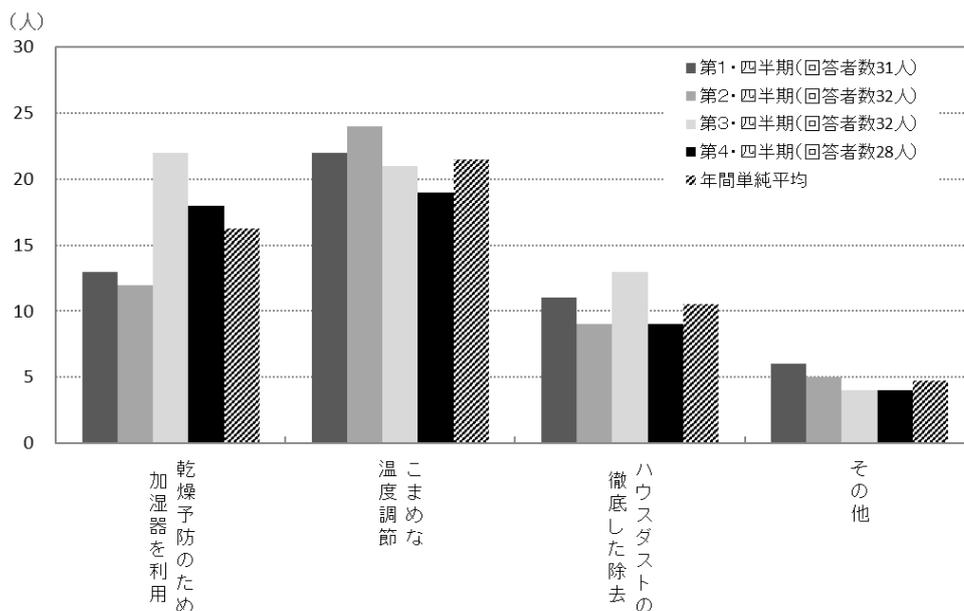


図2-14 屋内での生活における工夫【衛生面等】の推移

④-1 屋内での生活における工夫【区別方法】（SJSの健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者26人）

- 屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表2-15及び図2-15のとおり（複数回答）。
- 「点字シールをつける」が42.3%、「カラーテープで目印」が34.6%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が26.9%となっている
- その他としては、「自分の手で触わりながら判断される」「タッチメモ」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者29人）

- 第2・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表2-15及び図2-15のとおり（複数回答）。
- 「点字シールをつける」が44.8%、「カラーテープで目印」が34.5%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が20.7%となっている
- その他としては、「家具やテーブルをたよりに移動」「スマホアプリの4種類の「物タグ」」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者28人）

- 第3・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表2-15及び図2-15のとおり（複数回答）。
- 「点字シールをつける」が50.0%、「カラーテープで目印」が32.1%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が17.9%となっている
- その他としては、「柱やローカ等にワンタッチでつく電器を取り付けている」「凹凸のしるしをつける」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者25人）

- 第4・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表2-15及び図2-15のとおり（複数回答）。
- 「点字シールをつける」が44.0%、「カラーテープで目印」が32.0%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が24.0%となっている
- その他としては、「仕切りのあるケースを利用」「ものさがしタグ」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-15及び図2-15のとおり（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容の年間の平均では「点字シールをつける」が45.4%、「カラーテープで目印」が33.3%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が22.2%となっている

表2-15 屋内での生活における工夫【区別方法】の推移

	点字シールをつける	カラーテープで目印	室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	11	9	7	8	10	26
	42.3%	34.6%	26.9%	30.8%	—	—
第2・四半期	13	10	6	8	11	29
	44.8%	34.5%	20.7%	27.6%	—	—
第3・四半期	14	9	5	9	14	28
	50.0%	32.1%	17.9%	32.1%	—	—
第4・四半期	11	8	6	6	14	25
	44.0%	32.0%	24.0%	24.0%	—	—
年間単純平均	12.3	9.0	6.0	7.8	12.3	27.0
	45.4%	33.3%	22.2%	28.7%	—	—
30年度平均	11.0	9.8	4.0	7.5	16.8	27.3
	40.4%	35.8%	14.7%	27.5%	—	—
29年度平均	10.8	8.3	4.3	7.3	18.8	26.0
	41.3%	31.7%	16.3%	27.9%	—	—
28年度平均	10.5	9.8	4.3	4.0	14.3	24.8
	42.4%	39.4%	17.2%	16.2%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

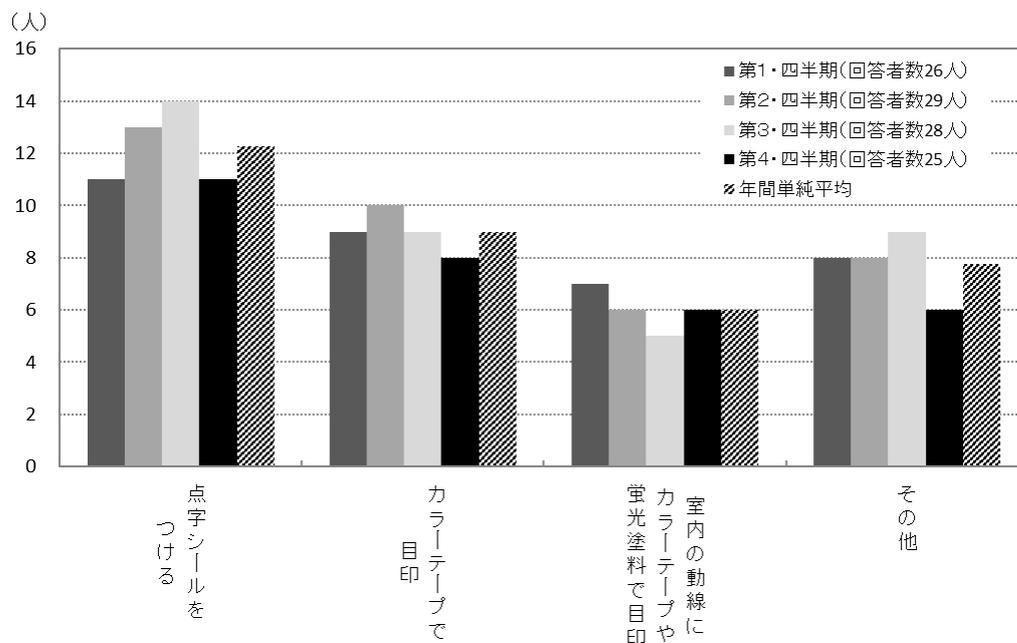


図2-15 屋内での生活における工夫【区別方法】の推移

④-2 屋内での生活における工夫

○本人または介護者にたずねた屋内での生活における工夫の主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 食器などの整理整頓をしやすい棚の配置・扉はすべて開けておく
- ・ 扉を開け外部の音を聞こえやすくする
- ・ 部屋の入り口は開けている
- ・ DVDや音楽を楽しめるように身近にセッティング
- ・ i p a dを使って五十音盤をアプリで入手し、スチロール棒を使って頭でそうさし、文字を入力させて意思疎通をしている。
- ・ お茶やコーヒーを入れる時、少しゆらしてライトを当て、反射光で水位を見る
- ・ セントラルヒーティング 照明等にセンサー
- ・ 出来るだけ車イスに座らせる様に心掛けている。
- ・ ドアをすべて開けてぶつからない様にしている
- ・ トイレや玄関等はセンサーで明るくなる工夫している
- ・ 寝たきりなので、出来るだけ車イスで体を起こす様に心掛けている。
- ・ ぶつかってもケガしないよう保護カバーをつけている
- ・ ラジオは常にきいて情報や時刻等生活の一部になっています。
- ・ 移動の際に音でわかるよう、同居人（私）にスズをつけてみた。
- ・ 音声機器の多用（時計、温・湿度計、体温計、秤り等）
- ・ 靴下を履かない（足底の感覚）
- ・ 玄関前にランプ（夜）をつける。（目印用）
- ・ 採光、照明の調節
- ・ 自分でこれはすぐに見つからないと困るような物に「T I L E タグ」を紐付させておき実際にありかを確認したい時にスマホやA I スピーカーからそのタグを呼び出しメロディの鳴る位置で見つけるようにしている。
- ・ 室内が暗くなると大変見えにくくなる為常に照明をつけています
- ・ 商品の名称をマジックで書きなおす。手紙もサインペンで書きなおす。明るい場所に置く、暗くなるとまったく分かりません。
- ・ 段差で色を変える
- ・ 電子レンジ等のよく使う機能ボタンに凸シールを貼っておき判別する
- ・ 電灯のスイッチのヒモがどこにあるのかよくわかるようにぬいぐるみの人形をとりつけてすぐ手に当たるようにした。
- ・ 透明のガラス食器は使用后すぐに洗って戻す。
- ・ 箱の中にコップを入れてたおさないように工夫している。家族が所定の位置に物を置かないのでおこる。

■ 日常生活について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

⑤日常生活について

⑤-1 新聞や本を読むことの不自由さについて

ア 第1・四半期（回答者40人）

- 第1・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表2-16及び図2-16のとおり。
- 新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が60.0%、「とても不自由」が40.0%となっている

イ 第2・四半期（回答者46人）

- 第2・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表2-16及び図2-16のとおり。
- 新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が63.0%、「とても不自由」が30.4%となっている

ウ 第3・四半期（回答者43人）

- 第3・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表2-16及び図2-16のとおり。
- 新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が65.1%、「とても不自由」が27.9%となっている

エ 第4・四半期（回答者43人）

- 第4・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表2-16及び図2-16のとおり。
- 新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が55.8%、「とても不自由」が37.2%となっている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-16及び図2-16のとおり。
- ものが見えにくいため新聞や本を読むことの不自由さについては、年間の平均では「見えにくいのでやめた」が61.0%、「とても不自由」が33.7%となっている

表 2-16 新聞や本を読むことの不自由さの推移

	全く不自由 はない	あまり不自由 はない	とても不自由	見えにくいの でやめた	回答なし	合 計
第1・四半期	0	0	16	24	7	40
	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%	—	100.0%
第2・四半期	1	2	14	29	4	46
	2.2%	4.3%	30.4%	63.0%	—	100.0%
第3・四半期	1	2	12	28	5	43
	2.3%	4.7%	27.9%	65.1%	—	100.0%
第4・四半期	1	2	16	24	4	43
	2.3%	4.7%	37.2%	55.8%	—	100.0%
年間単純平均	0.8	1.5	14.5	26.3	5.0	43.0
	1.7%	3.5%	33.7%	61.0%	—	100.0%
30年度平均	1.0	2.3	12.8	28.5	10.5	44.5
	2.2%	5.1%	28.7%	64.0%	—	100.0%
29年度平均	0.8	2.0	13.3	26.0	5.8	42.0
	1.8%	4.8%	31.5%	61.9%	—	100.0%
28年度平均	0.5	0.8	15.3	27.8	4.3	44.3
	1.1%	1.7%	34.5%	62.7%	—	100.0%
27年度平均	0.0	1.5	16.8	29.0	3.0	47.3
	0.0%	3.2%	35.4%	61.4%	—	100.0%
26年度平均	0.0	1.8	16.8	30.8	15.8	49.3
	0.0%	3.6%	34.0%	62.4%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

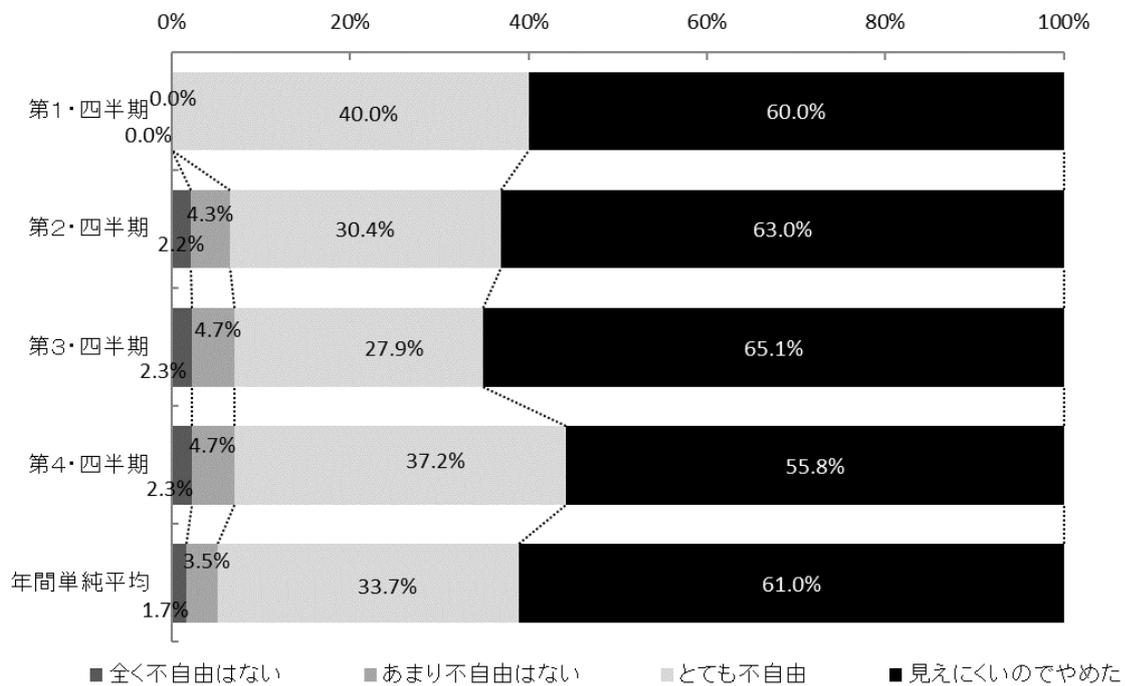


図 2-16 新聞や本を読むことの不自由さの推移

⑤-2 目や目のまわりの痛み・不快感の程度について

ア 第1・四半期（回答者 45 人）

○第1・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表 2-17 及び図 2-17 のとおり。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が 53.3%、「中くらいある」が 31.1%となっている

イ 第2・四半期（回答者 49 人）

○第2・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表 2-17 及び図 2-17 のとおり。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が 55.1%、「中くらいある」が 28.6%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 46 人）

○第3・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表 2-17 及び図 2-17 のとおり。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が 54.3%、「中くらいある」が 32.6%となっている

エ 第4・四半期（回答者 47 人）

○第4・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表 2-17 及び図 2-17 のとおり。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が 53.2%、「中くらいある」が 29.8%となっている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-17 及び図 2-17 のとおり。

□目や目のまわりの痛み・不快感の程度については、年間の平均では「かなりある」が 54.0%、「中くらいある」が 30.5%となっている

表 2-17 目や目のまわりの痛み・不快感の程度の推移

	かなりある	中くらいある	かすかにある	まったくない	回答なし	合計
第1・四半期	24	14	7	0	2	45
	53.3%	31.1%	15.6%	0.0%	—	100.0%
第2・四半期	27	14	8	0	1	49
	55.1%	28.6%	16.3%	0.0%	—	100.0%
第3・四半期	25	15	6	0	2	46
	54.3%	32.6%	13.0%	0.0%	—	100.0%
第4・四半期	25	14	8	0	0	47
	53.2%	29.8%	17.0%	0.0%	—	100.0%
年間単純平均	25.3	14.3	7.3	0.0	1.3	46.8
	54.0%	30.5%	15.5%	0.0%	—	100.0%
30年度平均	25.0	13.3	8.5	0.0	8.3	46.8
	53.5%	28.3%	18.2%	0.0%	—	100.0%
29年度平均	23.5	13.5	8.0	0.3	2.5	45.3
	51.9%	29.8%	17.7%	0.6%	—	100.0%
28年度平均	26.3	13.0	7.8	0.0	1.5	47.0
	55.9%	27.7%	16.5%	0.0%	—	100.0%
27年度平均	27.0	15.3	7.3	0.0	0.8	49.5
	54.5%	30.8%	14.6%	0.0%	—	100.0%
26年度平均	30.3	12.8	8.8	0.0	13.3	51.8
	58.5%	24.6%	16.9%	0.0%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

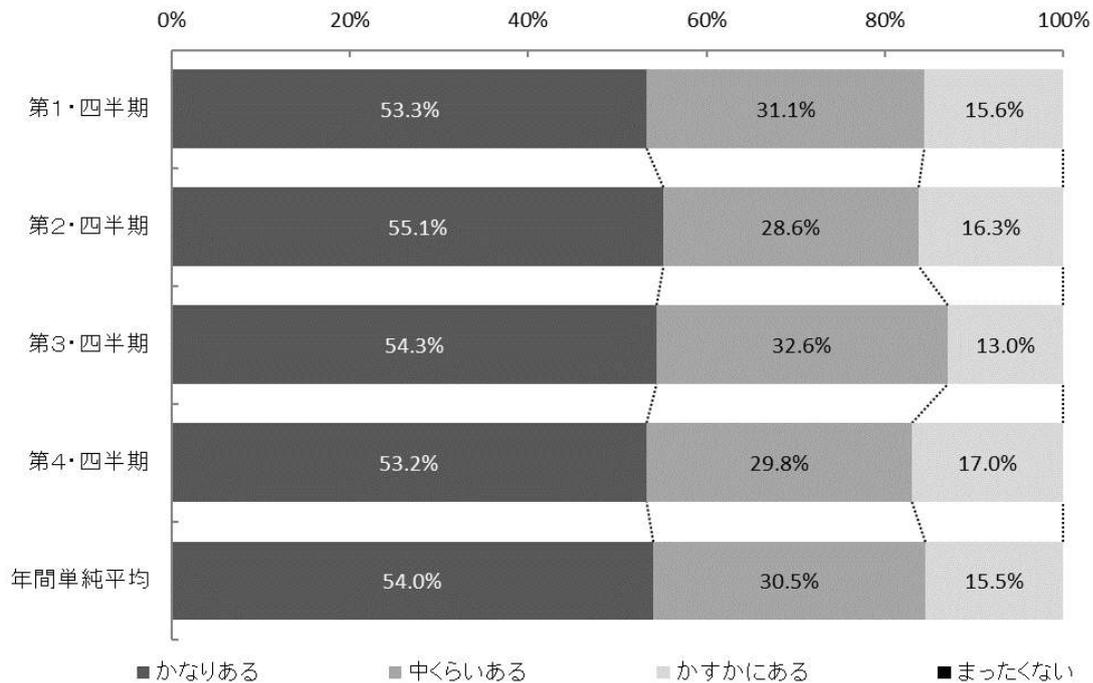


図 2-17 目や目のまわりの痛み・不快感の程度の推移

⑤-3 ものが見えにくいいため物事を思いどおりにやりとげられない場合

ア 第1・四半期（回答者44人）

- 第1・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表2-18及び図2-18のとおり。
- ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が93.2%、「ない」が6.8%となっている

イ 第2・四半期（回答者48人）

- 第2・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表2-18及び図2-18のとおり。
- ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が93.8%、「ない」が6.3%となっている

ウ 第3・四半期（回答者44人）

- 第3・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表2-18及び図2-18のとおり。
- ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が95.5%、「ない」が4.5%となっている

エ 第4・四半期（回答者45人）

- 第4・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表2-18及び図2-18のとおり。
- ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が95.6%、「ない」が4.4%となっている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-18及び図2-18のとおり。
- ものが見えにくいいため物事を思いどおりにやりとげられない場合については、年間の平均では「ある」が94.5%、「ない」が5.5%となっている

表 2-18 ものが見えにくいため物事を思いどおりにやりとげられない場合の推移

	かなりある	中くらいある	かすかにある	ある	ない	まったくない	回答なし	合計
第1・四半期	—	—	—	41	3	—	3	44
	—	—	—	93.2%	6.8%	—	—	100.0%
第2・四半期	—	—	—	45	3	—	2	48
	—	—	—	93.8%	6.3%	—	—	100.0%
第3・四半期	—	—	—	42	2	—	4	44
	—	—	—	95.5%	4.5%	—	—	100.0%
第4・四半期	—	—	—	43	2	—	2	45
	—	—	—	95.6%	4.4%	—	—	100.0%
年間単純平均	—	—	—	42.8	2.5	—	2.8	45.3
	—	—	—	94.5%	5.5%	—	—	100.0%
30年度平均	—	—	—	43.5	2.0	—	9.0	45.5
	—	—	—	95.6%	4.4%	—	—	100.0%
29年度平均	—	—	—	41.8	2.8	—	3.3	44.5
	—	—	—	93.8%	6.2%	—	—	100.0%
28年度平均	—	—	—	44.3	2.5	—	1.8	48.5
	—	—	—	94.7%	5.3%	—	—	100.0%
27年度平均	—	—	—	46.3	2.3	—	1.8	48.5
	—	—	—	95.4%	4.6%	—	—	100.0%
26年度平均	36.0	12.0	3.5	—	—	0.3	13.3	51.8
	69.6%	23.2%	6.8%	—	—	0.5%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

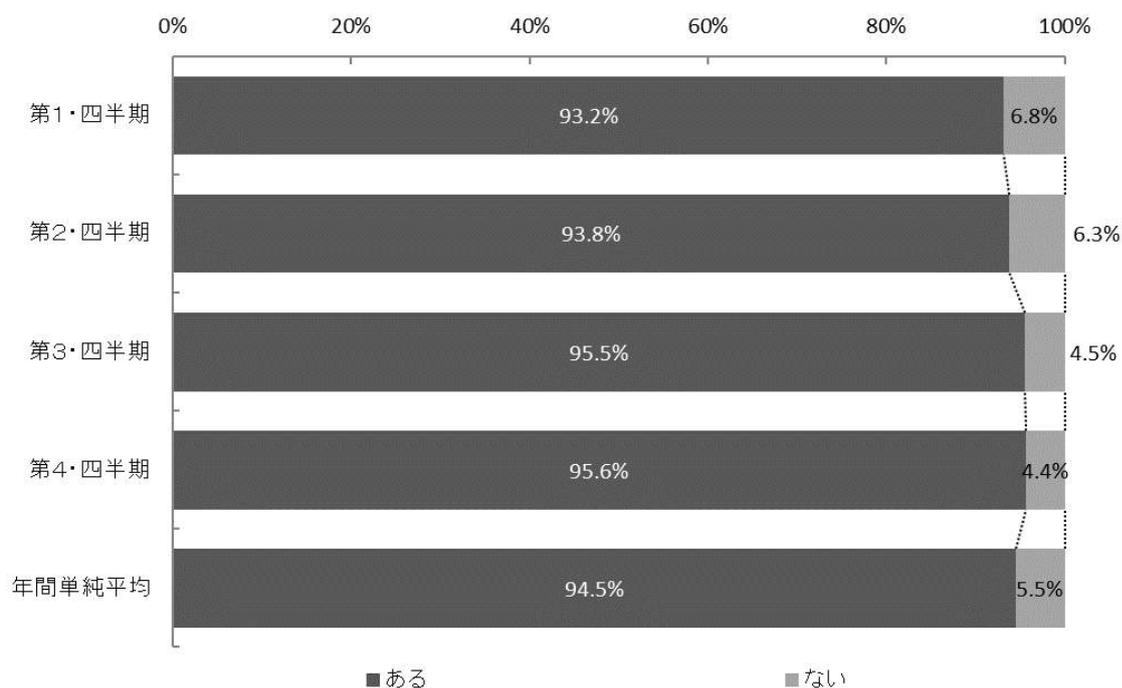


図 2-18 ものが見えにくいため物事を思いどおりにやりとげられない場合の推移

⑤-4 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無

ア 第1・四半期（回答者43人）

○第1・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表2-19及び図2-19のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「ある」が88.4%、「ない」が11.6%となっている

イ 第2・四半期（回答者49人）

○第2・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表2-19及び図2-19のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「ある」が87.8%、「ない」が12.2%となっている

ウ 第3・四半期（回答者44人）

○第3・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表2-19及び図2-19のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「ある」が88.6%、「ない」が11.4%となっている

エ 第4・四半期（回答者46人）

○第4・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表2-19及び図2-19のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「ある」が89.1%、「ない」が10.9%となっている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-19及び図2-19のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることの有無については、年間の平均では「ある」が88.5%、「ない」が11.5%となっている

表 2-19 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無の推移

	かなりある	中くらいある	かすかにある	ある	ない	まったくない	回答なし	合計
第1・四半期	—	—	—	38	5	—	4	43
	—	—	—	88.4%	11.6%	—	—	100.0%
第2・四半期	—	—	—	43	6	—	1	49
	—	—	—	87.8%	12.2%	—	—	100.0%
第3・四半期	—	—	—	39	5	—	4	44
	—	—	—	88.6%	11.4%	—	—	100.0%
第4・四半期	—	—	—	41	5	—	1	46
	—	—	—	89.1%	10.9%	—	—	100.0%
年間単純平均	—	—	—	40.3	5.3	—	2.5	45.5
	—	—	—	88.5%	11.5%	—	—	100.0%
30年度平均	—	—	—	40.0	5.8	—	9.3	45.8
	—	—	—	87.4%	12.6%	—	—	100.0%
29年度平均	—	—	—	36.8	7.3	—	3.8	44.0
	—	—	—	83.5%	16.5%	—	—	100.0%
28年度平均	—	—	—	40.5	5.3	—	2.8	47.3
	—	—	—	88.5%	11.5%	—	—	100.0%
27年度平均	—	—	—	42.8	4.5	—	3.0	47.3
	—	—	—	90.5%	9.5%	—	—	100.0%
26年度平均	28.0	16.8	6.0	—	—	0.8	13.5	51.5
	54.4%	32.5%	11.7%	—	—	1.5%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

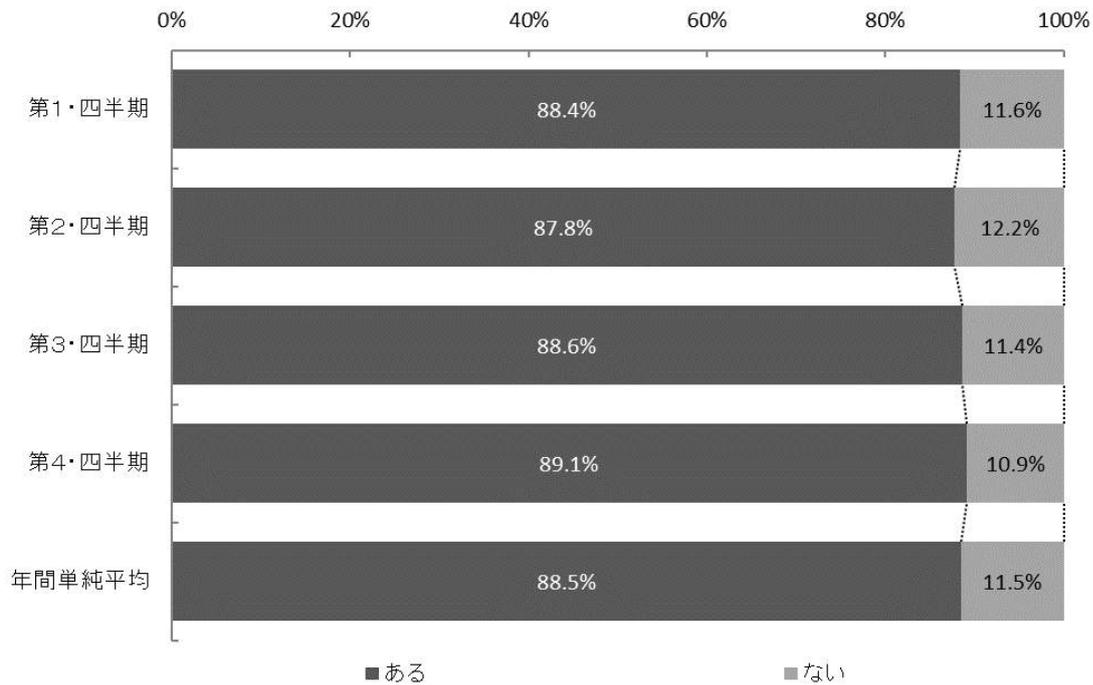


図 2-19 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無の推移

⑤-5 視力以外の状況【皮膚や爪に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者43人）

- 第1・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表2-20及び図2-20のとおり（複数回答）。
- 「皮膚のかゆみ、乾燥」が79.1%、「爪の変更、剥離」が76.7%、「瘢痕が残る」が44.2%となっている
- その他としては、「指先の痛み、かゆみ」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者48人）

- 第2・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表2-20及び図2-20のとおり（複数回答）。
- 「皮膚のかゆみ、乾燥」が81.3%、「爪の変更、剥離」が77.1%、「瘢痕が残る」が45.8%となっている
- その他としては、「発疹」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者46人）

- 第3・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表2-20及び図2-20のとおり（複数回答）。
- 「皮膚のかゆみ、乾燥」が82.6%、「爪の変更、剥離」が80.4%、「瘢痕が残る」が45.7%となっている
- その他としては、「アトピー性皮膚炎症状が強くなってきている」「冷え」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者44人）

- 第4・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表2-20及び図2-20のとおり（複数回答）。
- 「爪の変更、剥離」が84.1%、「皮膚のかゆみ、乾燥」が79.5%、「瘢痕が残る」が45.5%となっている
- その他としては、「両手の爪スプーンギザギザ困る」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-20及び図2-20のとおり（複数回答）。
- 皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「皮膚のかゆみ、乾燥」が80.7%、「爪の変更、剥離」が79.6%、「瘢痕が残る」が45.3%となっている

表 2-20 視力以外の状況【皮膚や爪に関する症状】の推移

	皮膚のかゆみ、乾燥	癒痕が残る	爪の変更、剥離	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	34	19	33	2	4	43
	79.1%	44.2%	76.7%	4.7%	—	—
第2・四半期	39	22	37	2	2	48
	81.3%	45.8%	77.1%	4.2%	—	—
第3・四半期	38	21	37	6	2	46
	82.6%	45.7%	80.4%	13.0%	—	—
第4・四半期	35	20	37	2	3	44
	79.5%	45.5%	84.1%	4.5%	—	—
年間単純平均	36.5	20.5	36.0	3.0	2.8	45.3
	80.7%	45.3%	79.6%	6.6%	—	—
30年度平均	36.8	20.8	37.5	2.3	10.3	44.8
	82.1%	46.4%	83.8%	5.0%	—	—
29年度平均	35.0	21.8	37.5	2.5	4.5	43.3
	80.9%	50.3%	86.7%	5.8%	—	—
28年度平均	35.8	22.0	35.8	4.3	4.8	43.8
	81.7%	50.3%	81.7%	9.7%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

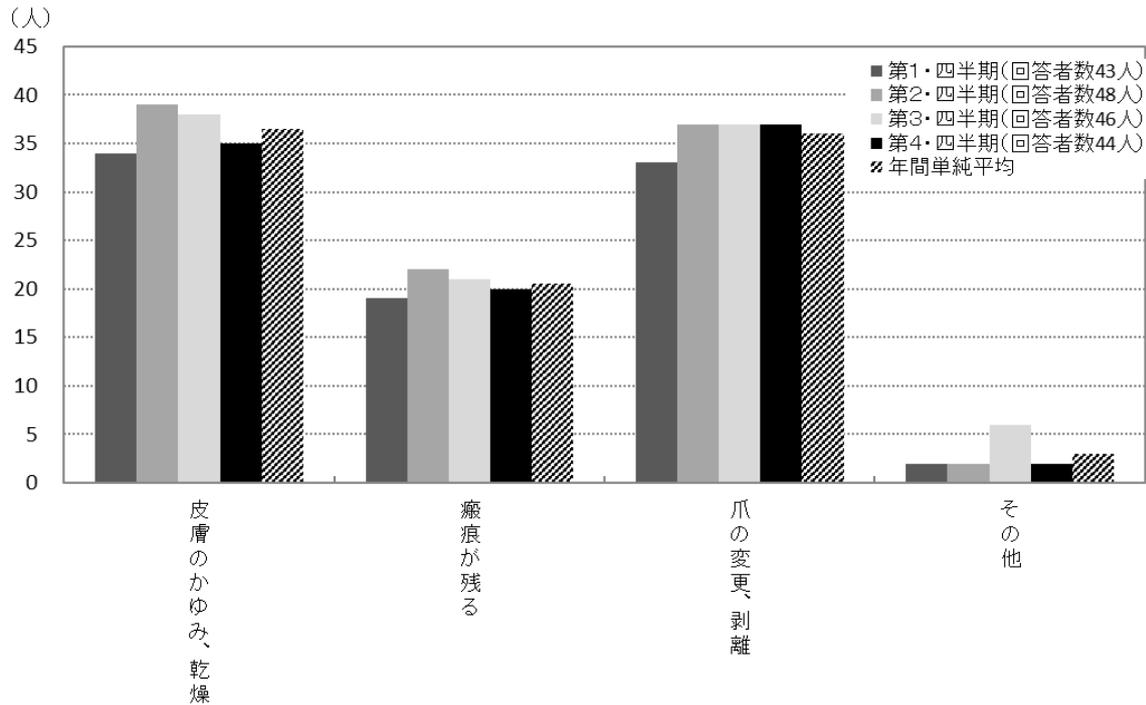


図 2-20 視力以外の状況【皮膚や爪に関する症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況【内臓機能に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 25 人）

- 第1・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-21 及び図 2-21 のとおり（複数回答）。
- 「高血圧」が 72.0%、「心肺機能の低下・異常」が 44.0%、「粘膜不全」が 36.0%、「腎機能の低下・異常」が 24.0%となっている
- その他としては、「脳血栓、副腎異常」「舌がただれて常に痛い」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 31 人）

- 第2・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-21 及び図 2-21 のとおり（複数回答）。
- 「高血圧」が 64.5%、「心肺機能の低下・異常」が 38.7%、「粘膜不全」が 32.3%となっている
- その他としては、「高脂血症」「痛風、脂質異常」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 25 人）

- 第3・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-21 及び図 2-21 のとおり（複数回答）。
- 「高血圧」が 68.0%、「粘膜不全」が 52.0%、「心肺機能の低下・異常」が 40.0%となっている
- その他としては、「血糖値が高い」「甲状腺異常」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 28 人）

- 第4・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-21 及び図 2-21 のとおり（複数回答）。
- 「高血圧」が 53.6%、「粘膜不全」が 39.3%、「心肺機能の低下・異常」が 32.1%となっている
- その他としては、「貧血症」「急性虫垂炎による腹膜炎」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-21 及び図 2-21 のとおり（複数回答）。
- 内臓機能に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「高血圧」が 64.2%、「粘膜不全」が 39.4%、「心肺機能の低下・異常」が 38.5%となっている

表 2-21 視力以外の状況【内臓機能に関する症状】の推移

	高血圧	粘膜不全	心肺機能の低下・異常	肝機能の低下・異常	腎機能の低下・異常	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	18	9	11	4	6	4	22	25
	72.0%	36.0%	44.0%	16.0%	24.0%	16.0%	—	—
第2・四半期	20	10	12	5	5	4	19	31
	64.5%	32.3%	38.7%	16.1%	16.1%	12.9%	—	—
第3・四半期	17	13	10	5	5	4	23	25
	68.0%	52.0%	40.0%	20.0%	20.0%	16.0%	—	—
第4・四半期	15	11	9	8	5	6	19	28
	53.6%	39.3%	32.1%	28.6%	17.9%	21.4%	—	—
年間単純平均	17.5	10.8	10.5	5.5	5.3	4.5	20.8	27.3
	64.2%	39.4%	38.5%	20.2%	19.3%	16.5%	—	—
30年度平均	15.5	10.8	9.3	5.8	3.3	5.0	27.8	27.3
	56.9%	39.4%	33.9%	21.1%	11.9%	18.3%	—	—
29年度平均	14.3	10.8	8.5	6.8	3.5	4.5	22.3	25.5
	55.9%	42.2%	33.3%	26.5%	13.7%	17.6%	—	—
28年度平均	13.8	10.3	8.0	7.8	3.8	4.8	22.0	26.5
	51.9%	38.7%	30.2%	29.2%	14.2%	17.9%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

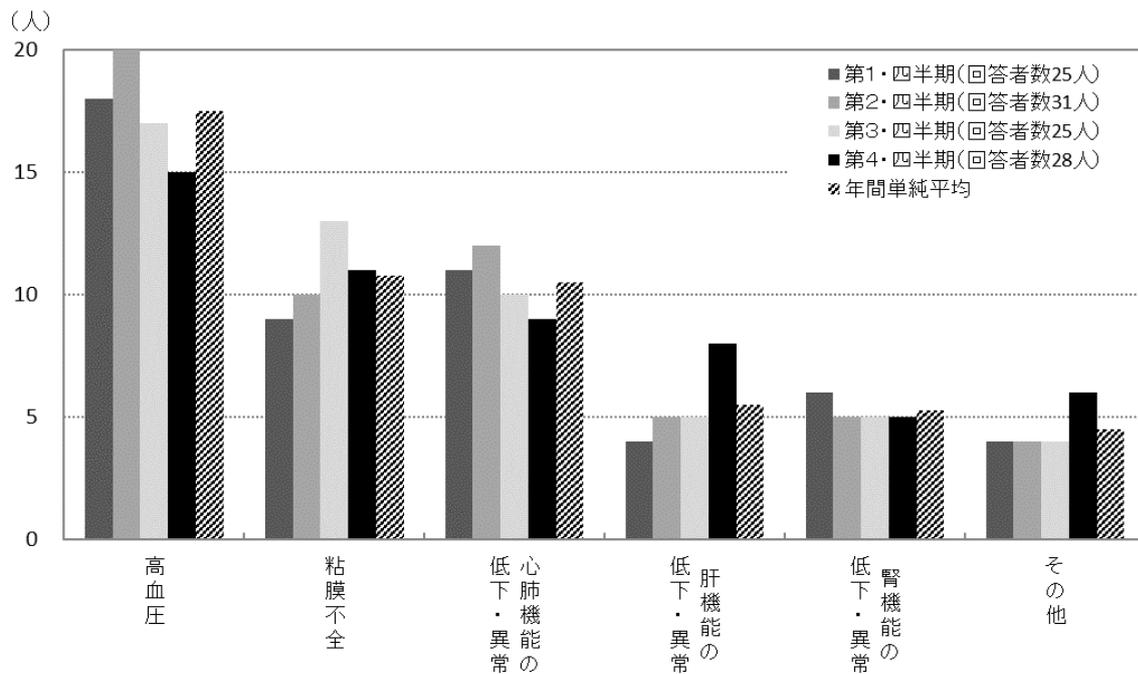


図 2-21 視力以外の状況【内臓機能に関する症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況【聴覚・呼吸機能に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 32 人）

- 第1・四半期において、聴覚・呼吸機能に関する症状についてたずねた結果は、表2-22 及び図2-22 のとおり（複数回答）。
- 「アレルギー性鼻炎」が71.9%、「気管支炎、ぜんそく」が50.0%、「音声聞き取りにくい」が40.6%となっている
- その他としては、「痰が出やすくなっている」「右鼓膜炎、左外耳炎」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 38 人）

- 第2・四半期において、聴覚・呼吸機能に関する症状についてたずねた結果は、表2-22 及び図2-22 のとおり（複数回答）。
- 「アレルギー性鼻炎」が68.4%、「気管支炎、ぜんそく」が52.6%、「音声聞き取りにくい」が39.5%となっている
- その他としては、「肺マック症」「鼓膜炎、外耳炎」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 38 人）

- 第3・四半期において、聴覚・呼吸機能に関する症状についてたずねた結果は、表2-22 及び図2-22 のとおり（複数回答）。
- 「アレルギー性鼻炎」が63.2%、「気管支炎、ぜんそく」が57.9%、「音声聞き取りにくい」が42.1%となっている
- その他としては、「聴覚が反響して聞こえずらい」「呼吸器が常に敏感にて咳込みのどのかわき痛い」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 39 人）

- 第4・四半期において、聴覚・呼吸機能に関する症状についてたずねた結果は、表2-22 及び図2-22 のとおり（複数回答）。
- 「アレルギー性鼻炎」が64.1%、「気管支炎、ぜんそく」が59.0%、「音声聞き取りにくい」が38.5%となっている
- その他としては、「花粉症」「今現在のコロナ感染による肺炎症状が出ているのかどうかの判断が自分ではよくわからない」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-22及び図2-22のとおり（複数回答）。

聴覚・呼吸機能に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「アレルギー性鼻炎」が66.7%、「気管支炎、ぜんそく」が55.1%、「音声が聞き取りにくい」が40.1%となっている

表2-22 視力以外の状況【聴覚・呼吸機能に関する症状】の推移

	音声が聞き取りにくい	気管支炎、ぜんそく	アレルギー性鼻炎	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	13	16	23	5	15	32
	40.6%	50.0%	71.9%	15.6%	—	—
第2・四半期	15	20	26	4	12	38
	39.5%	52.6%	68.4%	10.5%	—	—
第3・四半期	16	22	24	5	10	38
	42.1%	57.9%	63.2%	13.2%	—	—
第4・四半期	15	23	25	3	8	39
	38.5%	59.0%	64.1%	7.7%	—	—
年間単純平均	14.8	20.3	24.5	4.3	11.3	36.8
	40.1%	55.1%	66.7%	11.6%	—	—
30年度平均	14.0	19.8	24.8	3.5	19.8	35.3
	39.7%	56.0%	70.2%	9.9%	—	—
29年度平均	11.8	18.3	22.5	4.8	14.0	33.8
	34.8%	54.1%	66.7%	14.1%	—	—
28年度平均	14.3	16.0	21.8	8.0	14.3	34.3
	41.6%	46.7%	63.5%	23.4%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

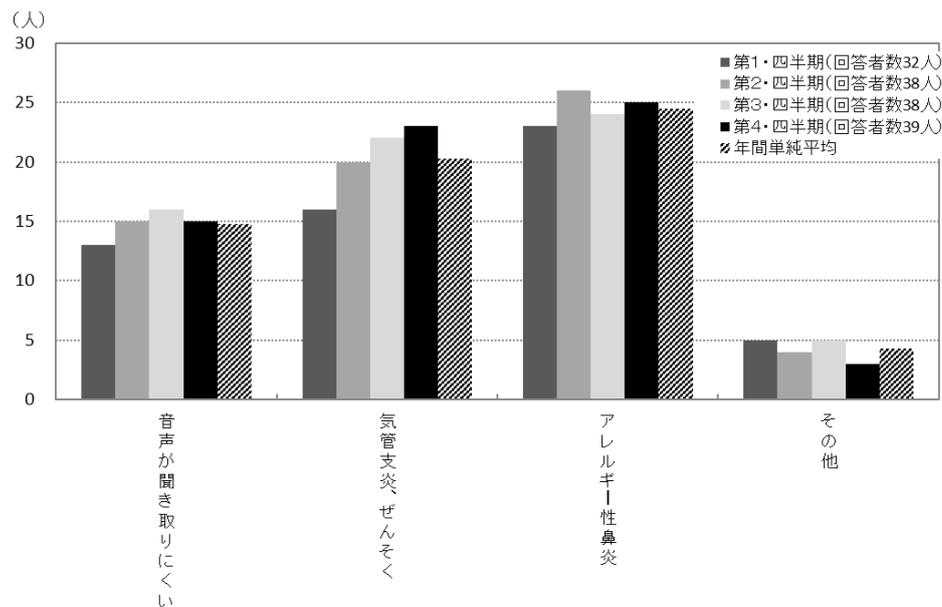


図2-22 視力以外の状況【聴覚・呼吸機能に関する症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 47人）

○第1・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表2-23及び図2-23のとおり（複数回答）。

□「ドライアイ」が95.7%、「さかさまつげ」が87.2%、「角膜の炎症」が68.1%となっている

□その他としては、「結膜炎とゆ着」「緑内障」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 50人）

○第2・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表2-23及び図2-23のとおり（複数回答）。

□「ドライアイ」が96.0%、「さかさまつげ」が88.0%、「角膜の炎症」が58.0%となっている

□その他としては、「涙のう炎」「粘膜の炎症」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 47人）

○第3・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表2-23及び図2-23のとおり（複数回答）。

□「ドライアイ」が95.7%、「さかさまつげ」が89.4%、「角膜の炎症」が70.2%となっている

□その他としては、「眼球の痛み」「結膜炎」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 46人）

○第4・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表2-23及び図2-23のとおり（複数回答）。

□「ドライアイ」が97.8%、「さかさまつげ」が84.8%、「角膜の炎症」が63.0%となっている

□その他としては、「まぶたに良性の腫瘍が出来る」「角膜の角化」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-23及び図2-23のとおり（複数回答）。

眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「ドライアイ」が96.3%、「さかさまつげ」が87.4%、「角膜の炎症」が64.7%となっている

表 2-23 視力以外の状況【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】の推移

	さかさまつげ	ドライアイ	角膜の炎症	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	41	45	32	8	0	47
	87.2%	95.7%	68.1%	17.0%	—	—
第2・四半期	44	48	29	11	0	50
	88.0%	96.0%	58.0%	22.0%	—	—
第3・四半期	42	45	33	12	1	47
	89.4%	95.7%	70.2%	25.5%	—	—
第4・四半期	39	45	29	9	1	46
	84.8%	97.8%	63.0%	19.6%	—	—
年間単純平均	41.5	45.8	30.8	10.0	0.5	47.5
	87.4%	96.3%	64.7%	21.1%	—	—
30年度平均	44.3	45.5	33.5	8.3	7.3	47.8
	92.7%	95.3%	70.2%	17.3%	—	—
29年度平均	41.5	45.0	34.3	9.0	1.5	46.3
	89.7%	97.3%	74.1%	19.5%	—	—
28年度平均	42.5	46.0	32.5	8.3	0.3	48.3
	88.1%	95.3%	67.4%	17.1%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

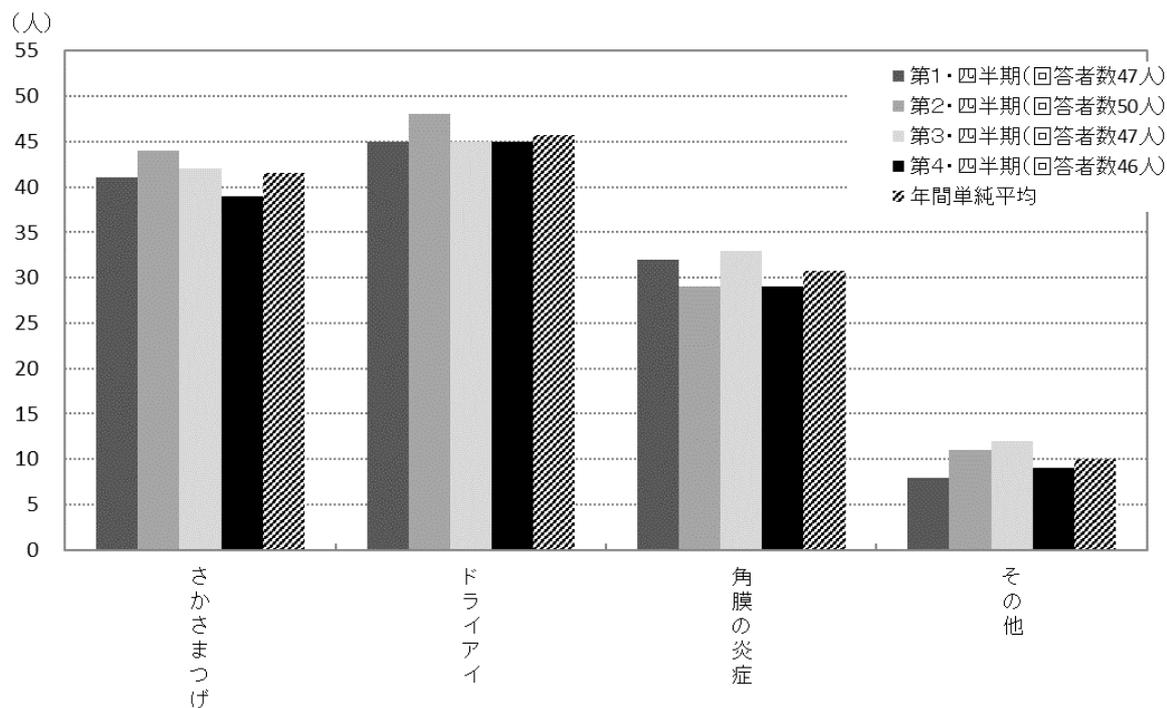


図 2-23 視力以外の状況【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況【口腔に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 34人）

- 第1・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表2-24及び図2-24のとおり（複数回答）。
 - 「口の中が乾く」が88.2%、「口内炎」が41.2%、「味覚障害」が23.5%となっている
 - その他としては、「舌が白く常にしみて痛い」「歯肉が落ち、知覚過敏がひどい」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 34人）

- 第2・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表2-24及び図2-24のとおり（複数回答）。
 - 「口の中が乾く」が91.2%、「口内炎」が44.1%、「味覚障害」が17.6%となっている
 - その他としては、「口唇ヘルペス」「アフタ性潰瘍」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 38人）

- 第3・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表2-24及び図2-24のとおり（複数回答）。
 - 「口の中が乾く」が78.9%、「口内炎」が47.4%、「味覚障害」が13.2%となっている
 - その他としては、「歯周病」「歯肉が落ち知覚過敏、口腔粘膜一部癒着」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 36人）

- 第4・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表2-24及び図2-24のとおり（複数回答）。
 - 「口の中が乾く」が77.8%、「口内炎」が44.4%、「味覚障害」が16.7%となっている
 - その他としては、「口唇ヘルペス」「歯周病」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-24及び図2-24のとおり（複数回答）。
口腔に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「口の中が乾く」が83.8%、「口内炎」が44.4%、「味覚障害」が17.6%となっている

表 2-24 視力以外の状況【口腔に関する症状】の推移

	口内炎	味覚障害	口の中が乾く	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	14	8	30	5	13	34
	41.2%	23.5%	88.2%	14.7%	—	—
第2・四半期	15	6	31	6	13	34
	44.1%	17.6%	91.2%	17.6%	—	—
第3・四半期	18	5	30	9	9	38
	47.4%	13.2%	78.9%	23.7%	—	—
第4・四半期	16	6	28	7	11	36
	44.4%	16.7%	77.8%	19.4%	—	—
年間単純平均	15.8	6.3	29.8	6.8	11.5	35.5
	44.4%	17.6%	83.8%	19.0%	—	—
30年度平均	17.3	6.3	29.5	6.8	19.8	34.3
	50.4%	18.2%	86.1%	19.7%	—	—
29年度平均	16.3	6.3	27.3	7.5	15.0	34.0
	47.8%	18.4%	80.1%	22.1%	—	—
28年度平均	18.0	5.5	27.3	5.0	15.0	35.0
	51.4%	15.7%	77.9%	14.3%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

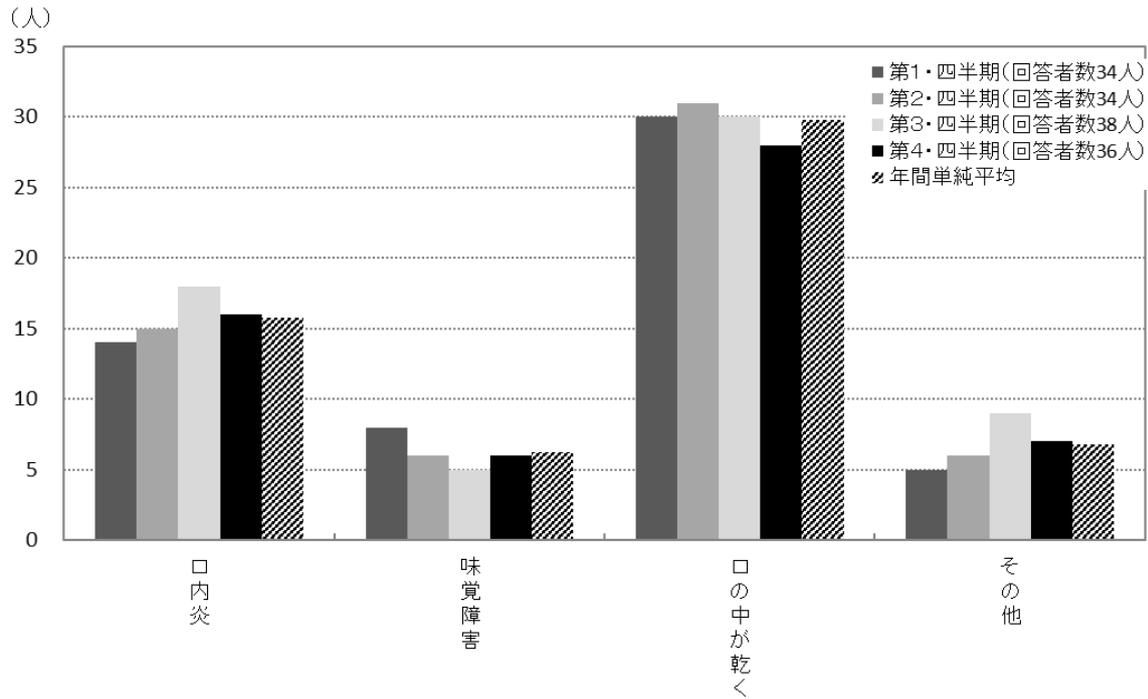


図 2-24 視力以外の状況【口腔に関する症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況【精神的な症状】

ア 第1・四半期（回答者 26人）

- 第1・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表2-25及び図2-25のとおり（複数回答）。
- 「睡眠障害」が73.1%、「不安障害」が57.7%、「うつ」が23.1%となっている
- その他としては、「イライラして怒りっぽい」「PTSD症状」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 24人）

- 第2・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表2-25及び図2-25のとおり（複数回答）。
- 「睡眠障害」が75.0%、「不安障害」が62.5%、「うつ」が20.8%となっている
- その他としては、「PTSD」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 26人）

- 第3・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表2-25及び図2-25のとおり（複数回答）。
- 「睡眠障害」が73.1%、「不安障害」が53.8%、「うつ」が23.1%となっている
- その他としては、「気分が晴れず、イライラがある」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 24人）

- 第4・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表2-25及び図2-25のとおり（複数回答）。
- 「不安障害」が70.8%、「睡眠障害」が66.7%、「うつ」が37.5%となっている
- その他としては、「完全のうつではないと思うけど時々落ち込む」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-25及び図2-25のとおり（複数回答）。
- 精神的な症状についてたずねた結果の年間の平均では「睡眠障害」が72.0%、「不安障害」が61.0%、「うつ」が26.0%となっている

表 2-25 視力以外の状況【精神的な症状】の推移

	不安障害	睡眠障害	うつ	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	15	19	6	4	21	26
	57.7%	73.1%	23.1%	15.4%	—	—
第2・四半期	15	18	5	2	26	24
	62.5%	75.0%	20.8%	8.3%	—	—
第3・四半期	14	19	6	2	22	26
	53.8%	73.1%	23.1%	7.7%	—	—
第4・四半期	17	16	9	2	23	24
	70.8%	66.7%	37.5%	8.3%	—	—
年間単純平均	15.3	18.0	6.5	2.5	23.0	25.0
	61.0%	72.0%	26.0%	10.0%	—	—
30年度平均	15.3	16.0	4.8	2.3	32.8	22.3
	68.5%	71.9%	21.3%	10.1%	—	—
29年度平均	14.5	14.3	4.8	2.5	26.5	21.3
	68.2%	67.1%	22.4%	11.8%	—	—
28年度平均	14.8	15.3	4.8	2.5	27.8	20.8
	71.1%	73.5%	22.9%	12.0%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

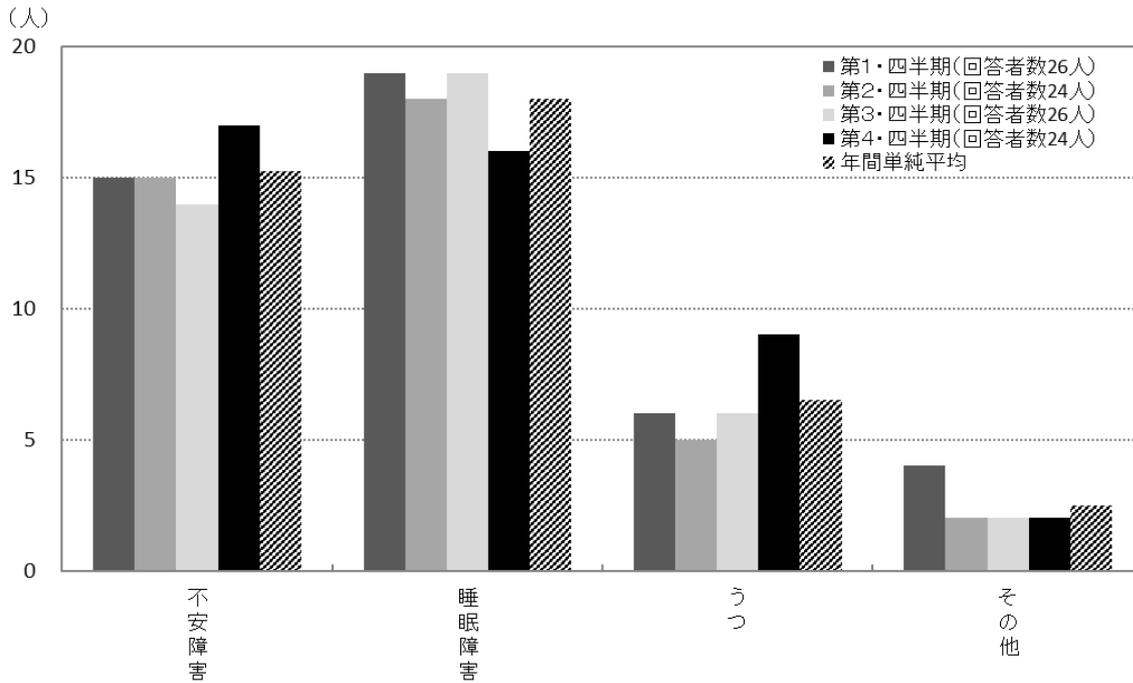


図 2-25 視力以外の状況【精神的な症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況（その他の後遺症等）について

○本人または介護者にたずねた視力以外の状況などについて主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ だ液が出ないため物を食べる時に苦しそうです。のみ込む時などたいへんでイライラしています。
- ・ 涙がでないためたえず眼を洗い眼薬を差さないといけない。
- ・ 爪がないので物をつかむの事がむずかしい。
- ・ てんかん・片頭痛
- ・ 食べ物をよくかんで飲みこもうとしても食道の入り口がせまくなってしまいつかえてしまったりつまったりが多くなってきた。食べ物を選ばないといけないようになり食べたい物が食べれずストレスとなる。
- ・ 爪がないため指先に力はいらないし、つかみにくい。
- ・ 整形外科に通院中
- ・ 全身の筋肉や関節の痛み・すぐに風邪を引き高熱が出る・ひどい頭痛がほぼ毎日ある
- ・ 足腰のいたみ（整形に通院）
- ・ 難聴・歩行困難
- ・ 腹痛・便秘
- ・ 臍粘膜癒着・骨密度の減少（皮膚でのビタミンD生成機能の低下が考えられるとのこと）
- ・ 加齢により、視力低下の今後、介護者の健康状況、不安だらけです。
- ・ うつ病
- ・ ヘルペスが出きた
- ・ 眼の上まぶたに腫れ物が出来るようになった。ある程度大きくなるとパンクする
- ・ 虚弱性胃腸炎で下痢が止まらない
- ・ 強度頭痛 強度肩こり、頸こり、背中の張り ヒフの変色や発疹
- ・ 筋肉、関節の痛み。つめがないので手や足のがんばりがきかない。
- ・ 肩こり、頭痛、めまい、息切れ、貧血症、不規則血（TENの時輸血）多汗、ひん尿
- ・ 腰痛・坐骨神経痛
- ・ 坐骨神経痛からくる腰痛、戸こり
- ・ 耳鼻咽喉科（アレルギー性鼻炎）
- ・ 食事をするのにのみ込みが悪い為水分が必ず必要。涙がでないので毎日マイティア、フラビタン軟膏5回以上差している。爪がはえてこない為物がかみにくい。気管が悪い為たんの切れが悪い。
- ・ 先のことを考えると不安で不安で夜も寝れない
- ・ 全身の筋肉や関節の痛み。ひどい頭痛、眼痛
- ・ 足のむくみ、冷え症
- ・ 大腸の具合が、かなり悪いです

- ・ 爪がないので物がつかみにくい
- ・ 泌尿器の異常
- ・ 皮膚がかゆいので乾燥している冬はかゆみがひどい
- ・ 膝の痛み
- ・ 腹痛がある
- ・ 片頭痛 てんかん
- ・ 歩行困難
- ・ 慢性腰痛
- ・ 両膝の痛みあり

■ 主たる介護者の状況について

◎主たる介護者

○主たる介護者は以下のとおり。

□年間平均では、「主として介護をしている配偶者」が47.6%、「主として介護をしている親」が28.2%となっている

表 2-26 主たる介護者の推移

	主として介護 をしている配 偶者	主として介護 をしている親	主として介護 をしている兄 弟姉妹	その他	回答なし	合 計
第1・四半期	19	13	1	9	13	42
	45.2%	31.0%	2.4%	21.4%	—	100.0%
第2・四半期	21	13	3	10	10	47
	44.7%	27.7%	6.4%	21.3%	—	100.0%
第3・四半期	20	12	1	8	13	41
	48.8%	29.3%	2.4%	19.5%	—	100.0%
第4・四半期	21	10	1	8	13	40
	52.5%	25.0%	2.5%	20.0%	—	100.0%
年間単純平均	20.3	12.0	1.5	8.8	12.3	42.5
	47.6%	28.2%	3.5%	20.6%	—	100.0%
30年度平均	21.8	12.3	1.0	7.5	12.8	42.5
	51.2%	28.8%	2.4%	17.6%	—	100.0%
29年度平均	21.3	12.3	1.8	7.0	11.3	42.3
	50.3%	29.0%	4.1%	16.6%	—	100.0%
28年度平均	22.0	13.8	1.3	6.0	13.0	43.0
	51.2%	32.0%	2.9%	14.0%	—	100.0%
27年度平均	24.3	12.5	1.0	8.5	10.3	46.3
	52.4%	27.0%	2.2%	18.4%	—	100.0%
26年度平均	25.3	17.3	1.8	8.0	12.8	52.3
	48.3%	33.0%	3.3%	15.3%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

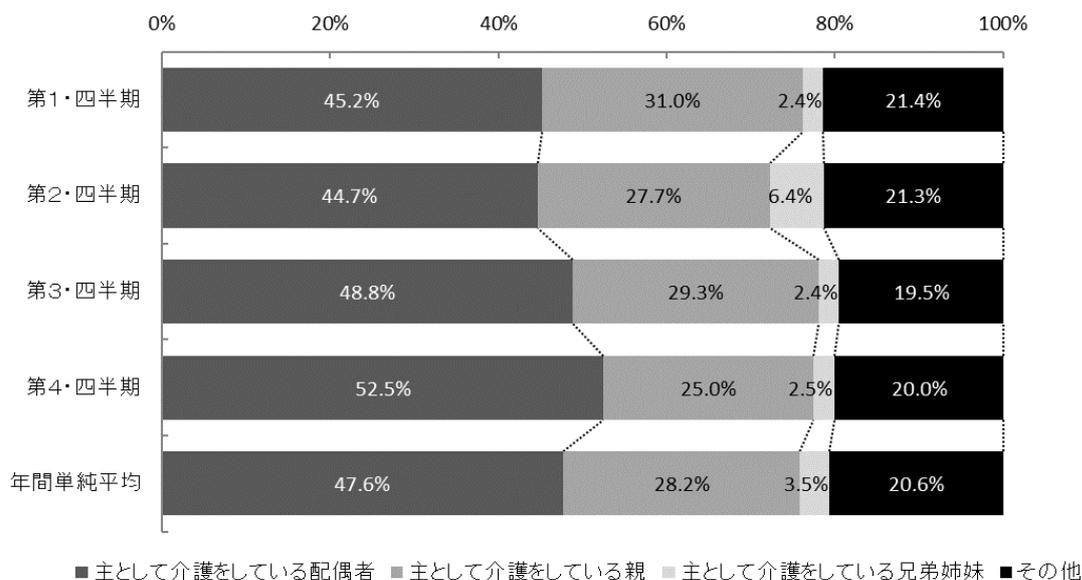


図 2-26 主たる介護者の推移

⑥主たる介護者の健康状態

ア 第1・四半期（回答者41人）

- 第1・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表2-27及び図2-27のとおり。
 - 健康状態が「たいへん良好」が9.8%、「まあ良好」が53.7%となっている
 - 一方で、「たいへん悪い」が12.2%、「やや悪い」が24.4%である

イ 第2・四半期（回答者46人）

- 第2・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表2-27及び図2-27のとおり。
 - 健康状態が「たいへん良好」が8.7%、「まあ良好」が56.5%となっている
 - 一方で、「たいへん悪い」が19.6%、「やや悪い」が15.2%である

ウ 第3・四半期（回答者41人）

- 第3・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表2-27及び図2-27のとおり。
 - 健康状態が「たいへん良好」が9.8%、「まあ良好」が43.9%となっている
 - 一方で、「たいへん悪い」が19.5%、「やや悪い」が26.8%である

エ 第4・四半期（回答者40人）

- 第4・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表2-27及び図2-27のとおり。
 - 健康状態が「たいへん良好」が5.0%、「まあ良好」が50.0%となっている
 - 一方で、「たいへん悪い」が17.5%、「やや悪い」が27.5%である

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-27及び図2-27のとおり。
 - 主な介護者の健康状態については年間の平均では「たいへん良好」が8.3%、「まあ良好」が51.2%となっている
 - 一方で、「たいへん悪い」が17.3%、「やや悪い」が23.2%である

表 2-27 主たる介護者の健康状態の推移

	たいへん良好	まあ良好	やや悪い	たいへん悪い	回答なし	合計
第1・四半期	4	22	10	5	13	41
	9.8%	53.7%	24.4%	12.2%	—	100.0%
第2・四半期	4	26	7	9	11	46
	8.7%	56.5%	15.2%	19.6%	—	100.0%
第3・四半期	4	18	11	8	13	41
	9.8%	43.9%	26.8%	19.5%	—	100.0%
第4・四半期	2	20	11	7	13	40
	5.0%	50.0%	27.5%	17.5%	—	100.0%
年間単純平均	3.5	21.5	9.8	7.3	12.5	42.0
	8.3%	51.2%	23.2%	17.3%	—	100.0%
30年度平均	2.0	20.8	10.8	6.8	14.8	40.3
	5.0%	51.6%	26.7%	16.8%	—	100.0%
29年度平均	1.0	23.3	10.0	6.3	13.0	40.5
	2.5%	57.4%	24.7%	15.4%	—	100.0%
28年度平均	1.3	22.0	12.0	6.8	14.0	42.0
	3.0%	52.4%	28.6%	16.1%	—	100.0%
27年度平均	2.0	24.5	13.5	3.3	13.3	43.3
	4.6%	56.6%	31.2%	7.5%	—	100.0%
26年度平均	2.0	28.8	14.3	5.3	14.8	50.3
	4.0%	57.2%	28.4%	10.4%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

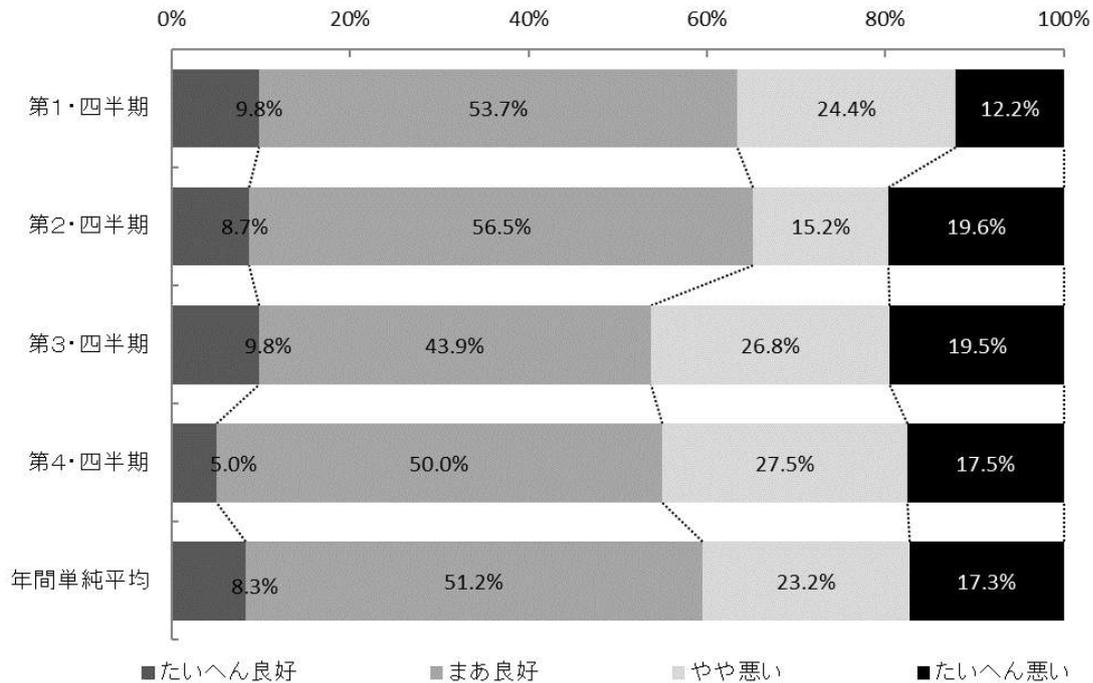


図 2-27 主たる介護者の健康状態の推移

⑥-1 主たる介護者の健康状態 詳細

○主たる介護者の健康状態についての主な具体的理由については、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ ◎心筋梗塞 ○胸椎、腰椎、圧迫骨折で歩行機を仕様しているが視力を必要とする事、物の説明等しているが視力を必要とする事。物の説明等外出介助等も必要に応じする
- ・ 一ヶ月の間に二人の（弟と甥）の葬式を出し納骨等々大変な年始めでした。夫の入院も重なり1月～1月迄、年明けの退院に配慮して頂いた
- ・ 左耳の耳なりがひどいのでイライラする（聴力に問題なし）・不眠
- ・ 1. 脊柱管狭窄症 2. 動脈瘤53ミリ（2019.8現在）
- ・ 2月にopeがあります。体調は良くないです
- ・ 2月に手術しました。その後1週間に2度京都まで通院の為
- ・ 3カ月前に骨折して、その予後があまり良くない
- ・ 7月に出産の手伝いに泊りがけで行った。8月・9月は週2日。だんだんと減ったがとても忙しく疲れた。12月にカゼを引き体調は良くならない。セキが止まらない。薬の副反応で口内炎・下痢が続き、食事がうまく出来ず、逆流性食道炎も悪化した。
- ・ 命ある限り、母の手でしとげたい。
- ・ 外泊等で車イスから下へ降ろす、又反対に下から車イスに座らせる、そのたびに腰痛を起こす。工夫してはいるが難しい。その他は良好です。自分も70才を過ぎだんだん大変になって来た。
- ・ 加齢による腰痛などが増えてきた。
- ・ 逆流性食道炎、症状が悪くなった。ひざ痛。
- ・ 現時点でコロナの影響で外出がしにくい、ヘルパーさんなどが月～土の間入ってもらっているので息抜きができる。
- ・ 更年期になりつつあり、体力や精神的に年々しんどくなります。
- ・ コロナウィルスで不安な毎日です
- ・ ストレス（全てを言葉で説明しなくてはならないため）
- ・ 歳で体力もおとろえてきましたが気力で頑張ってます。
- ・ 寝不足はあるがヘルパーさんたちがまわしてくれているので大丈夫である。
- ・ 圧ぱく骨折してから歩くのが少なくなり、少し歩くと息切れします
- ・ 胃腸の具合が悪く検査してもらい胆濃炎と診断され現在、通院しています
- ・ 加齢症状（腰痛）その他が出てきて心配だから
- ・ 介護・介助量の増加による負担で疲労増悪
- ・ 介護者自身も障害があり、状態が良くない
- ・ 介護疲れ
- ・ 眼症状が悪い為
- ・ 現在はあまり介護は必要ではないが将来もし自分が病気、けが等で入院したらどうしようと不安になります。

- ・ 昨年5月に亡くなった母のことも（相続など）一段落つき、姉のいじめられていましたが心療内科の先生に会わない様にしなさいとの言葉をいただきなんとか落ち着きをとりもどした様に思います
- ・ 仕事・家事に加え介ゴの負担増が今年とても多くなり病気をしている
- ・ 仕事でとてもいそがしい上に、つかれて帰ってきても介助をしなくてはいけない
- ・ 仕事と妻の介護で全ったく休みがない
- ・ 仕事や孫の世話で疲れ気味
- ・ 仕事上のストレスと介助
- ・ 四日市市民病院 動脈瘤（53ミリ） 経過観察診断、心臓CT6ヵ月予約
- ・ 視覚症状の悪化
- ・ 耳の病気が再発している為
- ・ 自身、障害者であり体調不良
- ・ 主人が骨折して入院した為、いろいろ大変だったから
- ・ 出来る事は本人にしてもらい他の人も手伝ってくれる
- ・ 障害状態の悪化 入院治療をした
- ・ 常に介護が必要なため
- ・ 常に言葉での誘導、介護が必要なため
- ・ 前立腺がんで治療中。脳梗塞で言葉が出ない
- ・ 前立腺ガンで病院で治療などがたいへん
- ・ 前立腺癌で治療、カゼで体調不良、脳梗塞で言葉がうまく話せない
- ・ 足腰悪い
- ・ 孫の世話で少々疲れ気味
- ・ 体調をくずしました。（常に介護が必要なため）
- ・ 段々機能低下あるも、実生活に大きな障害はない
- ・ 特別変化なかったため
- ・ 発病以来、本人は視力低下と斗っている。三十年近く妻は<私にしか分からない>がログセである。主に病院と家事に限られるが必ず介護者を必要とする。良好な健康こそすべてである
- ・ 病気をしたため、常に介護が必要なため
- ・ 夫の介護と家族（弟）の見守り
- ・ 夫の入院 弟のキーパーソンになっていた事で葬式を出す事になって心身共に疲れている
- ・ 母が亡くなりいろいろな事あり寝むれない日もあったりとなかなか解決していません。心療内科に通っています。

⑦ 介護をしていく中で困ったことの有無

ア 第1・四半期（回答者 40人）

○第1・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表2-28及び図2-28のとおり。

□困ったことが「増えた」と回答した人は27.5%、「減った」と回答した人は7.5%であった

□一方で12.5%の人は、困ったことは「ない」と回答している

イ 第2・四半期（回答者 45人）

○第2・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表2-28及び図2-28のとおり。

□困ったことが「増えた」と回答した人は33.3%、「減った」と回答した人は6.7%であった

□一方で13.3%の人は、困ったことは「ない」と回答している

ウ 第3・四半期（回答者 37人）

○第3・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表2-28及び図2-28のとおり。

□困ったことが「増えた」と回答した人は40.5%、「減った」と回答した人は5.4%であった

□一方で8.1%の人は、困ったことは「ない」と回答している

エ 第4・四半期（回答者 38人）

○第4・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表2-28及び図2-28のとおり。

□困ったことが「増えた」と回答した人は39.5%、「減った」と回答した人は7.9%であった

□一方で5.3%の人は、困ったことは「ない」と回答している

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-28及び図2-28のとおり。

□困ったことが「増えた」と回答した人は35.0%、「減った」と回答した人は6.9%、「変わらない」と回答した人は48.1%である

□また、困ったことは「ない」と回答した人は10.0%である

表 2-28 介護をしていく中で困ったことの有無の推移

	困ったことが 増えた	困ったことが 減った	困ったことが 変わらない	困ったことは ない	回答なし	合 計
第1・四半期	11	3	21	5	15	40
	27.5%	7.5%	52.5%	12.5%	—	100.0%
第2・四半期	15	3	21	6	12	45
	33.3%	6.7%	46.7%	13.3%	—	100.0%
第3・四半期	15	2	17	3	17	37
	40.5%	5.4%	45.9%	8.1%	—	100.0%
第4・四半期	15	3	18	2	15	38
	39.5%	7.9%	47.4%	5.3%	—	100.0%
年間単純平均	14.0	2.8	19.3	4.0	14.8	40.0
	35.0%	6.9%	48.1%	10.0%	—	100.0%
30年度平均	13.8	1.5	20.0	4.3	15.5	39.5
	34.8%	3.8%	50.6%	10.8%	—	100.0%
29年度平均	13.5	1.3	21.8	3.8	13.3	40.3
	33.5%	3.1%	54.0%	9.3%	—	100.0%
28年度平均	13.8	1.5	17.8	8.3	14.8	41.3
	33.3%	3.6%	43.0%	20.0%	—	100.0%
27年度平均		21.8		17.8	17.0	39.5
		55.1%		44.9%	—	100.0%
26年度平均		27.3		19.3	18.5	46.5
		58.6%		41.4%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

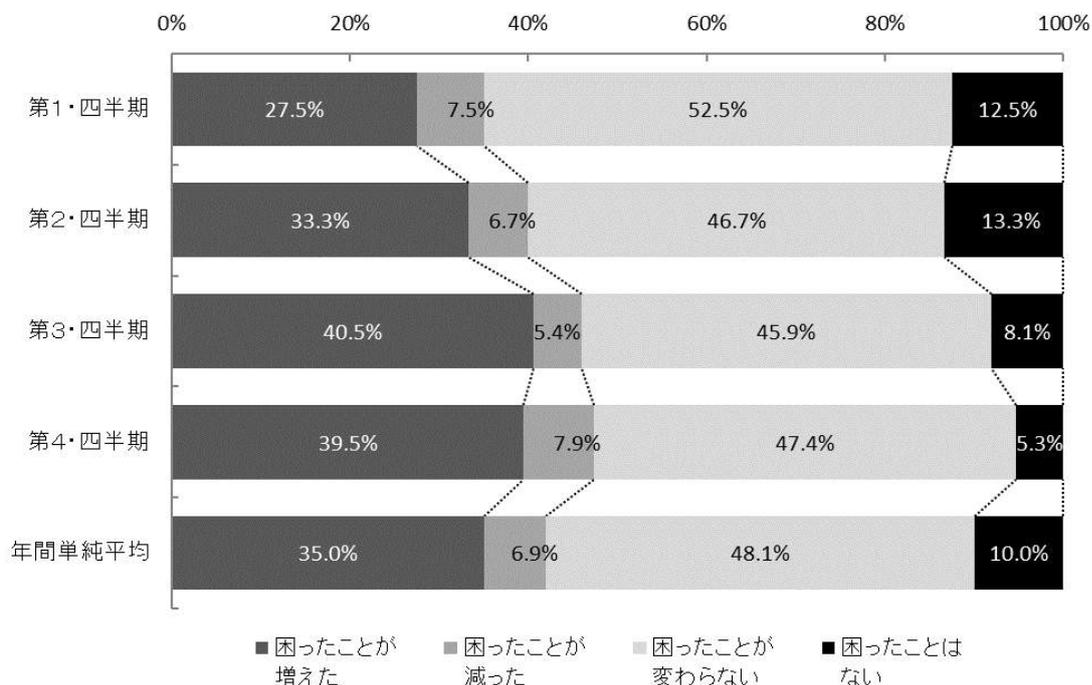


図 2-28 介護をしていく中で困ったことの有無の推移

⑦-1 介護をしていく中で困ったこと

○「介護をしていく中で困ったことがある」と回答した方の具体的な内容は以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 子供が具合が悪い時に病院に連れていくのに車を運転しているので、後ろに座っている子供の吸引等ができない
- ・ 介護者自身の事でいっぱいになり、支援しづらい
- ・ 当事者も年を重ね、介護者もその分年をとるのでいろいろと大変です。自立する事は一生ないので。
- ・ 排尿、排便ができなくなる時がある
- ・ 夫が自分の時間が必要になってきたので娘をみながららない。
- ・ 加齢により体力が落ちた。
- ・ 本人の健康の不安がある。
- ・ 排便、排尿ができなくなる時がある。
- ・ 疲労を感じる。更年期？
- ・ マスク、アルコール消毒が売ってない。
- ・ 急な用事の際、すぐに代替りの介護者が見つからなかった
- ・ 急な用事の時に一人で外出できず困った
- ・ 仕事の都合で介助できないことがある
- ・ 急な用事の際、すぐに代替りの介護者が見つからなかった
- ・ 何にでも参加したがる
- ・ 仕事の都合で本人の希望に答えられない時がある
- ・ 急な用事の際すぐに代替りの介護者が見つからなかった
- ・ 長女が10月6日より東京転勤になり家を離れましたことと二女が僧籍を取る為12月知恩院にて業に入りこれも家におらず皆んなで何んとかのりきっております
- ・ 急に通院（病院に行かなければならない時）
- ・ 急な用事の際、すぐに代替りの介護者が見つからなかった
- ・ 家族の怪我による入院と身内の葬式
- ・ 12月知恩院で修業中は家と全く連絡がとれなかったのが気にはなったのですが何の変りもなかったのではとしました
- ・ 仕事の都合で介護できないことがあった
- ・ 自分の病気のことあるのでたいへん

⑦-2 困ったことがあった場合、誰かに相談したか

ア 第1・四半期（回答者 24 人）

- 介護をしていく中で困ったことがあったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。
第1・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおり（複数回答）。
- 「看護師・保健師」が 20.8%、「子ども」が 16.7%、「配偶者」と「友人・知人」が 12.5%となっている
- 「相談する人はいない」は 16.7%であった

イ 第2・四半期（回答者 23 人）

- 第2・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおり（複数回答）。
- 「配偶者」と「子ども」が 26.1%、「友人・知人」と「医師」と「公的機関の職員等」が 13.0%となっている
- 「相談する人はいない」は 21.7%であった

ウ 第3・四半期（回答者 23 人）

- 第3・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおり（複数回答）。
- 「配偶者」が 21.7%、「医師」と「公的機関の職員等」が 17.4%、「子ども」が 13.0%となっている
- 「相談する人はいない」は 26.1%となっている

エ 第4・四半期（回答者 32 人）

- 第4・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおり（複数回答）。
- 「配偶者」が 18.8%、「子ども」が 15.6%、「医師」が 12.5%となっている
- 「相談する人はいない」は 18.8%となっている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-29 及び図 2-29 のとおり（複数回答）。
- 「配偶者」が 19.6%、「子ども」が 17.6%、「医師」が 12.7%となっている
- 「相談する人はいない」は 20.6%となっている

表 2-29 困ったときの相談の有無の推移

	親	配偶者	子ども	兄弟姉妹	祖父母	友人・知人	会社の上司・同僚	幼稚園・保育園等の先生	学校の先生	医師	看護師・保健師	公的機関の職員等	PMDAの保健福祉相談窓口	障害者の団体	障害者相談支援センター	地域包括支援センター	その他	相談する人はいない	回答なし	回答者数
第1・四半期	2	3	4	2	1	3	0	—	0	2	5	2	2	1	1	1	0	4	16	24
	8.3%	12.5%	16.7%	8.3%	4.2%	12.5%	0.0%	—	0.0%	8.3%	20.8%	8.3%	8.3%	4.2%	4.2%	4.2%	0.0%	16.7%	—	—
第2・四半期	1	6	6	1	1	3	0	—	0	3	2	3	0	2	1	1	1	5	16	23
	4.3%	26.1%	26.1%	4.3%	4.3%	13.0%	0.0%	—	0.0%	13.0%	8.7%	13.0%	0.0%	8.7%	4.3%	4.3%	4.3%	21.7%	—	—
第3・四半期	1	5	3	2	0	2	1	—	0	4	2	4	0	1	1	1	2	6	11	23
	4.3%	21.7%	13.0%	8.7%	0.0%	8.7%	4.3%	—	0.0%	17.4%	8.7%	17.4%	0.0%	4.3%	4.3%	4.3%	8.7%	26.1%	—	—
第4・四半期	2	6	5	0	0	1	1	—	0	4	2	3	0	1	0	1	2	6	4	32
	6.3%	18.8%	15.6%	0.0%	0.0%	3.1%	3.1%	—	0.0%	12.5%	6.3%	9.4%	0.0%	3.1%	0.0%	3.1%	6.3%	18.8%	—	—
年間単純平均	1.5	5.0	4.5	1.3	0.5	2.3	0.5	—	0.0	3.3	2.8	3.0	0.5	1.3	0.8	1.0	1.3	5.3	11.8	25.5
	5.9%	19.6%	17.6%	4.9%	2.0%	8.8%	2.0%	—	0.0%	12.7%	10.8%	11.8%	2.0%	4.9%	2.9%	3.9%	4.9%	20.6%	—	—
30年度平均	0.5	5.5	6.5	1.5	0.3	3.5	0.0	—	0.0	2.5	0.8	2.0	0.3	1.3	1.0	0.5	1.0	5.0	17.5	17.8
	2.8%	31.0%	36.6%	8.5%	1.4%	19.7%	0.0%	—	0.0%	14.1%	4.2%	11.3%	1.4%	7.0%	5.6%	2.8%	5.6%	28.2%	—	—
29年度平均	2.0	6.3	6.8	1.5	0.8	4.0	0.0	—	0.3	2.0	0.8	2.5	0.0	2.3	0.8	1.0	1.5	4.5	14.5	22.0
	9.1%	28.4%	30.7%	6.8%	3.4%	18.2%	0.0%	—	1.1%	9.1%	3.4%	11.4%	0.0%	10.2%	3.4%	4.5%	6.8%	20.5%	—	—
28年度平均	2.0	6.8	8.0	1.8	0.8	4.5	0.0	—	2.3	2.8	1.8	2.3	0.5	1.8	1.8	1.0	1.5	5.8	10.0	23.0
	8.7%	29.3%	34.8%	7.6%	3.3%	19.6%	0.0%	—	9.8%	12.0%	7.6%	9.8%	2.2%	7.6%	7.6%	4.3%	6.5%	25.0%	—	—
27年度平均	1.3	4.5	6.5	1.3	0.5	4.3	0.0	0.0	1.0	0.8	0.5	1.8	—	2.0	—	—	2.0	4.5	2.5	19.3
	6.5%	23.4%	33.8%	6.5%	2.6%	22.1%	0.0%	0.0%	5.2%	3.9%	2.6%	9.1%	—	10.4%	—	—	10.4%	23.4%	—	—
26年度平均	1.5	5.3	8.8	2.3	1.0	4.5	0.3	0.3	3.0	3.5	2.0	1.8	—	2.0	—	—	3.5	4.8	1.8	25.5
	5.9%	20.6%	34.3%	8.8%	3.9%	17.6%	1.0%	1.0%	11.8%	13.7%	7.8%	6.9%	—	7.8%	—	—	13.7%	18.6%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

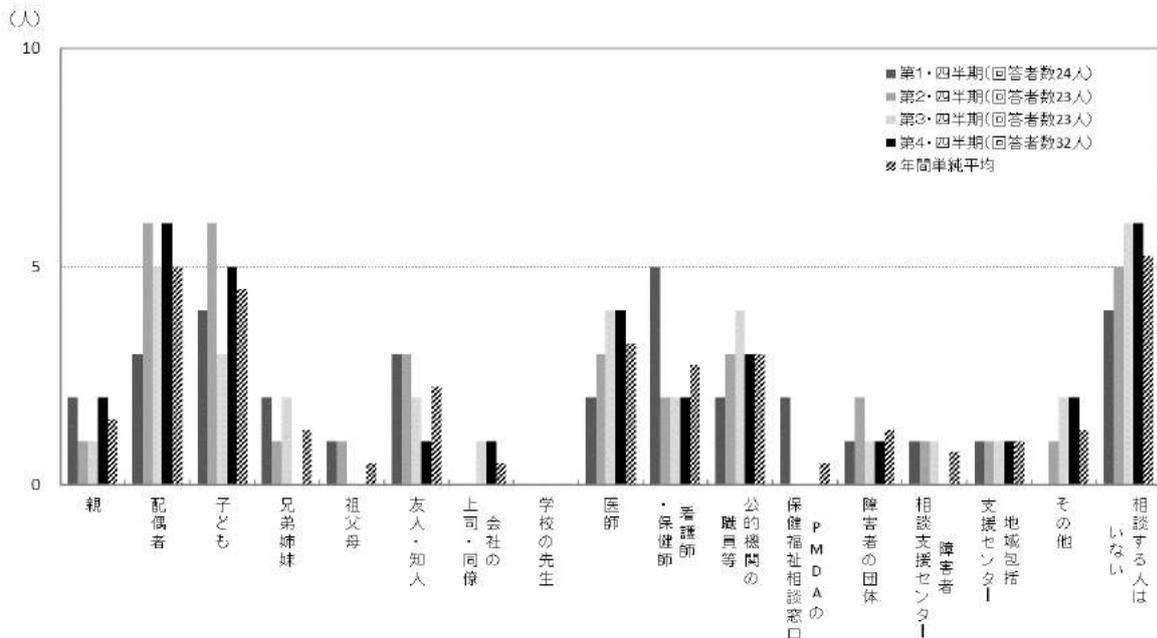


図 2-29 困ったときの相談の有無の推移

⑦-3 解決策の有無

ア 第1・四半期（回答者 19人）

○介護をしていく中で困ったことがあったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。
第1・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表2-30及び図2-30のとおり。

□「解決した」と回答した人は36.8%、「解決していない」と回答した人は63.2%であった

イ 第2・四半期（回答者 21人）

○第2・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表2-30及び図2-30のとおり。

□「解決した」と回答した人は33.3%、「解決していない」と回答した人は66.7%であった

ウ 第3・四半期（回答者 19人）

○第3・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表2-30及び図2-30のとおり。

□「解決した」と回答した人は31.6%、「解決していない」と回答した人は68.4%であった

エ 第4・四半期（回答者 21人）

○第4・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表2-30及び図2-30のとおり。

□「解決した」と回答した人は28.6%、「解決していない」と回答した人は71.4%であった

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-30及び図2-30のとおり。

□「解決した」と回答した人は32.5%、「解決していない」と回答した人は67.5%であった

表 2-30 解決策の有無の推移

	解決した	解決していない	回答なし	合計
第1・四半期	7	12	16	19
	36.8%	63.2%	—	100.0%
第2・四半期	7	14	18	21
	33.3%	66.7%	—	100.0%
第3・四半期	6	13	15	19
	31.6%	68.4%	—	100.0%
第4・四半期	6	15	15	21
	28.6%	71.4%	—	100.0%
年間単純平均	6.5	13.5	16.0	20.0
	32.5%	67.5%	—	100.0%
30年度平均	5.8	14.0	15.5	19.8
	29.1%	70.9%	—	100.0%
29年度平均	6.5	13.0	17.0	19.5
	33.3%	66.7%	—	100.0%
28年度平均	5.5	15.3	12.3	20.8
	26.5%	73.5%	—	100.0%
27年度平均	9.3	9.8	2.8	19.0
	48.7%	51.3%	—	100.0%
26年度平均	11.0	14.5	1.8	25.5
	43.1%	56.9%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

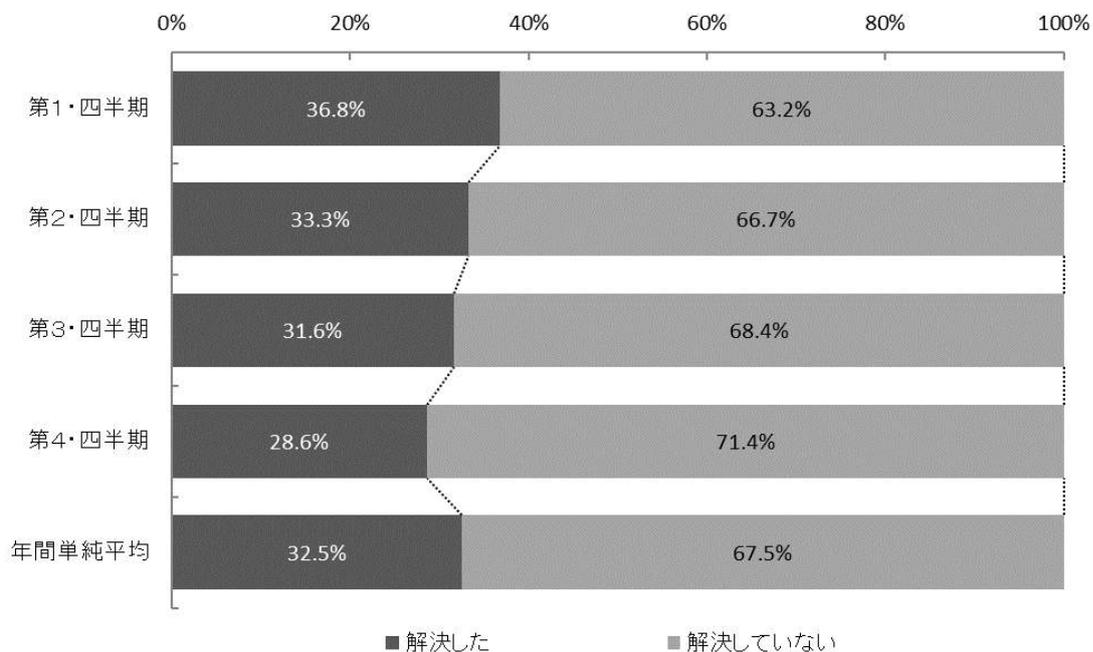


図 2-30 解決策の有無の推移

⑦-4 困ったことの解決策

○介護をしていく中での主な具体的解決策については、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解決策
子供が具合が悪い時に病院に連れていくのに車を運転しているの、後ろに座っている子供の吸引等ができない	救急車を呼ぶ
排尿、排便ができなくなる時がある	導尿、ネラトンを使った排便を訪看さんに教えてもらう
夫が自分の時間が必要になってきたので娘をみたららない。	自分がみることをふやした。
加齢により体力が落ちた。	主治医の病院で親が亡くなった後も面倒を見ると言ってもらえた。
排便、排尿ができなくなる時がある。	自宅に導尿セットなどを購入しておいて具合が悪い時訪看さんに来てもらって処置してもらう。
マスク、アルコール消毒が売ってない。	マスクは友人に分けてもらった。アルコール消毒は現在使っているのが終わると在庫はない。
急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからなかった	身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した
急な用事の時に一人で外出できず困った	まわりの方に相談し、協力してもらえたため
急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからなかった	身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した
急な用事の際すぐに代わりの介護者が見つからなかった	身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した
家族の怪我による入院と身内の葬式	やるしかなかった
12月知恩院で修業中は家と全く連絡がとれなかったの、気にはなったのですが何の変りもなかったの、ほっとしました	何事もなく暮していたことで解決
仕事の都合で介護できないことがあった	退職した
自分の病気のことあるのでたいへん	3月からケアマネを男性から女性にかわってもらった。こまかいことが女性の方が話しやすい

⑦-5 困ったことの解決方法

○主たる介護者にたずねた、困ったことの主な具体的解決方法については、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解決方法
母老化であるが、母の手でせめてと頑張るのが母の健康になっている故。	座会話不能故、他人では出来ない。
体重がなかなかへらず、かつぐのが大変。	もう少し本人の食べる量がへればよいかなと思います。
本人の体重が60kgをこえて介護が重さで大変である。	本人の食欲を（特に夜）おさえるようにしている。
本人骨格がしっかりしている為全体的にがちりしている。食事をへらしたりしているがなかなか体重がへらない。	徐々にだが本人食べる量をへらしていきたいと思う。
母老化であるが、母の手でせめてと頑張るのが母の健康になっている故。	座会話不能故、他人では出来ない。
体重がなかなかへらず、かつぐのが大変。	もう少し本人の食べる量がへればよいかなと思います。
本人の体重が60kgをこえて介護が重さで大変である。	本人の食欲を（特に夜）おさえるようにしている。
本人骨格がしっかりしている為全体的にがちりしている。食事をへらしたりしているがなかなか体重がへらない。	徐々にだが本人食べる量をへらしていきたいと思う。
ひざ痛。	運動してひざを鍛える。
出来ない事が増えた	健康被害者の視力回復
全盲に近いので、介助することがとても増えている	PMDAの対応の悪さに心から悲しく辛い心境です
自分の身体が高齢の為思う様にならなくなった	昭和55年以前の患者の問題などなぜ？S55年と区切ったのか返事なし
圧ぱく骨折をまたした為、歩かないと行けないのですが、なかなか歩いてもらえない	時間がたてば、少しましになると思います
・-1の通り、状態が悪い事で、出来る事が減った。たよるにも経済的に無理な状態	健康被害者の視力の回復はもちろん他体調の回復

上記に依り、介護者がいなくなったらどうするか	すべて後期老々介護の健康寿命維持が問われる
夫の失禁や徘徊・DVで視覚障害の息子より対応に苦慮している	ケアマネージャー地域包括支援センター社会福祉協議会} と話し合いをして行く
以前より介護が出来なくなった	障害は悪化しているので経済的不安がなくなる事。健康被害者の視力の回復
生活が別なので毎日行くことができない	毎日誰かが行き来できれば、コンタクトの交換が確実にできる
上記1の症状が進んで夜間歩行困難、起居不自由を体験した。(12/25現在少康状態) 2突然の宣告(心臓CT)でびっくり驚天。経過観察予約を継続	ドクター曰く市立病院は術例も多く、豚弁膜の移植などで10~15年延命が可能であるから心配しないでよらしい
視力低下があり、1人で行動出来なくなった	医学の進歩に期待する
自身の体調不良により出来る事がへった	自身の障害は悪化する事は増えて行くので今後は心配

⑧ 主たる介護者を支えるものの有無

ア 第1・四半期（回答者 28人）

○第1・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表2-31及び図2-31のとおり。

□「あった」と回答した人は71.4%、「なかった」と回答した人は28.6%であった

イ 第2・四半期（回答者 31人）

○第2・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表2-31及び図2-31のとおり。

□「あった」と回答した人は48.4%、「なかった」と回答した人は51.6%であった

ウ 第3・四半期（回答者 28人）

○第3・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表2-31及び図2-31のとおり。

□「あった」と回答した人は64.3%、「なかった」と回答した人は35.7%であった

エ 第4・四半期（回答者 28人）

○第4・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表2-31及び図2-31のとおり。

□「あった」と回答した人は60.7%、「なかった」と回答した人は39.3%であった

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-31及び図2-31のとおり。

□「あった」と回答した人は60.9%、「なかった」と回答した人は39.1%であった

表 2-31 主たる介護者を支えるものの有無の推移

	あった	なかった	回答なし	合計
第1・四半期	20	8	27	28
	71.4%	28.6%	—	100.0%
第2・四半期	15	16	26	31
	48.4%	51.6%	—	100.0%
第3・四半期	18	10	26	28
	64.3%	35.7%	—	100.0%
第4・四半期	17	11	25	28
	60.7%	39.3%	—	100.0%
年間単純平均	17.5	11.3	26.0	28.8
	60.9%	39.1%	—	100.0%
30年度平均	17.8	10.5	26.8	28.3
	62.8%	37.2%	—	100.0%
29年度平均	16.0	11.8	25.8	27.8
	57.7%	42.3%	—	100.0%
28年度平均	16.5	13.0	26.5	29.5
	55.9%	44.1%	—	100.0%
27年度平均	18.0	16.0	22.5	34.0
	52.9%	47.1%	—	100.0%
26年度平均	22.0	19.5	23.5	41.5
	53.0%	47.0%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

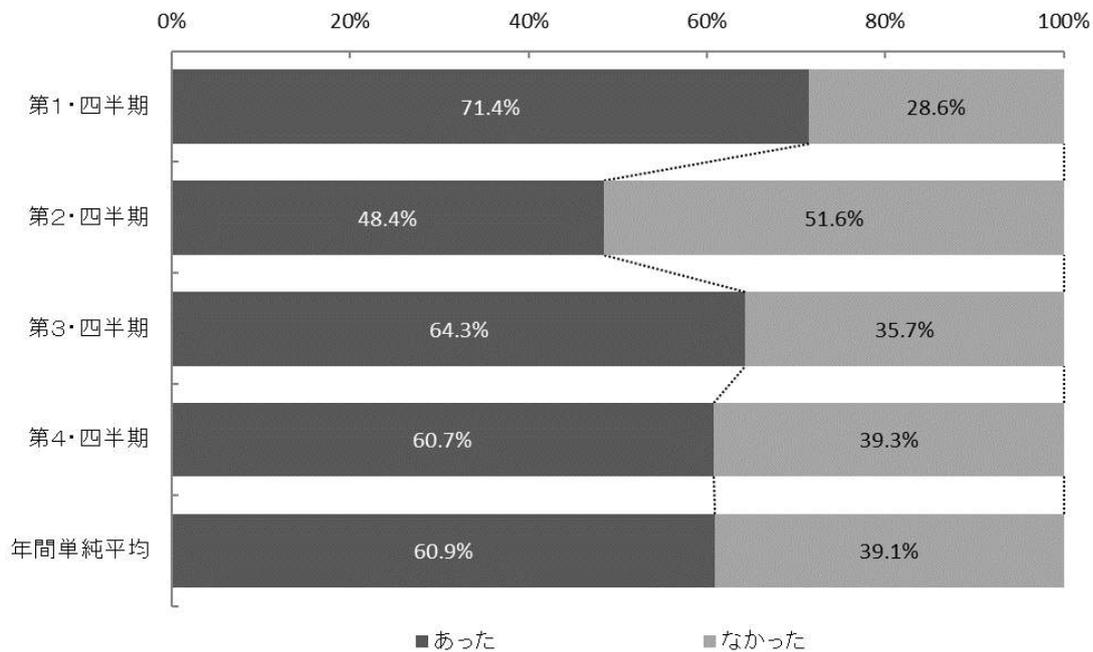


図 2-31 主たる介護者を支えるものの有無の推移

⑧-1 介護者を支えるもの 具体的内容

○主たる介護者を支える主な具体的内容については、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

1. 家族

- ・ 時間のある人が手伝う
- ・ 夫に相談
- ・ まず本人が意欲を以って（20数年）視力低下と闘っている。この気持がありがたい

2. 知人・友人

- ・ 先日急に歯が痛くなり、私の都合がつかず知人に連れていってもらった（急な時にはガイドさんは頼めず困りました）
- ・ 友人との会話
- ・ 友人との食事会

3. ヘルパー・デイサービス

- ・ 本人が要介護の認定がとれ、僅かであるが夫が出来ない家事（例えば裁ほうなど）をホームヘルパーに依頼出来るようになった
- ・ ヘルパーさん、訪看さん

4. 患者会

- ・ 障害者団体の親の会。
- ・ 障害者家族の会など。
- ・ 患者の会で病院や介護施設の情報交換をした

5. 公的な機関・制度

- ・ 相談、報告、連絡（各事業所間のサービス調整）

生活面での情報提供を受けた

6. 趣味・外出など

- ・ 毎週、体の施術に入っている（本人）
- ・ 姉の家を宿にして友人とコンサートに行ったり東京見物も出来た。剃髪にして業に入ることが出来た。→12月25日僧籍取得
- ・ 趣味を行って、ストレス解消する

⑨ 介護者の社会参加・社会活動等の状況

ア 第1・四半期（回答者 39 人）

- 第1・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-32 及び図 2-32 のとおり。
- 社会参加や社会活動などを行っている人が 71.8%、行っていない人が 28.2%となっている

イ 第2・四半期（回答者 41 人）

- 第2・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-32 及び図 2-32 のとおり。
- 社会参加や社会活動などを行っている人が 78.0%、行っていない人が 22.0%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 37 人）

- 第3・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-32 及び図 2-32 のとおり。
- 社会参加や社会活動などを行っている人が 73.0%、行っていない人が 27.0%となっている

エ 第4・四半期（回答者 37 人）

- 第4・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-32 及び図 2-32 のとおり。
- 社会参加や社会活動などを行っている人が 56.8%、行っていない人が 43.2%となっている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-32 及び図 2-32 のとおり。
- 社会参加や社会活動などを行っている人と行っていない人の割合は、年間平均では、行っている人が 70.1%、行っていない人が 29.9%となっている

表 2-32 介護者の社会参加・社会活動等の実施状況の推移

	参加(活動)した	まったくしていない	回答なし	合計
第1・四半期	28	11	16	39
	71.8%	28.2%	—	100.0%
第2・四半期	32	9	16	41
	78.0%	22.0%	—	100.0%
第3・四半期	27	10	17	37
	73.0%	27.0%	—	100.0%
第4・四半期	21	16	16	37
	56.8%	43.2%	—	100.0%
年間単純平均	27.0	11.5	16.3	38.5
	70.1%	29.9%	—	100.0%
29年度平均	28.0	12.3	13.3	40.3
	69.6%	30.4%	—	100.0%
28年度平均	28.5	12.3	15.3	40.8
	69.9%	30.1%	—	100.0%
27年度平均	31.0	12.5	13.0	43.5
	71.3%	28.7%	—	100.0%
26年度平均	32.8	14.3	18.0	47.0
	69.7%	30.3%	—	100.0%
25年度平均	37.3	17.0	14.3	54.3
	68.7%	31.3%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

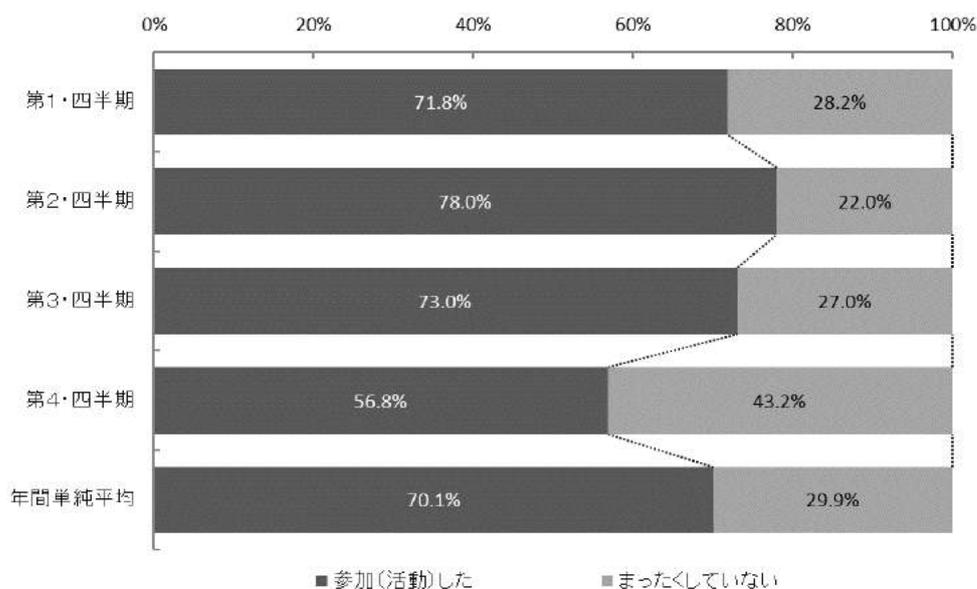


図 2-32 介護者の社会参加・社会活動等の実施状況の推移

⑨-1 介護者の社会参加・社会活動等をしなかった理由（SJSの健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者7人）

○社会参加や社会活動などを行わなかったと答えた人にその理由を求めた（以下、同じ）。

第1・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-33及び図2-33のとおり。

□「時間的・経済的に余裕なし」が14.3%、「体力的に余裕なし」が57.1%となっている

イ 第2・四半期（回答者9）

○第2・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-33及び図2-33のとおり。

□「時間的・経済的に余裕なし」が33.3%、「体力的に余裕なし」が44.4%となっている

ウ 第3・四半期（回答者9人）

第3・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-33及び図2-33のとおり。

□「時間的・経済的に余裕なし」が22.2%、「体力的に余裕なし」が44.4%となっている

エ 第4・四半期（回答者16人）

○第4・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-33及び図2-33のとおり。

□「時間的・経済的に余裕なし」が31.3%、「体力的に余裕なし」が37.5%となっている

□その他としては、「コロナウイルスの為」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-33及び図2-33のとおり。

□社会参加・社会活動などを行わなかった理由の年間平均では、「時間的・経済的に余裕なし」が26.8%、「体力的に余裕なし」が43.9%となっている

表 2-33 介護者の社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

	時間的・経済的に余裕なし	体力的に余裕なし	その他	回答なし	合計
第1・四半期	1	4	2	0	7
	14.3%	57.1%	28.6%	—	100.0%
第2・四半期	3	4	2	0	9
	33.3%	44.4%	22.2%	—	100.0%
第3・四半期	2	4	3	2	9
	22.2%	44.4%	33.3%	—	100.0%
第4・四半期	5	6	5	0	16
	31.3%	37.5%	31.3%	—	100.0%
年間単純平均	2.8	4.5	3.0	0.5	10.3
	26.8%	43.9%	29.3%	—	100.0%
30年度平均	2.5	5.0	2.0	3.0	9.5
	26.3%	52.6%	21.1%	—	100.0%
29年度平均	4.0	3.3	1.5	3.0	8.8
	45.7%	37.1%	17.1%	—	100.0%
28年度平均	3.0	2.0	4.3	1.3	9.3
	32.4%	21.6%	45.9%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

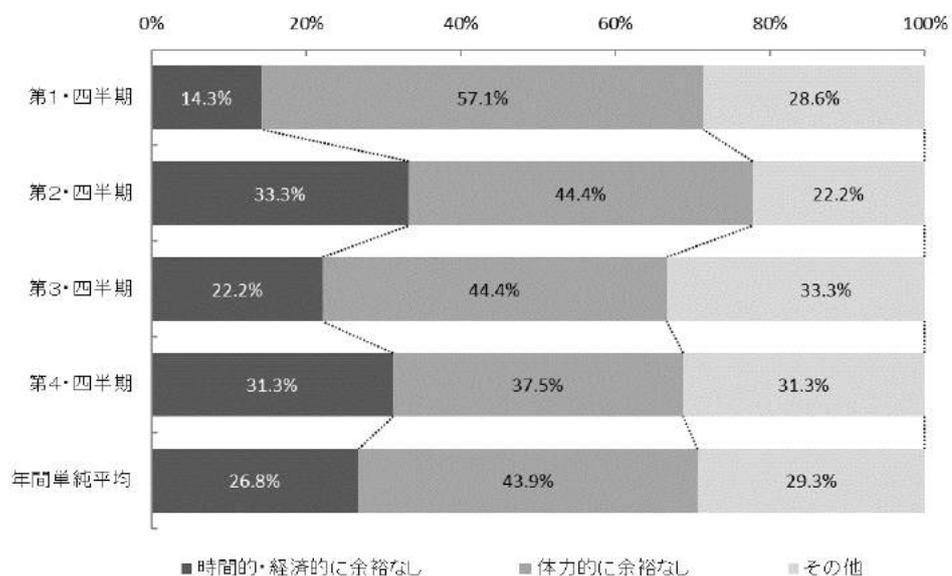


図 2-33 介護者の社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

⑨-2 介護者の社会参加・社会活動のきっかけ（SJSの健康被害者の方のみに質問）

○主たる介護者の社会参加・社会活動の主なきっかけについては、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ お寺の門徒委員・文学教室（月1）の参加
- ・ ストレス発散の為
- ・ ネットによる情報、友人からの勧め
- ・ ボランティアに参加している
- ・ まわりの方々のおさそいや私も自分で行ける範囲で探しました
- ・ 映画の内容が2人共見たい内容の物であったため
- ・ 何とか時間をつくってサッカーにいった
- ・ 家族旅行
- ・ 会社のすすめで資格取得の勉強ファンクラブの参加（友人と）
- ・ 基本的に介助で旅行した
- ・ 近くにヨガスタジオができ、時間的余裕ができたので
- ・ 近隣で市民交響楽団のコンサートに行く事が出来た
- ・ 散歩、買物
- ・ 子供のころから文芸教養に関心があり、続けていくことで仲間もいる。
- ・ 自分自身の知識向上のため研修に参加
- ・ 小学校で卓球に参加しました
- ・ 知人のコンサートに行きました
- ・ 地域のイベント・研修
- ・ 地域の小学校にて卓球をしていましたので参加しました。
- ・ 地域の体育振興会の役員さんに卓球の大会（地域の会）に出場する事をすすめられ出場しました。
- ・ 中、高、大学の友人関係
- ・ 町内の夏まつりに参加しました。
- ・ 買い物、散歩
- ・ 包括支援センター主催、認知症サポーター養成講座
- ・ 呆けない為にも交際範囲を維持したいという思い
- ・ 友人、知人からの勧めがあった

⑨-3 介護者の社会参加・社会活動等の内容

ア 第1・四半期（回答者 28 人）

- 社会参加や社会活動などを行ったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表 2-34 及び図 2-34 のとおり（複数回答）。
- 「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 57.1%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 35.7%、「友達との遊び」が 39.3%となっている
- その他としては、「包括センター主催の研修など」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 31 人）

- 第2・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表 2-34 及び図 2-34 のとおり（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 48.4%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 45.2%、「地域活動」が 35.5%となっている
- その他としては、「友だちとランチ」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 26 人）

- 第3・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表 2-34 及び図 2-34 のとおり（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」と「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 53.8%、「友達との遊び」が 46.2%、「スポーツ教室、大会などへの参加」が 30.8%となっている
- その他としては、「山歩き、散歩」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 21 人）

- 第4・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表 2-34 及び図 2-34 のとおり（複数回答）。
- 「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 47.6%、「スポーツ教室、大会などへの参加」が 38.1%、「趣味の同好会活動」と「地域活動」と「友達との遊び」が 33.3%となっている
- その他としては、「散歩、かいもの」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-34及び図2-34のとおり（複数回答）。

□ 「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が50.9%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が41.5%、「友達との遊び」が36.8%、となっている

表2-34 社会参加・社会活動等の内容の推移

	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	スポーツ教室、大会などへの参加	旅行・キャンプ・つりなどの活動	趣味の同好会活動	ボランティアなどの社会活動	障害者団体の活動	地域活動	パソコンを利用した社会参加	友達との遊び	その他	特になし	回答なし	回答者数
第1・四半期	10	3	16	6	4	4	8	2	11	12	—	0	28
	35.7%	10.7%	57.1%	21.4%	14.3%	14.3%	28.6%	7.1%	39.3%	42.9%	—	—	—
第2・四半期	15	7	14	6	4	2	11	2	9	14	—	1	31
	48.4%	22.6%	45.2%	19.4%	12.9%	6.5%	35.5%	6.5%	29.0%	45.2%	—	—	—
第3・四半期	14	8	14	6	2	3	4	2	12	13	—	1	26
	53.8%	30.8%	53.8%	23.1%	7.7%	11.5%	15.4%	7.7%	46.2%	50.0%	—	—	—
第4・四半期	5	8	10	7	4	1	7	4	7	6	—	0	21
	23.8%	38.1%	47.6%	33.3%	19.0%	4.8%	33.3%	19.0%	33.3%	28.6%	—	—	—
年間単純平均	11.0	6.5	13.5	6.3	3.5	2.5	7.5	2.5	9.8	11.3	—	0.5	26.5
	41.5%	24.5%	50.9%	23.6%	13.2%	9.4%	28.3%	9.4%	36.8%	42.5%	—	—	—
30年度平均	13.5	5.3	13.8	7.5	3.0	3.0	8.0	3.5	10.3	2.5	—	3.3	25.3
	53.5%	20.8%	54.5%	29.7%	11.9%	11.9%	31.7%	13.9%	40.6%	9.9%	—	—	—
29年度平均	11.0	5.8	11.0	8.0	5.3	3.8	8.0	4.0	9.3	2.5	—	0.0	28.0
	39.3%	20.5%	39.3%	28.6%	18.8%	13.4%	28.6%	14.3%	33.0%	8.9%	—	—	—
28年度平均	12.3	8.5	12.5	7.5	4.0	2.5	8.5	3.5	9.8	4.8	—	0.3	28.3
	43.4%	30.1%	44.2%	26.5%	14.2%	8.8%	30.1%	12.4%	34.5%	16.8%	—	—	—
27年度平均	13.3	7.5	14.3	8.8	4.3	4.0	3.0	2.5	—	6.0	0.0	0.5	30.5
	43.4%	24.6%	46.7%	28.7%	13.9%	13.1%	9.8%	8.2%	—	19.7%	0.0%	—	—
26年度平均	13.0	7.5	12.3	7.0	3.8	4.0	8.0	3.0	—	8.5	0.3	0.0	31.0
	41.9%	24.2%	39.5%	22.6%	12.1%	12.9%	25.8%	9.7%	—	27.4%	0.8%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

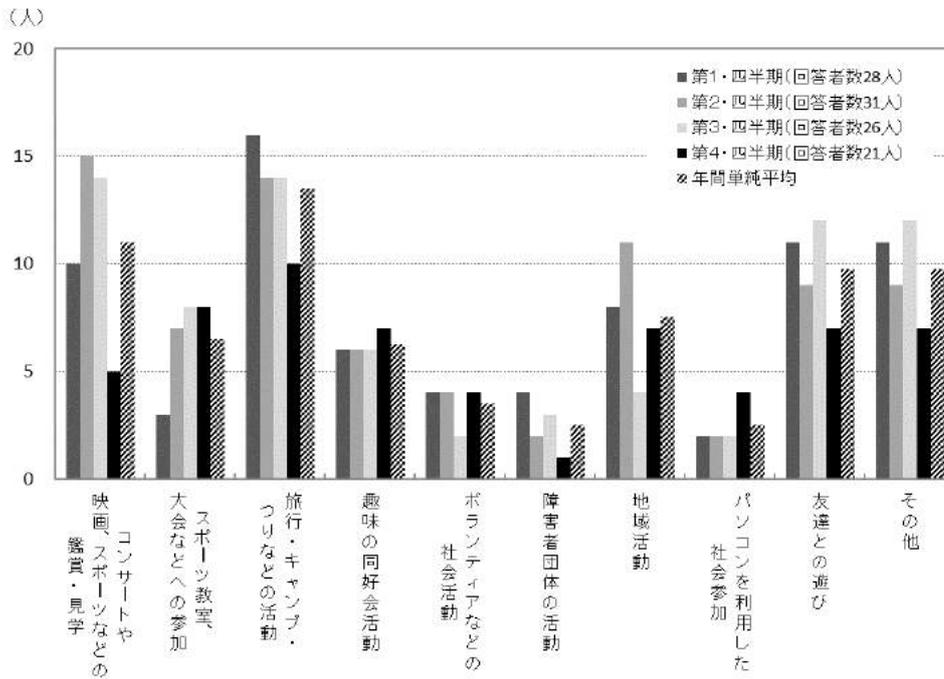


図2-34 社会参加・社会活動等の内容の推移

⑩ 新しい発見や気分転換などの有無

ア 第1・四半期（回答者34人）

○第1・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表2-35及び図2-35のとおり。

□「あった」と回答した人は41.2%、「なかった」と回答した人は58.8%であった

イ 第2・四半期（回答者34人）

○第2・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表2-35及び図2-35のとおり。

□「あった」と回答した人は35.3%、「なかった」と回答した人は64.7%であった

ウ 第3・四半期（回答者31人）

○第3・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表2-35及び図2-35のとおり。

□「あった」と回答した人は41.9%、「なかった」と回答した人は58.1%であった

エ 第4・四半期（回答者31人）

○第4・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表2-35及び図2-35のとおり。

□「あった」と回答した人は32.3%、「なかった」と回答した人は67.7%であった

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-35及び図2-35のとおり。

□介護をしていく中で新しい発見や気分転換などの有無については、年間の平均では「あった」が37.7%、「なかった」が62.3%であった

表 2-35 介護をしていく中で新しい発見や気分転換の有無の推移

	あった	なかった	回答なし	合計
第1・四半期	14	20	21	34
	41.2%	58.8%	—	100.0%
第2・四半期	12	22	23	34
	35.3%	64.7%	—	100.0%
第3・四半期	13	18	23	31
	41.9%	58.1%	—	100.0%
第4・四半期	10	21	22	31
	32.3%	67.7%	—	100.0%
年間単純平均	12.3	20.3	22.3	32.5
	37.7%	62.3%	—	100.0%
30年度平均	12.5	21.3	21.3	33.8
	37.0%	63.0%	—	100.0%
29年度平均	13.3	19.3	21.0	32.5
	40.8%	59.2%	—	100.0%
28年度平均	13.8	21.5	20.8	35.3
	39.0%	61.0%	—	100.0%
27年度平均	14.5	21.8	20.3	36.3
	40.0%	60.0%	—	100.0%
26年度平均	14.5	27.8	22.8	42.3
	34.3%	65.7%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

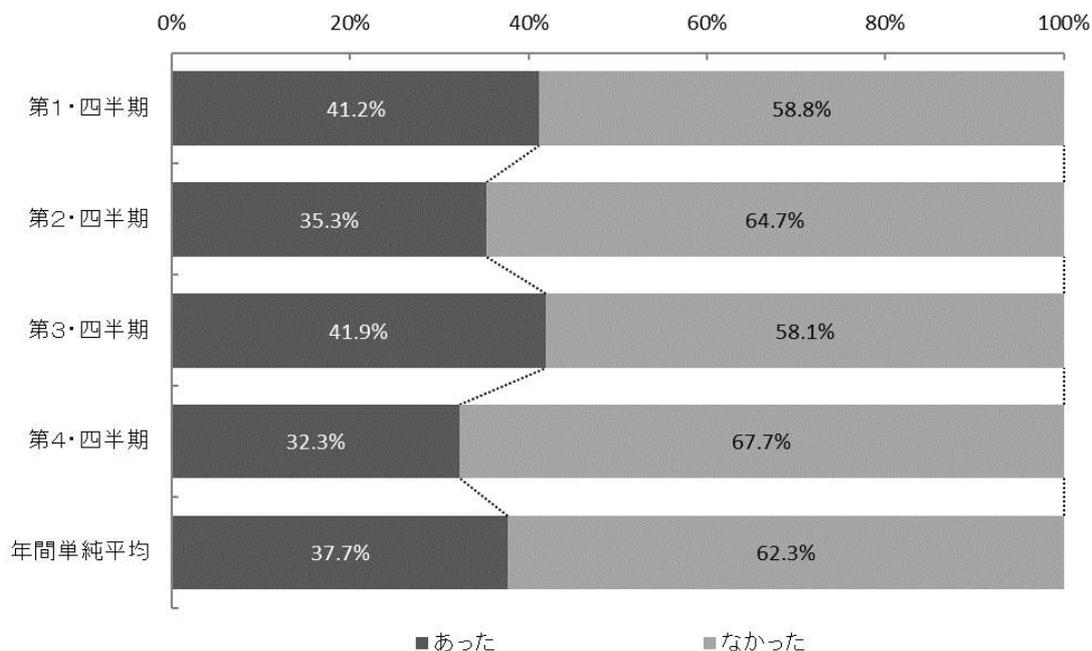


図 2-35 介護をしていく中で新しい発見や気分転換の有無の推移

⑩-1 新しい発見や気分転換について

○⑩で「あった」と回答した本人または介護者にたずねた主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ かくれていた植木鉢に花が咲いていたのを発見して。
- ・ 家族との買い物に行った時
- ・ 介護という意識があまりないので
- ・ 皆同じなやみを持つてゐる事の安心感
- ・ 学ぶことで知識が増えたこと
- ・ 近隣の散歩、買い物など、日常生活から離れた時
- ・ 健康被害者と散歩、買い物等
- ・ 妻が花キチ（！）なので鈍感な私に指摘する。3級が老眼シニアに尋ねる
- ・ 山歩きや旅行で親しい友人と楽しい時間を過ごす時
- ・ 散歩で公園を通る時に季節ごとの草花を見て季節を感じられることが気分転換になっている
- ・ 施設入所している知的障害の次男の外出のチャンスの可能性が広がった
- ・ 私の問題は社会の問題であり、社会の問題は私の問題なのである
- ・ 自分の思っていることをしゃべりだす。
- ・ 若者と一緒になって親が生き生きしている
- ・ 食事に出掛けた。
- ・ 食事会にさそわれた。
- ・ 新しい知識が得られたこと（研修などで）
- ・ 新聞に書いてあったミニコンサートを見て数時間でしたがその間「無」になり気分転換となる
- ・ 人との会話の時
- ・ 声に出して言うのが一番。
- ・ 相談や悩みを受け一緒に考え寄り添うことができたとき
- ・ 相談や連携を取れる環境があり、不安が解消できた
- ・ 大勢の方々と生活を共にした一ヶ月自分は楽しく修業出来たのは今まで親を支えてきたつもりでいましたが本当は皆に支えられここまでこられたのがわかったそうです
- ・ 夫婦ともに加齢に向かいあう世代になっており朝な夕な、一日を向かい合っております
- ・ 母親の子離れを思いました
- ・ 娘達がフォローしてくれている
- ・ 娘達との食事、お出掛け
- ・ 優しい友人たちとの時間
- ・ 友人との旅行で気分転換できた
- ・ 友人達とお茶会や旅行
- ・ 離れている（まご）があそびにきてくれる機会を多くしてくれる
- ・ 旅行で非日常を楽しむ事ができました友人達とお茶会や食事会で相談もできる

(3) C票（過去1年間の日常生活状況調査）からみた生活状況の概要

■ 治療状況

① 健康被害を受けた方の治療状況

○健康被害を受けた方の治療状況については表3-1及び図3-1のとおり。

□入院中が2.3%、通院中が97.7%となっている

表3-1 治療状況

入院中	通院中 (往診含む)	回答なし	合計
1	43	9	44
2.3%	97.7%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

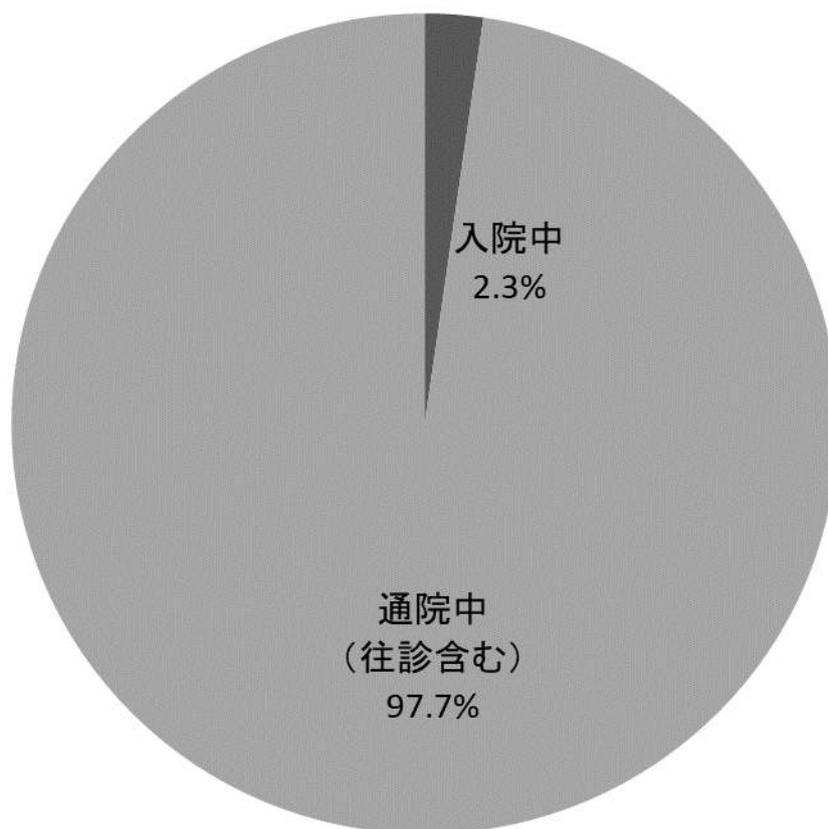


図3-1 治療状況

② 副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していること

②-1 通院時に注意している点

○ 通院時に注意をしている点についてたずねた結果は、表 3-2 及び図 3-2 のとおり（複数回答）。

□ 「事前に交通機関やルートを確認」が 50.0%、「家族などによる送迎」が 54.3%、「ヘルパー等に同行を依頼」が 23.9%となっている

表 3-2 通院時に注意している点

事前に交通機関やルートを確認	ヘルパー等に同行を依頼	家族などによる送迎	介護タクシーの利用	その他	回答なし	回答者数
23	11	25	1	14	7	46
50.0%	23.9%	54.3%	2.2%	30.4%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

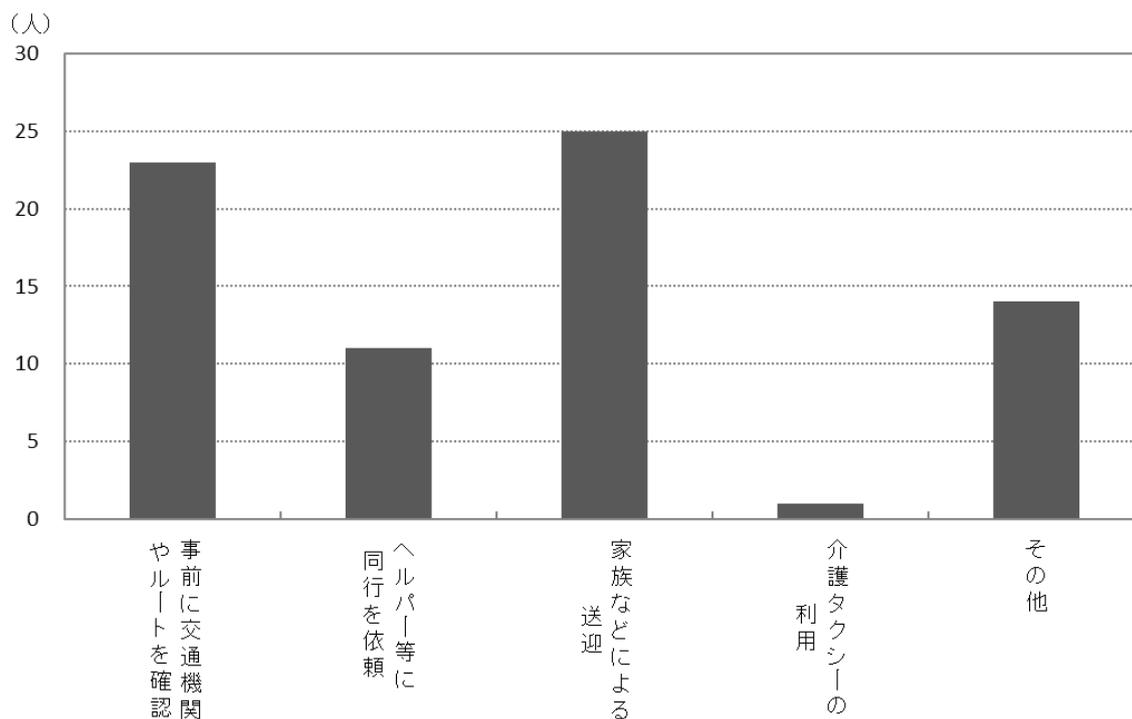


図 3-2 通院時に注意している点

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 家族がたえなければならぬ事は一緒に同行して先生につたえます
- ・ 通院時には夫の車で行動を共にしている
- ・ 普段慣れている医療機関であれば単独通院も行っている
- ・ 妻の運転で同行しています
- ・ 毎週子供による送迎
- ・ コロナがはやっているためしょうどく手洗いを院に入る時や帰宅してから行う
- ・ 1月は京都府立大眼科にも検診にて行きまして自宅から同行援護してもらいました
- ・ 盲導犬と
- ・ マイカーと公共機関の併用
- ・ 予約などして、院内の混雑を避ける
- ・ 一般のタクシーを利用する

②-2 治療を受けるときに注意している点

○治療を受けるときに注意をしている点についてたずねた結果は、表3-3及び図3-3のとおり（複数回答）。

□「既往歴を告げる」が93.3%、「受けている医療について分からないことは医療スタッフに聞く」が80.0%、「お薬手帳を持参」が77.8%となっている

表3-3 治療を受けるときに注意している点

既往歴を告げる	お薬手帳を持参	受けている医療について分からないことは医療スタッフに聞く	その他	回答なし	回答者数
42	35	36	4	8	45
93.3%	77.8%	80.0%	8.9%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

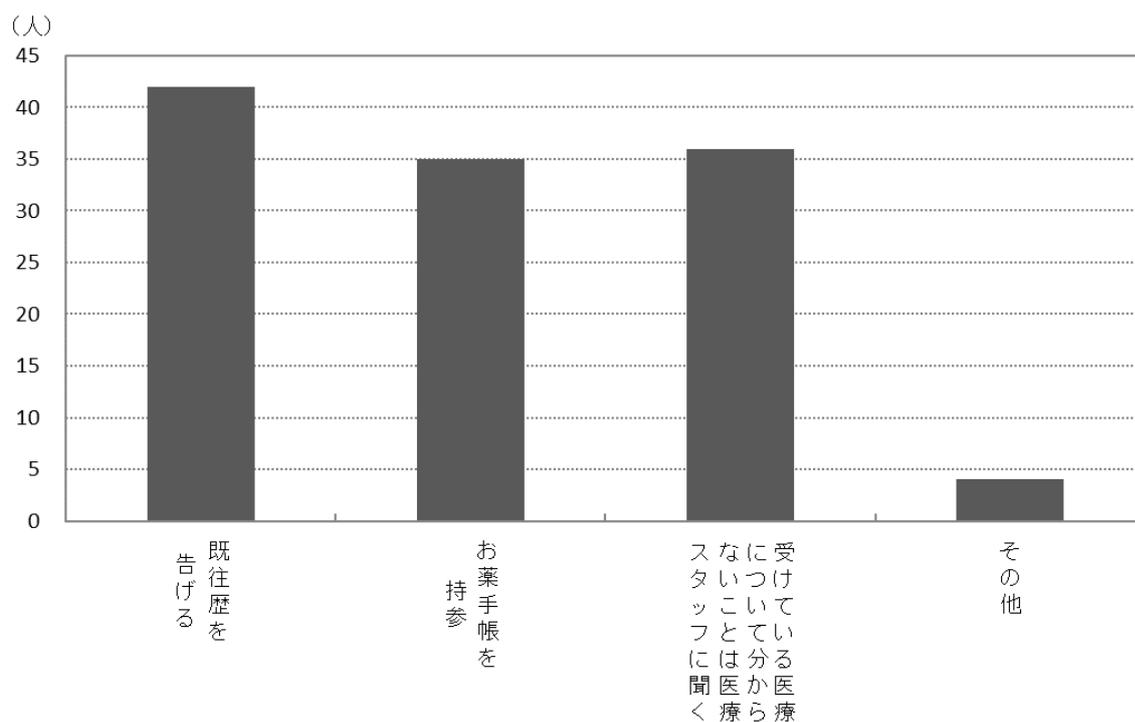


図 3-3 治療を受けるときに注意している点

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 気管切開しているのでインフルエンザ、コロナウイルス等に特に注意している。
- ・ 現在コロナウイルスが流行っておりマスク、消毒。通院回数を減すなど注意をしている
- ・ 使用してはいけない薬などを伝える
- ・ 既往歴を告げるとあまり接極的に見て頂けない様な感じを受けます。

②-3 治療を受けるときに困ったこと（SJSの健康被害者の方のみに質問）

○治療を受けるときに困ったことについてたずねた結果は、表3-4及び図3-4のとおり（複数回答）。

□「SJSについて医師が理解していない」が68.2%、「SJSであることを告げたら診療を拒まれた」が13.6%となっている

表3-4 治療を受けるときに困ったこと

SJSについて 医師が理解 していない	SJSであること を告げたら診 療を拒まれた	その他	回答なし	回答者数
15	3	12	31	22
68.2%	13.6%	54.5%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

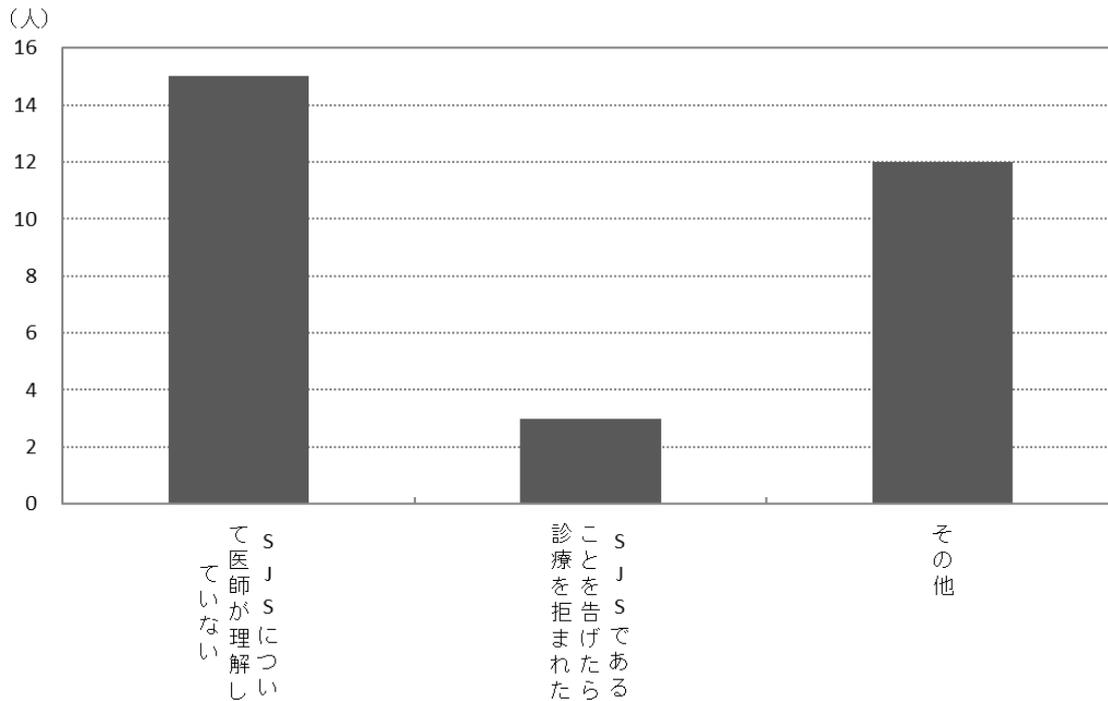


図3-4 治療を受けるときに困ったこと

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇処方や治療がない

- ・ お薬の処方を断れた
- ・ ちがう薬はどうですか？と聞いてものんでみないとわからないと言われてもそれは残念でした。

◇医療機関の知識不足

- ・ 自分自身のアトピー性皮膚炎症状とSJS急性期以降の後遺症症状と家族の視覚的感覚から様々な専門皮膚科受診を勧められ行ってみたものの結果どこの皮膚科に行っても説明を求めても双方の皮膚科症状の因果関係は全く無いと言われた。現在は極力交通費のかからない地元の徒歩通院可能な皮膚科受診で比較的落ち着いており続けて受診している
- ・ 使用できない薬を伝えたがその薬が原因かどうかわからないと言われたことがあった
- ・ 理解度が浅い、医師が諦めている
- ・ 担のう炎を患って一応見て頂いたのですが私の場合SJS患者のため抗生剤は出せないと言われ不安でした
- ・ 薬剤の使用をちゅうちょされる（検査、投薬の制限）ワクチン接種
- ・ 大学病院なので担当医が変わるため若い医師ではSJSを知らない者もいる

②-4 その他注意している点の主な内容は以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇処方薬への慎重対応

- ・ 今まで服用して来た薬で合わない物を書きとめて伝える。
- ・ 薬物アレルギーは今もあります。新しい薬の時には飲ませてから家族がそばで何時間か一緒にいます

◇その他

- ・ 虫歯や歯石等々の治療に訪問診察を歯科医にお願いしている。
- ・ 普段外出時において単独で通えている都心など遠方にある公的な障害サポート機関や私用で訪問する場所であっても、その時その時の時間帯やケース毎に同行援護ヘルパーを利用して途中における人間関係のトラブル防止や事故防止にあたる事もある
- ・ マスク、エタノール持参（どこにあるか見えない）

■ 過去1年間の日常生活について

③ 困ったことの有無

○ 過去1年間における困ったことの有無については、表3-5及び図3-5のとおり。

□ 困ったことが「増えた」40.4%、「減った」が1.9%、「変わらない」が55.8%であった。一方、困ったことは「ない」とする人は1.9%となっている。

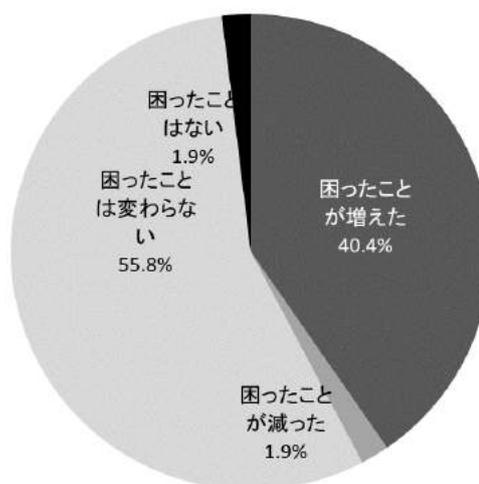


表3-5 困ったことの有無

図3-5 困ったことの有無

困ったことが増えた	困ったことが減った	困ったことは変わらない	困ったことはない	回答なし	合計
21	1	29	1	2	52
40.4%	1.9%	55.8%	1.9%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

③-1 困ったことについて

○過去に困ったことがあったと回答した本人または介護者にたずねた「困ったこと」主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇外出に関すること

- ・ コロナ感染が心配。ヘルパーさんもデイサービスも休んで家族で介護している。
- ・ 歩道を自転車スピードを出して走ること。点字ブロックの上に駐車する（駐輪も）
- ・ 物にぶつかることがふえた
- ・ 台風のためひなんするときは体育館などではトイレなどでもむずかしいので行政がうまくやっ
てすぐにやってこれない
- ・ 急に病院に行き度い時等買物（食料品）等の時、社協には申し込めなくどうしようかと困って
しまう事がある
- ・ 盲導犬が入れない所が多い

◇日常生活に関すること

- ・ 息切れ等で歩行が苦しくなってきた。マスクが買えない
- ・ 電気製品のエラー表示が見えなくて困った
- ・ 視力が悪くなり今までできていたことができなくなった
- ・ 全く見えない事。何から何迄やって上げないと一人では出来ない
- ・ 日常生活の制限
- ・ 身の回りのこと、家（家族）のこと、いっぱいいっぱい
- ・ 体重（本人）がなかなか減らない。
- ・ 介護者の加齢による体力の低下。
- ・ スマホの使用範囲を拡げたい。画像が見えないので説明不十分で理解出来ない場合
- ・ すぐに風邪を引いて寝込んでしまう
- ・ 手紙 e t c。公的機関からのお知らせ・通知
- ・ 体力がずい分落ちて来た事と病院に行く事が多くなった
- ・ 介助者が見つからない
- ・ 体調不良の悪化、経済的

◇その他

- ・ 昨年の暮れから今年の初めにかけて認知症や転倒の恐れのある父親が再度の単独外出時に事故
入院に加えて立て続けに親戚で不幸が起こり病身の母が一人でも日頃施設入所生活依頼してい
る障害を持った弟の自宅への一時帰宅のため奔走し、今にも次の葬儀を出さんばかりに心労で
体調を崩しかけたがどうにかコロナショックの現在においても体調維持は出来ている
- ・ 眼症状の悪化
- ・

③-2 困ったことがあった場合、誰に相談したか

○過去に困ったことがあったと答えた人に回答を求めた。誰かに相談したかについてたずねた結果は、表3-6及び図3-6のとおり（複数回答）。

- 「親」が13.3%、「医師」「看護師・保健師」が20.0%、「配偶者」「子ども」が30.0%となっている
- 「相談する人はいない」は13.3%であった

表3-6 困ったときの相談の有無

親	配偶者	子ども	兄弟姉妹	祖父母	友人・知人	会社の上司・同僚	学校の先生	医師		
4	9	9	0	0	5	1	1	6		
13.3%	30.0%	30.0%	0.0%	0.0%	16.7%	3.3%	3.3%	20.0%		
看護師・保健師	公的機関の職員等	PMDAの保健福祉相談窓口	障害者の団体	障害者相談支援センター	地域包括支援センター	その他	相談する人はいない	回答なし	回答者数	
6	3	0	2	0	2	7	4	21	30	
20.0%	10.0%	0.0%	6.7%	0.0%	6.7%	23.3%	13.3%	—	—	

注：上段は人数、下段は割合

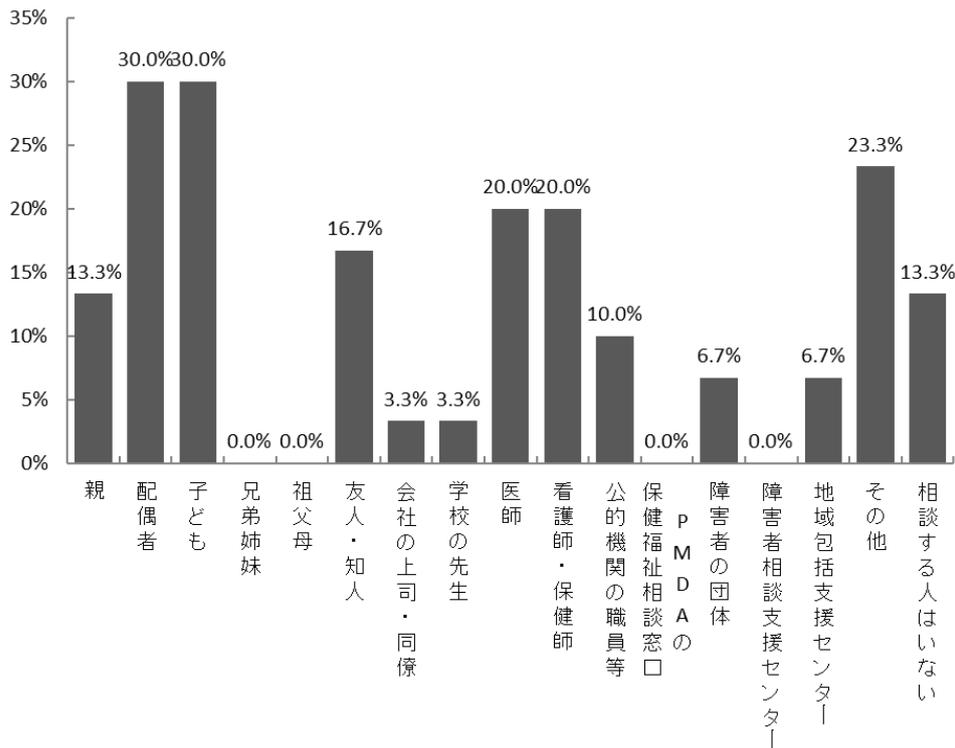


図3-6 困ったときの相談の有無

③-3 解決策の有無

○ 困ったことがあったとする人に、解決策の有無についてたずねた結果は、表 3-7 及び図 3-7 のとおり。

□ 困ったことに対して解決したと回答した人は 23.3%、一方、解決していないと回答した人は 76.7%であった

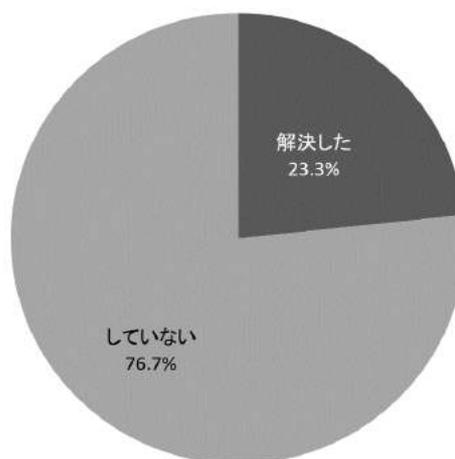


表 3-7 解決策の有無

解決した	していない	回答なし	合計
7	23	21	30
23.3%	76.7%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

図 3-7 解決策の有無

③-4 解決策について

○③-3 で「解決した」と回答した本人または介護者の困ったことと解決策の主な内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解決策
手紙 e t c。公的機関からのお知らせ・通知	ヘルパーさん、家族、知り合いに見てもらった
<p>昨年の暮れから今年の初めにかけて認知症や転倒の恐れのある父親が再度の単独外出時に事故入院に加えて立て続けに親戚で不幸が起こり病身の母が一人でも日頃施設入所生活依頼している障害を持った弟の自宅への一時帰宅のため奔走し、今にも次の葬儀を出さんばかりに心労で体調を崩しかけた。</p>	<p>単独世帯で生活保護受給者であった伯父は年明けすぐにどうにか私自身の依頼可能な同行援護ヘルパーが個人アポで見つけられたおかげで、早急に市の生活保護課に訪問し総裁扶助手続きをし市の保障で火葬費用まで負担してもらえたり、父の入院期間を多少延長してもらえいくらか助かった。</p>
長女の東京転勤二女の修業の支度等姉や母が手伝ってくれたので大変だった	おしゃべり

③-5 解決方法について

○③-3で「解決していない」と回答した本人または介護者に、どのような方法で解決できるとするか解決方法をたずねた。主な内容は以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解決方法
体重（本人）がなかなか減らない。	食事を徐々にへらすなどダイエットをさせる。
介護者の加齢による体力の低下。	補助者が必要。
コロナ感染が心配。ヘルパーさんもデイサービスも休んで家族で介護している。	コロナが落ちつくしかない。
視力の低下	医学の進歩
体力がなくなり今まで1時間で出来た事も数時間かかるようになりすぐに息切れがします	体力的な事ですので、毎日少しでも散歩してもらいます
体調不良の悪化、経済的	視力の回復
道路の段差でころんでしまい骨折をしてしまいました。（3年前）	縁石に塗料が塗ってあるとわかりやすいです
眼症状の悪化	難病なのでどうしようもない。経済的支援も低い
急に病院に行き度い時等買物（食料品）等の時、社協には申し込めなくどうしようと困ってしまう事がある	その時はやはりがまんです。日を改めてヘルパーを頼んで行きます
盲導犬が入れない所が多い	一人一人の理解が必要
身の回りのこと、家（家族）のこと、いっぱいいっぱい	現時点、解決策はない。あるとすればヘルパーの増員、家政婦依頼（家政婦が
歩道を自転車がスピードを出して走ること。点字ブロックの上に駐車する（駐輪も）	道交法の罰則を厳しくする

④ 日常生活の満足度

○過去1年間の日常生活における満足度についてたずねた結果は、表3-8及び図3-8のとおり。

- 「不満」が32.7%、「やや不満」が10.2%となっている
- 「不満」を1点、「満足」を4点とすると平均は2.3点である

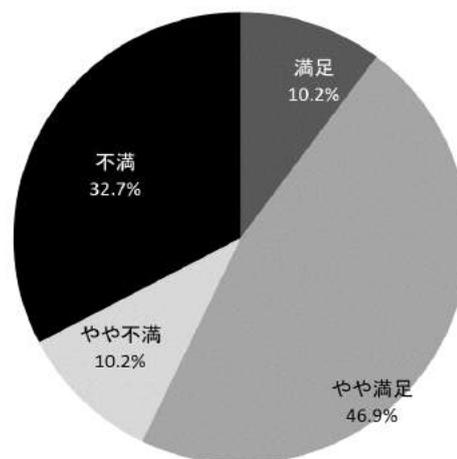


図3-8 日常生活の満足度

表3-8 日常生活の満足度

満足	やや満足	やや不満	不満	回答なし	合計
5	23	5	16	4	49
10.2%	46.9%	10.2%	32.7%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

④-1 満足度の理由について

○④の回答に至った具体的な理由の満足度別の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

1. 満足

- ・ 自分の出来る事を一つ一つ増して生活を送る
- ・ ヘルパー、ガイドヘルパー、デイサービス、訪問看護、主治医の連携が取れ安心して生活が送れている

2. やや満足

- ・ 心疾患は悪化しましたが毎日は楽しいです
- ・ 身体上、生活上大きな変化はなかったから
- ・ 友人と旅行に行くことができた。
- ・ 大きく体調くずすことが無かった。
- ・ 外出する際、周囲に対して不安感や不便さを感じることはあるが、そのほかは特に不便さを感じずに過ごせたため
- ・ 制限のある中でも可能な事は実行する
- ・ 今までより動きにくくなった
- ・ 不自由な事は多さんあるが金銭的には心配がないこと
- ・ 夫が入院してその介護をしなくて良くなったから
- ・ 盲導犬と一緒に人にたよるしか外に出れなかったが、実家等近くの場所へ行ける様になった
- ・ 視力が著しく低下して全盲が避けられていること
- ・ もっと安心して外出できるような社会になってほしい

3. やや不満

- ・ 自分でしたい事が少しずつ出来なくなって来たから
- ・ やはり就業し一定の収入がなく障害者基礎年金や機構からの謝金だけでやりくりするしかなかったのが今のところどうにかコロナに感染してはいないがいつ自分や家族の感染が発覚するか。万が一の感染時の家族からのフォローについても周囲は高齢で両親しかいなくて、物理的援助の可能性が少なく経済的にもすごく心配要素が多い

4. 不満

- ・ 日々の生活だけで精一杯。趣味、余暇、外出（イベントなど）の時間がない
- ・ 状況がかわらないから
- ・ 目が見えない事でストレスでいらいらしている
- ・ 生きているのがつらい。

B票(社会活動を中心とした調査)及びC票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査) からみた生活状況の概要

日常生活の満足度と外出の頻度(第4・四半期)との関係(人数)

	ほぼ毎日	週に4から 5回	週に2から 3回	月に2から 3回	全く外出し ていない	回答なし	合計
満足	1	1	2	1	0	0	5
やや満足	6	4	9	3	1	0	23
やや不満	3	0	0	1	1	0	5
不満	2	4	4	4	1	1	15
回答なし	0	0	0	3	1	0	4
合計	12	9	15	12	4	1	52

日常生活の満足度と現在行っている社会参加・社会活動等(第4・四半期)との関係(人数)

	コンサートや 映画、ス ポーツな どの 鑑賞・見学	スポーツ教 室、大会 などへの参加	旅行・ キャンプ・ つりなどの 活動	趣味の 同好会活動	ボランテ ア などの社会 活動	障害者団 体の 活動	地域活動	パソコンを 利用した 社会参加	友達との 遊び	その他	回答者数
満足	2	1	0	3	0	2	0	4	3	2	15
やや満足	8	8	6	4	3	6	3	2	5	9	47
やや不満	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	5
不満	0	0	1	2	0	2	0	2	3	1	11
回答なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	11	10	7	9	3	11	3	9	12	14	79

⑤ 日常生活を満足にするために一番やりたいことについて

○ 日常生活を満足にするために一番やりたいことについてたずねた結果は、表 3-9 及び図 3-9 のとおり（複数回答）。

□ 「旅行・外出」が 43.5%、「趣味」が 19.6%、「コンサートや映画鑑賞、スポーツ観戦」が 17.4%となっている

表 3-9 日常生活を満足にするために一番やりたいこと

コンサートや映画鑑賞、スポーツ観戦	旅行・外出	趣味	社会活動・団体活動	その他	回答なし	回答者数
8	20	9	7	10	7	46
17.4%	43.5%	19.6%	15.2%	21.7%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

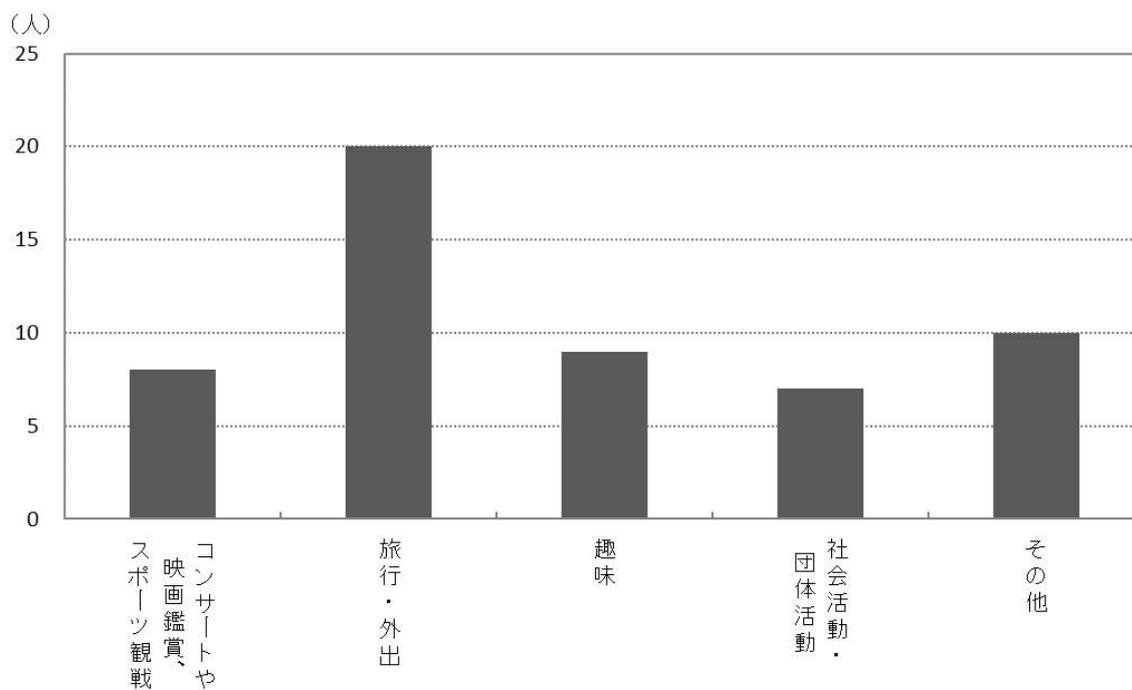


図 3-9 日常生活を満足にするために一番やりたいこと

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇食事、休暇、趣味

- ・ 草花の手入れ。
- ・ コンサートに行く、演歌歌手を鑑賞する楽しみ。今は新型コロナウイルス感染拡大抑止のために外出が出来ません
- ・ 外出は大変だが姉妹子供達と温泉などへ行きたい
- ・ なにもやりたくないじっとしていることがいちばん

◇仕事

- ・ 自分のマッサージ現在就労移行支援で訓練中のビジネスPCスキルを生かした企業内ヘルスキーパーへの就職

◇その他

- ・ 友人、親、姉との会話、食事会カウンセラー
- ・ 外泊で自宅に帰る。
- ・ 家事のみの生活→自分の時間が欲しい
- ・ 時間がほしい

⑤-1 実現可能性

○日常生活に満足するために一番やりたいことの実現可能性についてたずねた結果は、表3-10及び図3-10のとおり。

□「出来ると思う」が25.0%、「やや出来ると思う」が31.8%となっている

□一方、「出来ないと思う」が20.5%、「あまり出来ないと思う」が22.7%となっている

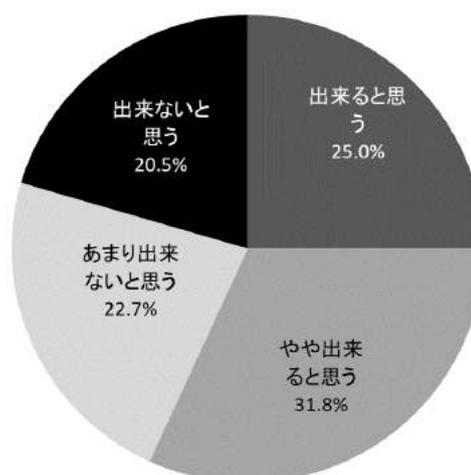


図3-10 実現可能性

表3-10 実現可能性

出来ると思う	やや出来ると思う	あまり出来ないと思う	出来ないと思う	回答なし	合計
11	14	10	9	10	44
25.0%	31.8%	22.7%	20.5%	—	100.0%

⑤-2 実現可能性の理由について

○⑤-1 の日常生活に満足するために一番やりたいことの実現可能性及びその理由の主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇実現が可能な理由

- ・ 本人の意思がある程度、親以外にも伝わる。
- ・ 家族旅行を娘達が計画してくれて、年に1～2回位は出かける事ができそうです
- ・ 体が動く（健康であること）ことで可能
- ・ 家族とともにだったら可能
- ・ 計画はあるが目の具合、体調が良ければ行けると思います
- ・ 協力者がふえてきたため
- ・ サポートしてくれる人がいればいけます
- ・ 以前より時間がとれるようになったが経済的にあまり余ゆうはないので積極的にけんとう中
- ・ 人との対話がすき
- ・ 自分で楽しめるよう努力する
- ・ 可能な範囲で行う
- ・ つれて行ってくれる人達がいるから
- ・ コロナインフルが落ちついて自分の病気もよくなれば
- ・ 家族と一緒に行けたらいいと思う

◇実現が難しい理由

- ・ コロナ感染の為、ショートステイも閉鎖。自身の感染も心配。
- ・ 介護が大変。
- ・ コロナウイルス騒動などで、家にとじこもらざるを得ないので…
- ・ 年令的な事なので
- ・ 移動する際サポートしてくれる友人などの気を許せる人が同伴してくれば実現できると思う
- ・ 今回はコロナショックになるまでは自分自身が努力していけばある程度は就職の可能性も広げられると思い、訓練についてもはじめてみたが日々刻々と感染爆発のリスクが高まるとともに、世界全体の経済状況もこれまでに人類が経験したことのないほどの経済的恐慌になりそうな勢いで進行しており、家族の健康もちろん自分自身の就職活動再開のタイミングの計り方についても全く見通しが立てられないから
- ・ 身体状況が不安定であるから
- ・ 目が痛くて疲れ、体もだるくなる。新しい（慣れない）場所を歩くのに不自由。
- ・ コロナがおさまらない事。いっしょに行動してくれる人がいるかどうか
- ・ コロナによる外出規制
- ・ 病状が改善しないため
- ・ 衣・食・住の生活で一生懸命だから
- ・ 働いているとむり

⑥ 日常生活における工夫点

○ 日常の生活で工夫していることの主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ i p a dを利用して意思ツールとして使っている。
- ・ 一人でできる事を増えるよう身の回りにそろえる。
- ・ ・部屋の扉を開けておく・ラジオから日常の情報を得る
- ・ ・家で段差のあるところに目印をつけておく・危ないので軽い食器を使うようにしている
- ・ 最近は家庭内でのA Iスピーカー利用の応用で音声指示により家電リモコンでエアコン操作やネット動画視聴、地方の放送局の視聴などがとても容易になり情報量入手も得やすくなってきている
- ・ 食材を切る時にみやすいので黒いまな板を使っています
- ・ 病院で知りあった方などの悩み相談や友人の子供さんのコンサートは殆んど参加している
- ・ けがのないよう注意する

⑦ 今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動について（複数回答）

○健康被害者が今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動の内容については、表3-11及び図3-11のとおり（複数回答）。

□「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が53.1%、「友達との遊び」が34.7%、「障害者団体の活動」が24.5%となっている

□その他としては「自分の個性を生かした仕事か起業」などをあげている

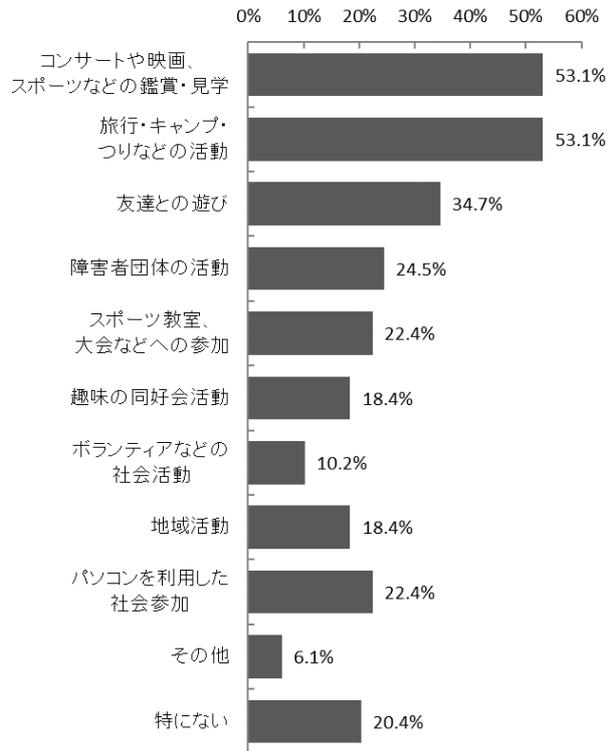


図3-11 今後やってみたい活動等について

表3-11 今後やってみたい活動等について

コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	旅行・キャンプ・つりなどの活動	友達との遊び	障害者団体の活動	スポーツ教室、大会などへの参加	趣味の同好会活動	ボランティアなどの社会活動	地域活動	パソコンを利用した社会参加	その他	特にない	回答なし	回答者数
26	26	17	12	11	9	5	9	11	3	10	4	49
53.1%	53.1%	34.7%	24.5%	22.4%	18.4%	10.2%	18.4%	22.4%	6.1%	20.4%	—	—

⑦-1 今後やってみたい活動についての情報取得元（複数回答）

○健康被害者が今後やってみたい活動の情報について、どこから情報を得るかをたずねた結果は、表3-12及び図3-12のとおり（複数回答）。

□「家族友人」が72.7%、「インターネット・情報サイト」が60.6%、「ラジオ」が69.7%、「テレビ」が63.6%となっている

□その他としては「ヘルパー、デイサービス、訪問看護の職員から」「現在受講中の訓練校の関係者」などをあげている

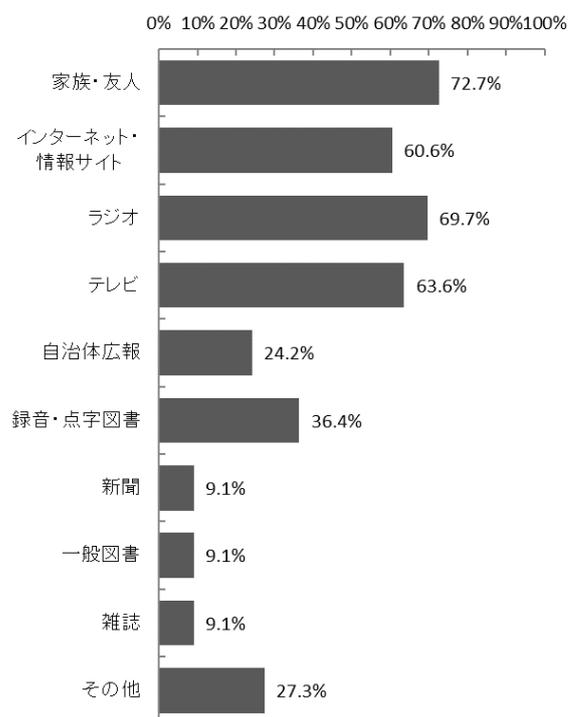


図3-12 今後やってみたい活動等についての情報取得元

表3-12 今後やってみたい活動等についての情報取得元

家族・友人	インターネット・情報サイト	ラジオ	テレビ	自治体広報	録音・点字図書	新聞	一般図書	雑誌	その他	回答なし	回答者数
24	20	23	21	8	12	3	3	3	9	6	33
72.7%	60.6%	69.7%	63.6%	24.2%	36.4%	9.1%	9.1%	9.1%	27.3%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

■ 福祉サービスについて

⑧ 必要な福祉サービスについて（複数回答）

○ 必要な福祉サービスについての主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇移動にかかるサービス

- ・ タクシー利用補助券の I C 化・ 障害者手帳のカード化
- ・ 移動の支援車での送迎を含む柔軟なガイド
- ・ 旅行をサポートしてくれるようなサービスがほしい。

◇金銭的負担軽減にかかるサービス

- ・ サービスなのだから、自己負担金が発生するのはおかしい。

◇家事援助、介護、看護にかかるサービス

- ・ 掃除支援（年に数回でよい）
- ・ 配食

◇その他

- ・ 介護者が具合が悪い時（インフル等）でも頼ることができるサービス。
- ・ 私が利用出来る福祉サービスは主に同行援護であるが依頼等での利便性を良くしてほしい
- ・ ガイドヘルプサービスの充実。視力障害者に特に配慮した老令者住宅の充実
- ・ どんなサービスを利用できるか情報がほしい
- ・ 毎年同内容の書類をつくることになるので、もっと簡素化できない？例：障害 1 級だとあまり級は変わらないので、デジタル出力したものを送り変更点を赤
- ・ 生活支援用具の 2 度目の購入の申請までの期間を短かくしてほしい。
- ・ 書類が多いため、簡素化して頂きたい
- ・ 映画で視力障害者用の解説（音声）サービス・プールでの助泳者派遣
- ・ 将来、グループホームに入りたいけど無いです。簡単にはつukれない様子。

■ 必要な情報について

⑨ 必要な情報について（複数回答）

○ 現在必要な情報についてたずねた結果は、表 3-13 及び図 3-13 のとおり（複数回答）。

□ 「福祉サービス」が 46.8%、「医療」が、51.1%、「年金」が 25.5%、「健康づくり」が 19.1%、「趣味・娯楽」が 25.5%となっている

□ その他の必要な情報としては「副作用後遺症（SJS・TEN)化学的研究」などをあげている

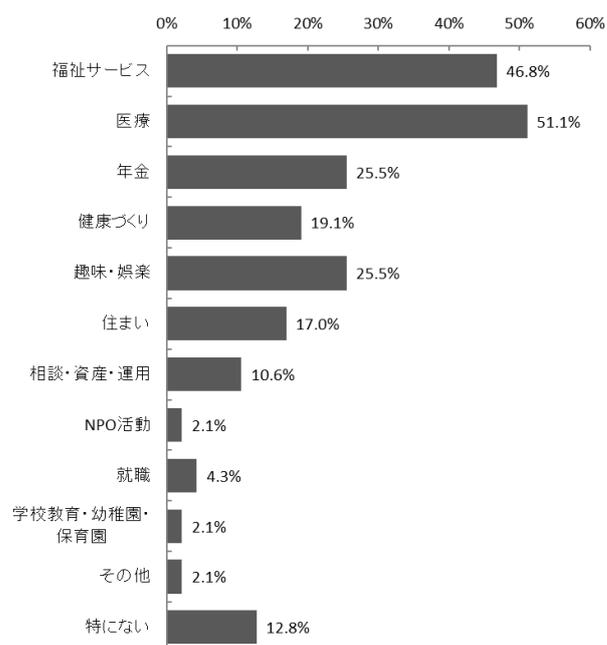


図 3-13 必要な情報について

表 3-13 必要な情報について

福祉サービス	医療	年金	健康づくり	趣味・娯楽	住まい	相談・資産・運用	NPO活動	就職	学校教育・幼稚園・保育園	その他	特にない	回答なし	回答者数
22	24	12	9	12	8	5	1	2	1	1	6	8	47
46.8%	51.1%	25.5%	19.1%	25.5%	17.0%	10.6%	2.1%	4.3%	2.1%	2.1%	12.8%	—	—

○ 具体的に知りたいことの主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 親が亡くなった後の本人に対しての支援について。
- ・ 小児科から内科へ移行時の事例。
- ・ 県外の病院に行く事がむずかしい。福山～京都へ
- ・ 医学の進歩により治療情報
- ・ 眼科治療の最先端を知りたいです
- ・ 点字図書を利用しているので娯楽になる様な情報があれば…
- ・ 公的年金以外の支援金の有無と自己申請ではなく行政側からのお知らせにして欲しいです
- ・ 視力障害者が受けられるサービス
- ・ 治療の事の情報年金は金額がどうなるのか
- ・ 治療に関する情報を知り度い特にSJSの後遺症と思うのですが口腔の舌・爪の事
- ・ おなじ仲間がどうやって暮しているのですか
- ・ 障害年金を受けている人の配偶者は扶養の対象にならないってホント？

⑨-1 今必要な情報についての情報取得元（複数回答）

○今必要としている情報について、どこから情報を得るかをたずねた結果は、表3-14及び図3-14のとおり（複数回答）。

□「家族・友人」が51.9%、「テレビ」が63.0%、「ラジオ」が55.6%「インターネット・情報サイト」が74.1%、「自治体広報」が37.0%となっている

□その他としては「行政、ケアマネジャー」「医師」「患者会と機構」などをあげている

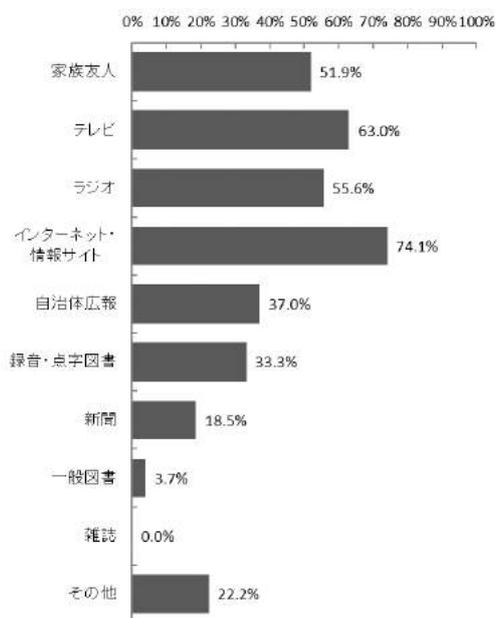


図3-14 必要な情報についての情報取得元

表3-14 必要な情報についての情報取得元

家族友人	テレビ	ラジオ	インターネット・情報サイト	自治体広報	録音・点字図書	新聞	一般図書	雑誌	その他	回答なし	回答者数
14	17	15	20	10	9	5	1	0	6	12	27
51.9%	63.0%	55.6%	74.1%	37.0%	33.3%	18.5%	3.7%	0.0%	22.2%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

Ⅲ む す び

むすび

本報告書は、平成17年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者のQOLの向上策及び必要なサービス提供のあり方等を検討するための資料を得るため、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの1年間に健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況等を調査集計したものです。

日常生活の具体的な工夫事例等については、国際生活機能分類に基づいたライフサイクル（生活環境）ごとにとりまとめています。

今回を含め、14回に亘り調査を実施してきたところですが、本報告書では、医薬品の副作用による健康被害を受けられた調査研究対象者の方々における、日常生活の様々な工夫の実態が明らかとなっております。

その一方で、スティーヴンス・ジョンソン症候群（SJS）の方には、視機能障害に対するケアが、ライ症候群の方には、四肢機能改善、拘縮予防目的のリハビリのほか、全介助を必要とする場合は、介助を行うご家族の高齢化も懸念されており、患者家族の肉体的、精神的負担に対する医療的な介入が必要となっている状況が覗えます。

これらの健康被害を受けられた調査研究対象者及び介助を行うご家族のQOL向上の実現のためには、日常生活における工夫だけではなく、更なる医療的な介入、肉体面・精神面でのケアも必要です。

今後もさらに、実態を把握するために、現在の調査項目については、継続して調査を実施することとしております。

IV 參考資料

A票(福祉サービスの利用状況についての調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「2 現在、受けている①②以外の福祉サービス」

参考1

内 容	性別	年代
世田谷区緊急介護人制度	70代	女
音訳サービス、東京都障害者福祉会館における視覚障害者文字サービス	50代	男
計画相談、在宅訪問によるパソコンや家電のサポート。音訳サービス	50代	男
音訳サービス、在宅訪問に夜PCやスマホサポート。日本点字図書館や東京都障害者福祉会館における対面朗読や視覚障害者文字サービス	50代	男
一部個人負担での横浜市福祉特別乗車券の支給	50代	女
福祉サービスは受けていない	70代	女
世田谷区緊急介護人制度(ガイドヘルパー、家事援助)など	70代	女
在宅訪問によるパソコンやスマホのサポート。地域公共図書館における蔵書対面朗読。CD化音訳サービス	50代	男
音訳サービス、東京都障害者福祉会館における視覚障害者文字サービス 在宅訪問によるパソコンサポート。地元公共図書館での蔵書対面朗読サービス	50代	男
音訳サービス、公共図書館での対面朗読 東京都障害者福祉会館での視覚障害者文字サービス	50代	男
サピエ	60代	女
病院同行、買物同行・社会福祉協議会・福祉開発研究センター	70代	女
音訳サービス、地元図書館や都心の点字図書館での対面朗読サービス	50代	男
地元公共図書館における対面朗読サービス、CD音訳サービス	50代	男
音訳サービス、地元の公共図書館における蔵書対面朗読サービス、点字図書館における持ち込み対面朗読サービス、東京障害者福祉会館における文字(代筆等)サービス	50代	男
一部個人負担での横浜市福祉特別乗車券の支給	50代	女
社会福祉協議会 福祉開発センター(非営利)某眼科、某病院眼科その他の病院等同行援護	70代	女
社会福祉協議会より 福祉開発研究センター 病院以外社協等より旅行のほか支援を受けています	70代	女
在宅訪問によるPCサポート、音訳サービス、東京都障害者福祉会館における視覚障害者文字サービス(代読、代筆(PC入力含む))	50代	男
サピエ図書	60代	女
病院等(都内他県)同行援護 遠方は宿泊も依頼する	70代	女
病院に同行援護	70代	女
同行援護(ヘルパー)	70代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

A票(福祉サービスの利用状況についての調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「3 障害者総合支援法に基づく福祉サービスで①～⑤以外のサービス名」

参考2

内 容	性別	年代
居宅介護 通院等介助(身体無し)(通院の為、送迎・付添)	60代	男
家事代行サービス	40代	女
朗読CD貸し出し	80代	女
対面朗読・居宅サービス・図書館で本を読んでもらっています。買物代行。水回りの掃除。副菜2品調理	60代	女
デイジー図書	80代	女
計画相談サービスにおけるモニタリング	50代	男
計画相談 定期的に行われる同行援護や居宅支援など状況モニタリング報告書のチェック	50代	男
計画相談 1月からの就労移行支援プログラムのための準備	50代	男
居宅支援 家事援助 買物 粗大ゴミ出し	50代	女
居宅介護 生活・家事援助 代筆・代読	50代	女
居宅介護 身体無し 通院等介助 通院の為、病院への送迎付添い	60代	男
居宅支援 印刷物の読み書き、家事援助 汚れ箇所の確認 計画相談 今後の就労移行支援の見通しに向けての連絡 回数:適宜	50代	男
居宅支援サービス 家事援助や印刷物の簡単な読み書き 月に2回計画相談 担当者との支援計画についてのモニタリング調査と契約	50代	男
社会福祉協議会 失語訓練、料理教室	60代	女
ホームヘルパー(家事代行)	40代	女
対面朗読、居宅サービス	60代	女
パソコンを使った読上げ機	60代	女
居宅サービス	60代	女
ホームヘルパー	40代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

A票(福祉サービスの利用状況についての調査)からみた生活状況の概要

参考3

男女別・年代別の「4 介護保険制度に基づく福祉サービスで①～⑩以外のサービス名」

内 容	性別	年代
放課後、(土)利用	10代	女
休日の買い物、余暇活動のつきそい	20代	男
夏休み利用10:00～16:00	10代	女
週3～4回散歩(院内、外)せんたくもの入れ替え、爪切り、カバー類のせんたく。	40代	男
余暇活動。買い物援助	20代	男
デイジー図書	80代	女
料理、フラワー失語教室	60代	女
家事援助(週1時間)	70代	女
週3回院内又は近くの公園へ散歩。せんたくもの入れ替え、爪切り。6/23～24某村に行く。両親が介助、自家用車使用。	40代	男
外泊、自宅へ帰る。某動物園や大型ショッピングセンターへ外出。	40代	男

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(福祉サービスの利用状況についての調査)からみた生活状況の概要

参考4

男女別・年代別の「②-2 外出するうえで工夫したこと」

内 容	性別	年代
盲導犬同行	70代	女
サングラスと帽子	80代	女
子供や孫にたのんでおく	60代	女
杖の使用	40代	女
駐車場等の有無の確認	60代	女
車イスがあるトイレ場所を事前に確認しておく	60代	女
親、姉、友人の車を依頼する	50代	女
介護トイレのある所のみ	60代	女
一般のタクシー	60代	男
人のすくない時間帯	20代	男
マスクやのどあめ、目薬の準備、帽子の着用	60代	女
滑りにくく歩きやすい靴、マスク着用(呼吸器保護・加湿・感染症予防)	50代	女
オムツ(パット)を二重にセットする	20代	男
暑さ対策のためアイスノン、せんふうきを持って行く。	20代	女
タクシーすぐにtellしても来てくれないので早めに連絡しておく	80代	女
目薬の出入れがしやすいポケットのついた服、ズボンを着用	40代	男
何をすることも動作に時間がかかりますので余裕をもった時間配分を心がける	50代	女
肩掛ケカバン、小さなカート、おし車などの利用	70代	女
ヘルプマークをつけている	20代	男

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「③-2 社会参加・社会活動等のきっかけ」

(1. 家族、親類 2. 友人、知人等 3. 患者団体、同好会等 4. 情報誌や広告等 5. テレビ、ラジオ 6. インターネット 7. 自発的な活動 8. その他)

区分	内 容	性別	年代
1	孫に心配ないからと言われて思いきって旅行に行った	60代	女
1	家族の勧めがあった	60代	男
1	家族旅行	40代	女
1	実家へ帰省	40代	女
1	コーラス、娘と一緒にコンサート	50代	女
1	娘が誘ったから	70代	女
2	視覚障害になる前の友人知人が誘ってくれる	60代	男
2	友人、知人がさそってくれる	60代	男
2	近所の人からの誘いで参加	70代	女
2	友人に食事にさそわれた	50代	男
3	興味のある講習会・勉強会があったため	50代	男
3	SJS患者の会『関西懇親会』	70代	女
3	ガイドヘルパーの利用により、障害者スポーツセンター等へ行き易くなった	50代	男
3	視力障害の団体やサークルに参加	60代	女
3	町田市身体障害者福祉協会の参加	70代	女
3	盲導犬と共に小学生を対象に講習会等	40代	女
3	ケアマネージャーからの案内。民生員からの案内	70代	女
3	身しんの健康のために、同好会やサークルに入る。	60代	女
3	同行援護の時間数が増えスポーツ教室に参加出来るようになった。	50代	男
3	患者会の仲間で。同窓、同級の仲間がさそってくれる	60代	男
3	講習会参加(継続して受講しているから)	40代	男
3	障害者の団体にかにゆう	60代	女
3	視覚障害者協会福祉協会入会しました。患者会	70代	女
3	仕事の講習会	40代	男
4	自治体の公報	60代	男
4	市の身障者協会イベント	50代	女
4	町の呼びかけ	70代	男
7	身心の健康のため	60代	女
7	出来るだけ生活を豊かに楽しみたい	70代	女
7	時間的・経済的余裕があったから	70代	女
7	パソコン、散歩、買い物	50代	男
7	体力不足になってるので	70代	女
7	もともと好きだから	40代	男
7	運動になるし、楽しいから	60代	女
7	身体的・精神的両者の健康保持、増進のため	50代	男
1,2	娘、友人の誘いとママさんコーラスに入っている為	50代	女
1,2	家にばかりいると良くないと思うので友人とか家族を誘う	60代	女
1,2	寺参り。知り合いの方のコンサートで招かれて	60代	女
1,2	人の誘い(親、夫、子供、姉、友人等)	50代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

Ｂ票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「④－２ 屋内での生活における工夫」

参考6

内 容	性別	年代
ipadを使ってスイッチなどで意思表示をしめすようにしている。	20代	男
ipadを使って文字盤を出して言葉をうたせてる。だいぶ打てるようになってる。	20代	男
ipadを使って五十音盤をアプリで入手し、スチロール棒を使って頭でそうさし、文字を入力させて意思疎通をしている。	20代	男
DVDや音楽を楽しめるように身近にセッティング	20代	男
寝たきりなので、出来るだけ車イスで体を起こす様に心掛けている。	40代	女
出来るだけ車イスに座らせる様にしている(寝たきりなので)	40代	女
物を動かしても元の位置に戻す	80代	男
特にありません	40代	女
食器などの整理整頓をしやすい棚の配置・扉はすべて開けておく	60代	女
電子レンジ等のよく使う機能ボタンに凸シールを貼っておき判別する	50代	男
トイレや玄関等はセンサーで明るくなる工夫している	60代	女
長年になりますと横着になりつまずいたり踏外したりしますので必ず手摺を持つ様心掛けているそうです	50代	女
玄関前にランプ(夜)をつける。(目印用)	60代	女
無色透明のガラス食器は見辛いので使用後はすぐに洗って元に戻す。	50代	女
箱の中にコップを入れてたおさないように工夫している。家族が所定の位置に物を置かないのでおこる。	60代	女
ラジオは常にきいて情報や時刻等生活の一部になっています。	70代	女
電灯のスイッチのヒモがどこにあるのかよくわかるようにぬいぐるみの人形をとりつけてすぐ手に当たるようにした。	70代	男
採光、照明の調節	50代	女
自分でこれはすぐに見つからないと困るような物に「TILEタグ」を紐付させておき実際にありかを確認したい時にスマホやAIスピーカーからそのタグを呼び出しメロディの鳴る位置で見つけるようにしている。	50代	男
靴下を履かない(足底の感覚)	50代	女
商品の名称をマジックで書きなおす。手紙もサインペンで書きなおす。明るい場所に置く、暗くなるとまったく分かりません。	70代	女
お茶やコーヒーを入れる時、少しゆらしてライトを当て、反射光で水位を見る	60代	男
移動の際に音でわかるよう、同居人(私)にスズをつけてみた。	40代	男
物を動かす場合、元の位置に戻す。扉は開けばなしにしている	80代	男
セントラルヒーティング 照明等にセンサー	60代	女
整理整頓を心がけている	70代	女
ドアをすべて開けてぶつからない様にしている	70代	男
1. 財布の小銭入れを分別して準備しておく。2. 食材料(ビニール袋入り)はすべて内容、消費期限などマジックで大書	70代	女
ぶつかってもケガしないよう保護カバーをつけている	40代	男
扉を開け外部の音を聞こえやすくする	80代	男
音声機器の多用(時計、温・湿度計、体温計、秤り等)	70代	女
室内が暗くなると大変見えにくくなる為常に照明をつけています	50代	男
透明のガラス食器は使用后すぐに洗って戻す。	50代	女
常に整理整頓を心掛けています。	70代	女
段差で色を変える	70代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「⑤-5 視力以外の状況」

参考7

内 容	性別	年代
指先の痛み、かゆみ	60代	女
発疹	80代	女
ここ数か月で以前よりも顔、首、体幹部、上下肢のアトピー性皮膚炎症状が強くなってきており、より治療効果が高い皮膚科受診に苦慮している。他人からも皮膚の状態が悪いと、時々気の毒がられたり全く知らない人からは変質者として暴言を吐かれる事もあった	50代	男
眼の中・大きさがどんどん小さくなってくる	70代	女
爪の割れによる痛み	70代	女
爪が右左割れてスプーン状に曲り親指、人指し指、小指が両方割れて毎日爪切りにて削り肉まで切ってしまう	70代	女
脳血栓、副腎異常	60代	女
胃粘膜の保護剤を飲んでいる	70代	女
高脂血症	70代	女
痛風、脂質異常	70代	女
血糖値が高い	30代	女
四年前に急性虫垂炎による腹膜炎の開腹手術入院以来胃腸の消化・吸収面で幾分違和感を感じる	50代	男
甲状腺異常	70代	女
貧血症	60代	女
花粉症 今現在のコロナ感染による肺炎症状が出ているのかどうかの判断が自分ではよくわからずに基本的な手洗い、マスク、換気などのこまめな注意しかできないので。喉の奥の詰まり感が違和感	50代	男
右鼓膜炎、左外耳炎	50代	女
肺マック症	60代	女
せきこむと息をはくだけですいこむことがよく出来ない胸の皮フが赤くなり痛む	70代	女
乾燥肌	80代	男
ちょっとした気候変動や環境の変化でも風邪をひきやすかったり、痰が出やすくなったり、咳の痛みを感じやすくなったりする事が多い	50代	男
聴覚が反響して聞こえずらい(右耳)	70代	女
呼吸器が常に敏感にて咳込みのどのかわき痛い	70代	女
結膜の炎症	40代	男
転寝し目をさました後1時間程周囲の物が殆んど見えない状態だと親が始めて聞かされました。ここ数年の事らしいです	50代	女
分泌物(めやに)でまわりがただれる	70代	女
まぶたと眼球のゆ着のためだんだん視力低下。角膜も角化しているそうです。目が渴くので常に(15分に1回)位目薬をさす	70代	女
涙のう炎	40代	女
後発白内障、緑内障、角膜白濁	50代	女
痛み、眼精疲労、MRSAが1+	70代	女
外部からの異物が付着したりすることで目の痛みやめやにが出やすかったりする	50代	男
右目の傷が常にあり痛い。テープを貼っているがかゆみが出てくる	70代	女
ソフトサンテア15分置きに点薬する様にいわれているけど毎日の事つい忘れてたりする	70代	女
瞼や眉間の皮膚の荒れの痛み	50代	男

内 容	性別	年代
涙が出ない。さかまつげがひどい	70代	男
角膜の角化のためだんだん視力が落ちてます。目のまわり、目のふち、目の中がかゆく大変です	70代	女
のどの痛み、声がれ	60代	女
口唇ヘルペス	50代	女
アフタ性潰瘍	50代	男
口腔粘膜一部癒着、歯肉が落ち、知覚過敏がひどい	50代	女
のどの奥がはりつき咳こむ(ひどい時がある)	70代	女
唇舌の皮膚が薄く常にキズがつく。痛い	70代	女
イライラして怒りっぽい	70代	女
全て頼りであった主人が亡くなったためこの医薬品機構の書類も何んとか自分で記入し又娘に来てもらって記入を手伝ってもらっています	70代	女
気分が晴れず、イライラがある	80代	男
過去に経験した折のフラッシュバックによるPTSD症状	50代	男
完全のうつではないと思うけど時々落ち込む	70代	女
全身の筋肉や関節の痛み。すぐに風邪を引き高熱が出る。ひどい頭痛がほぼ毎日ある	40代	女
食事をするのにのみ込みが悪い為水分が必ず必要。涙がでないので毎日マイティア、フラビタン軟膏5回以上差している。爪がはえてこない為物がつかみにくい。気管が悪い為たんの切れが悪い。	70代	男
片頭痛 てんかん	50代	男
肩こり、頭痛、めまい、息切れ、貧血症、不規則血(TENの時輸血)多汗、ひん尿	60代	女
人と会話がはずみ話すぎると(いつもより)のどがかれてハスキーな声となり声を出しにくくなる。食べ物をよくかんで食べるのにのみ込む時につかえてしまいうまく飲み込みができない(食べる物も考えてしまい食べたいと思う物が食べられない)	50代	男
腰痛・坐骨神経痛	50代	男
筋肉、関節の痛み。つめがないので手や足のがんばりがきかない。	60代	女
難聴、歩行困難	90代	男
先のことを考えると不安で不安で夜も寝れない	70代	女
虚弱性胃腸炎で下痢が止まらない	60代	女
足腰のいたみ(整形外科に通院中)	70代	女
だ液が出ないため物を食べる時に苦しそうです。のみ込む時などたいへんでイライラしています。涙がでないためたえず眼を洗い眼薬を差さないといけない。爪がないので物をつかむの事がむずかしい。	70代	男
現在一番心配する事はコンタクトレンズです。京都府立大医科にて再生医療を受けたのですがコンタクトレンズ(京都サンコンタクト)1枚25万自己負担1万円です。その装着検査を3回~4回京都まで行って紛失した場合2枚目から自己負担になるそうです。毎日朝から晩紛失したらどうしようと常に心配をし通しです。もう少し安くしていただきたく願っています	70代	女
1. 加齢により、視力低下の今後、介護者の健康状況、不安だらけです。	70代	女
腔癒着(出血あり)・骨密度減少(皮膚におけるビタミンD生成機能低下も考えられるとのこと)(不足)	50代	女
泌尿器の異常	60代	女
強度頭痛 強度肩こり、頸こり、背中の張り ヒフの変色や発疹	50代	男
特に舌と爪に困っています。この1月右手の親指の爪の間に帯状疱疹が発症しまして右手首から肩まで3ヶ月かかりました。爪がとにかくハクリしている割れていてどう治療したらいいのか近くの皮ふ科に行ってもそうとただけでどうしようもない見たいです。長い事これからも先も老いていっただけでこのままなのかとさみしいく思います。舌はアズノールのうがい薬があり助かります。舌が一番の悩みです。	70代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑥-1 主たる介助者の健康状態 詳細」

(1. 良好、概ね良好 2. 介護の負担減少 3. 生活の工夫に関するもの 4. 四肢に関するもの 5. 内臓機能に関するもの 6. 聴覚・呼吸機能に関するもの
7. 眼科領域に関するもの 8. 精神面に関するもの 9. 年齢面に関するもの 10. その他)

区分	内 容	性別	年代
1	各事業所の支援体制や協力体制ができています	80代	男
1	病院へ行った事がない	70代	女
1	食事、運動など日々気をつけているから	70代	女
1	健康と若さ	50代	女
1	特になし	70代	女
1	食事など健康に気をつけている	30代	女
1	体調管理が出来ている	80代	男
1	特別変化なかったため	80代	女
1	段々機能低下あるも、実生活に大きな障害はない	70代	女
1	退職し休養充分	60代	男
1	特に問題なし	60代	男
2	介護をする必要がほとんどないため	70代	男
2	孫の世話で少々疲れ気味	60代	男
2	出来る事は本人にしてもらい他の人も手伝ってくれる	70代	女
2	ヘルパーさんやデイサービスなど活用できる場所はするようにしている。	20代	男
3	現時点でコロナの影響で外出がしにくい、ヘルパーさんなどが月～土の間入ってもらっているので息抜きができる。	20代	男
3	散歩、スポーツ等している	70代	男
4	おしり周辺がいたい。	70代	男
4	足腰悪い	70代	男
4	3カ月前に骨折して、その予後があまり良くない	60代	男
4	圧ばく骨折してから歩くのが少なくなり、少し歩くと息切れします	80代	女
4	関節痛などどうもつきあいながら過ごしている。	20代	男
5	7月に出産の手伝いに泊りがけで行った。8月・9月は週2日。だんだんと減ったがとても忙しく疲れた。12月にカゼを引き体調は良くならない。セキが止まらない。薬の副反応で口内炎・下痢が続き、食事がうまく出来ず、逆流性食道炎も悪化した。	40代	男
5	前立腺がんで治療中。脳梗塞で言葉が出ない	60代	女
5	◎心筋梗塞 ○胸椎、腰椎、圧迫骨折で歩行機を仕様しているが視力を必要とする事、物の説明等しているが視力を必要とする事。物の説明等外出介助等も必要に応じする	50代	男
5	四日市市民病院 動脈瘤(53ミリ) 経過観察診断、心臓CT6ヵ月 予約	70代	女
5	胃腸の具合が悪く検査してもらい胆濃炎と診断され現在、通院しています	70代	女
5	1. 脊柱管狭窄症 2. 動脈瘤53ミリ(2019. 8現在)	70代	女
6	耳の病気が再発している為	80代	女
6	左耳の耳なりがひどいのでイライラする(聴力に問題なし)・不眠	40代	男
7	視力障害の悪化	50代	男
7	目も見えにくいし足が悪いので	70代	男

区分	内 容	性別	年代
8	仕事と妻の介護で全たく休みがない	40代	女
8	母が亡くなりいろいろな事あり寝むれない日もあったりとなかなか解決していません。心療内科に通っています。	20代	男
8	良いという状態でもないと思うから	50代	男
8	現在はあまり介護は必要ではないが将来もし自分が病気、けが等で入院したらどうしようと不安になります。	60代	男
8	昨年、母が亡くなり姉からのいじめが続き体調不良適応障害と診断され日々苦しんですごしてきましたが、姉に会うのはやめなさいと心療内科の先生に言われ少しづつ落ちつき、体調も戻ってきました。しかし姉のいじめが頭をよぎる事が多く悩んでいます	20代	男
8	ストレス(全てを言葉で説明しなくてはならないため)	60代	男
8	2月に手術しました。その後1週間に2度京都まで通院の為	80代	女
8	一ヶ月の間に二人の(弟と甥)の葬式を出し納骨等々大変な年始めでした・夫の入院も重なり11月～1月迄、年明けの退院に配慮して頂いた	50代	男
9	年令(老れい)	90代	男
9	加齢症状(腰痛)その他が出てきて心配だから	70代	女
9	加齢	40代	女
9	外泊等で車イスから下へ降ろす、又反対に下から車イスに座らせる、そのたびに腰痛を起こす。工夫してはいるが難しい。その他は良好です。自分も70才を過ぎだんだん大変になって来た。	40代	男
9	母の老化	50代	女
9	更年期になりつつあり、体力や精神的に年々しんどくなります。	20代	男
9	加令で故障がいろいろあるが、日常生活に支障がない	70代	女
10	発病以来、本人は視力低下と斗っている。三十年近く妻は<私にしか分からない>がログセである。主に病院と家事に限られるが必ず介護者を必要とする。良好な健康こそすべてである	70代	女
10	コロナウィルスで不安な毎日です	20代	男
10	仕事でとてもいそがしい上に、つかれて帰ってきても介助をしなくてははいけない	40代	男
10	常に介護が必要なため	70代	男
10	寝込むことはなかった	10代	女
10	仕事・家事に加え介ゴの負担増が今年とても多くなり病気をしている	40代	男
10	介護者自身も障害があり、状態が良くない	50代	男
10	常に介護が必要なため	60代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑦-1 介護をしていく中で、困ったこと」

(1. 精神面に関するもの 2. 肉体面に関するもの 3. 生活面に関するもの 4. 経済面に関するもの 5. その他)

区分	内 容	性別	年代
1	いつ症状が悪化するかといつも不安	40代	女
1	介護者がいなくなったらどうするか	70代	女
1	精神的な不安、心細さが増えた	70代	女
1	思い通りに行かないと怒る	70代	女
2	排便、排尿ができなくなる時がある。	10代	女
2	本人の健康の不安がある。	20代	男
2	当事者も年を重ね、介護者もその分年をとるのでいろいろと大変です。自立する事は一生ないので。	20代	男
2	夜のオムツかえ頻繁。母老化のため行動スロー故、時間がかかる故、夜はオムツ交換後、後始末すると又次の交換と、母のねる間がない。	50代	女
2	本人骨格がしっかりしている為全体的にがっちりしている。食事をへらしたりしているがなかなか体重がへらない。	20代	男
2	加齢による腰痛などが増えてきた。	40代	女
2	ひざ痛。	40代	男
2	歩行機での外出は雨の時等は傘がさせず大変困る。	50代	男
2	全盲に近いので、介助することがとても増えている	40代	男
2	年を重ねてきたため体もあちらこちらといたくなって、着がえも手伝うようになった	50代	男
2	視力がおとろえてきてる様子	70代	女
2	自分の身体が高齢の為思う様にならなくなった	60代	男
2	圧ぱく骨折をまたした為、歩かないと行けないのですが、なかなか歩いてもらえない	80代	女
2	脳梗塞があるていど軽くなったけど前立腺ガンとなり、その後大腸検査しなければならないのでたいへんです	60代	女
2	この1年間に介護者も高齢なため体調をくずしたりいろいろな事が身辺におきてきました。	70代	男
2	本人は全く見えない自分は体力もなくなり余り外部に話さない	70代	男
2	症状が進んで夜間歩行困難、起居不自由を体験した。(12/25現在少康状態)2突然の宣告(心臓CT)でびっくり驚天。経過観察予約を継続	70代	女
2	できない事がふえていくのでこちらの介助する事が(時間)がふえていく	40代	男
2	体不調とやる気がなくなってきた	60代	女
2	頼れる友人がいない	40代	女
2	視力低下があり、1人で行動出来なくなった	70代	女
2	体力的に余裕がなくなった事。体に自信がもてなくなって来た事	70代	男
2	自身の体調不良により出来る事がへった	50代	男
2	入院することが増え介助量も増えている	40代	男
2	自身に動脈瘤が見つかった(52.5ミリ)自覚症状がないのが救いである	70代	女
3	父が認知症が重度化してきたため、介護してくれるどころか父の介護が必要になったのでコンタクトレンズ(ソフト)の交換などが毎日できなくなった。	70代	女
3	急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからなかった	60代	女
3	マスク、アルコール消毒が売ってない。	10代	女

区分	内 容	性別	年代
3	急な用事、外出の時に困った	50代	男
3	夫の失禁や徘徊・DVで視覚障害の息子より対応に苦慮している	50代	男
3	生活が別なので毎日行くことができない	70代	女
3	全く見えなくなったので食事とか色々な面で	70代	男
3	協力して下さる友人がふえてきた	50代	男
4	通院などのサポートが大変。費用も高額。	40代	女
4	状態が悪い事で、出来る事が減った。たよるにも経済的に無理な状態	50代	男
4	ほぼ全盲のため、仕事しつつ介ゴや家事をしてとても大変で経済的にも大変です	40代	男
5	何にでも参加したがる	50代	女
5	子供が具合が悪い時に病院に連れていくのに車を運転しているので、後ろに座っている子供の吸引等ができない	10代	女
5	夫が自分の時間が必要になってきたので娘をみながららない。	20代	女
5	忙し過ぎた。	40代	男
5	急に通院(病院に行かなければならない時)	80代	女
5	仕事の都合で介護できないことがあった	60代	男
5	仕事でとてもいそがしい上に、つかれて帰ってきても介助をしなくてはいけない。仕事の忙しさ+介助の時間をつくること	40代	男
5	家族の怪我による入院と身内の葬式	50代	男
5	盲導犬と一緒に飲食店へ行くと、まだまだ理解されていない場所が多い。許可をもらっても店内に動物アレルギーの方がいないか気づかってしまう	40代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「⑦-4 介護をしていく中で困ったことの解決方法」
 (1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他)

区分	内 容	性別	年代
1	話す事で楽になる	20代	男
1	話せる事で気分が安らぐ。	20代	男
3	自分がみることをふやした。	20代	女
3	公的な介護制度の利用	80代	男
3	外出の日程を変更してもらった	60代	男
3	3人で行動する(母・姉・自分・●姉・自分)と都合の悪い時はエスケープ出来る	50代	女
3	いっこ、ヘルパーさんetcのお手伝い	80代	女
4	導尿、ネラトンを使った排便を訪看さんに教えてもらう	10代	女
4	身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した	60代	女
4	各サービス事業所との連携	80代	男
5	まわりの方に相談し、協力してもらえたため	50代	男
5	何事もなく暮していたことで解決	50代	女
5	娘または息子の妻に代わってもらった	60代	男
5	たまに娘達が介助してくれる	60代	男
5	自宅に導尿セットなどを購入しておいて具合が悪い時訪看さんに来てもらって処置してもらう。	10代	女
5	主治医の病院で親が亡くなった後も面倒を見ると言ってもらえた。	40代	女
5	まわりが協力した	50代	女
5	本人の意見を尊重し、周囲との連携を取っている	80代	男
6	退職した	60代	男
6	そのつど対応して頂いた	80代	女
6	救急車を呼ぶ	10代	女
6	やるしかなかった	50代	男

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「⑦-5 介護をしていく中で困ったことの解決すると考えられる方法」
 (1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他)

区分	内 容	性別	年代
1	自身の障害は悪化する事は増えて行くので今後が心配	50代	男
1	PMDAの対応の悪さに心から悲しく辛い心境です	40代	男
1	良い方へ物事考えをする	40代	女
2	運動してひざを鍛える。	40代	男
2	本人の食欲を(特に夜)おさえるようにしている。	20代	男
2	健康被害者の視力回復	50代	男
2	加齢症状(77歳)は年相応とも考えられる。ひとりひとりの自覚。	70代	女
2	視力がもどれば	60代	男
2	体の衰えと思われる	70代	女
4	ケアマネージャー 地域包括支援センター 社会福祉協議会}と話し合いをして行く	50代	男
5	経済的えん助をつよく求めます！！	40代	男
5	すべて後期老々介護の健康寿命維持が問われる	70代	女
5	障害は悪化しているので経済的不安がなくなる事。	50代	男
5	毎日誰かが行き来できれば、コンタクトの交換が確実にできる	70代	女
5	医学の進歩に期待する	70代	女
5	自分と同居できれば少しは安心で精神的には解決できるのかも	70代	女
5	夫の努力しかないか？	70代	女
6	ドクター曰く市立病院は術例も多く、豚弁膜の移植などで10~15年延命が可能であるから心配しないでよろしい	70代	女
6	100%解決はできない	60代	女
6	座会話不能故、他人では出来ない。	50代	女
6	思いつかない	70代	女
6	解からない	40代	女
6	分らない。	40代	女
6	難しい。	40代	女
6	昭和55年以前の患者の問題など なぜ？S55年と区切ったのか返事なし	60代	男
6	時間がたてば、少しましになると思います	80代	女
6	どうしたら良いのかわからない	70代	男
6	不明	40代	男
6	ない	40代	男
6	わかりません	40代	男
6	かならず定期検査<心臓CT>を受ける。Drは「術例もあるので十年は生きれる。心配するなど診断	70代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑧-1 主たる介護者を支えるようなもの」

(1. 家族 2. 知人・友人 3. ヘルパー・ボランティア 4. 患者会 5. 公的な機関・制度 6. 趣味・外出など 7. その他)

区分	内 容	性別	年代
1	夫	40代	男
1	長女 社会人一年生楽しくてしょうがない。二女 お寺の仕事と大学の生活の両立	50代	女
1	時間のある人が手伝う	70代	女
1	夫に相談	70代	女
1	まず本人が意欲を以って(20数年)視力低下と闘っている。この気持ちありがたい	70代	女
1	子供達が助ける気持が多くなったので心強くおもうようになった	60代	女
1	娘に話をした。(生活をしていく上でのストレス)	70代	男
1	娘達	60代	男
1	兄や夫に相談して手伝ってもらった	70代	女
1	私のかわりに母の付きそいや、さし入れをして下さいます	80代	女
1	娘に代わってもらった	60代	男
1	初めての事ばかりで色々手伝ってもらい家族葬をした	50代	男
1	夫の介護をして行く中の相談	50代	男
2	友人にたよっていました	80代	女
2	先日急に歯が痛くなり、私の都合がつかず知人に連れていってもらった(急な時にはガイドさんは頼めず困りました)	50代	男
2	友人との会話	50代	男
2	友人との食事会	50代	男
2	友人とランチ	20代	女
2	友人との食事	40代	女
2	友人	10代	女
2	介護者・友人達との食事	70代	女
2	友人との食事など	60代	男
2	友人、知人に助けられました	50代	男
3	ヘルパーさんには大変お世話になっています	70代	女
3	本人が要介護の認定がとれ、僅かであるが夫が出来ない家事(例えば裁ほうなど)をホームヘルパーに依頼出来るようになった	70代	女
3	ヘルパーさん、訪看さん	10代	女
3	ヘルパーさんやデイサービスの方々。	20代	男
3	ヘルパーはけんサービス	80代	女
3	同行支援	70代	女
3	ガイドヘルパー、ヘルパー、デイサービス等の協力	80代	男
4	障害者団体の親の会。	20代	男
4	障害者家族の会など。	20代	男
4	患者の会で病院や介護施設の情報交換をした	60代	女
5	社会福祉協公会等有料のボランティアを紹介される等毎月の事をお願いするには救済の謝礼では通院の交通費で調査の書き込みは親がするほか無く負担である	50代	男

区分	内 容	性別	年代
5	相談、報告、連絡(各事業所間のサービス調整)	80代	男
5	生活面での情報提供を受けた	60代	男
5	かかりつけ医、藤牧循環器内科、なにかあったらすぐ連絡してください	70代	女
5	公的制度	80代	女
5	福祉事務所に相談	50代	男
5	病棟にまかせる。	40代	男
6	まわりの人が(家族や祖母、伯母夫婦)心配せずに業に励む様言ってくれたから朝4時半から夜8時までの修行も苦痛より楽しく過ごせ最後に表彰状も頂け一同喜んでいきます	50代	女
6	毎週、体の施術に入っている(本人)	30代	女
6	姉の家を宿にして友人とコンサートに行ったり東京見物も出来た。剃髪にして業に入ることが出来た。→12月25日僧籍取得	50代	女
6	趣味を行って、ストレス解消する	70代	女
7	健康被害者の感謝の言動	50代	男
7	(子供がいないので)ふたりで生きること	70代	女
7	家事援助等はある同居をしていない息子の目となり、口となり説明する様な人(日々の生活)を支えるような制度は無い	50代	男
1,2	親せき・友人	80代	女
1,2	息子や友人と一緒に手伝って下さいました	80代	女
1,2	子供達、友人たちとの付き合いを楽しむ	70代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「⑨-2 介護者の社会参加・社会活動等のきっかけ」

(1. 家族 2. 知人・友人等 3. 患者団体、同好会等 4. 情報誌や広告等 5. テレビ、ラジオ 6. インターネット 7. 自発的な活動 8. その他)

区分	内 容	性別	年代
1	家族旅行	40代	女
1	基本的に介助で旅行した	40代	男
2	友人の誘い	80代	女
2	まわりの方々のおさそい	50代	男
2	子供のころから文芸教養に関心があり、続けていくことで仲間もいる。	70代	女
2	会社のすすめで資格取得の勉強 ファンクラブの参加(友人と)	50代	女
2	知人のコンサートに行きました	30代	女
2	中、高、大学の友人関係	50代	女
2	友人知人からの勧めがあった	60代	男
3	地域の小学校にて卓球をしていましたので参加しました。	20代	男
3	ボランティアに参加している	70代	男
3	近くにヨガスタジオができ、時間的余裕ができたので	60代	男
3	包括支援センター主催、認知症サポーター養成講座	80代	男
3	地域の体育振興会の役員さんに卓球の大会(地域の会)に出場する事をすすめられ出場しました。	20代	男
4	地域のイベント・研修	80代	男
4	広告・案内	50代	女
4	お寺の門徒委員・文学教室(月1)の参加	70代	女
4	近隣で市民交響楽団のコンサートに行く事が出来た	50代	男
4	近所の方がさそって下さった	50代	男
6	ネット	50代	女
6	ネットによる情報、友人からの勧め	60代	男
7	散歩、買物	50代	男
7	ストレス発散の為	60代	男
7	呆けない為にも交際範囲を維持したいという思い	70代	女
7	体力をつけたいと思ったため	70代	女
7	映画の内容が2人共見たい内容の物であったため	50代	男
7	昔から行っていた。	40代	女
7	従来通り余生を人なみに楽しむ	70代	女
7	自分自身の知識向上のため研修に参加	80代	男
7	買い物、散歩	50代	男
7	何とか時間をつくってサッカーにいつて	40代	男
7	時間的、体力的に余裕があるから	70代	女
7	健康作りのため	70代	女
7	現役時代から続けている	70代	女
8	町内の夏まつりに参加しました。	20代	男

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑩-1 介護をしていく中で、新しい発見や気分転換などがはかれたこと」

(1. コンサートや映画等の観賞やスポーツ観戦 2. 旅行、外出 3. 趣味 4. 患者団体等の活動 5. 地域活動 6. その他)

区分	内 容	性別	年代
1	新聞に書いてあったミニコンサートを見て数時間でしたがその間「無」になり気分転換となる	50代	男
2	友人との旅行で気分転換できた	60代	男
2	散歩	50代	男
2	友人との食事会	50代	男
2	散歩で公園を通る時に季節ごとの草花を見て季節を感じられることが気分転換になっている	60代	女
2	優しい友人たちとの時間	50代	男
2	友だちとランチ	20代	女
2	友人との食事会に参加。	40代	女
2	家族との買い物に行った時	20代	女
2	友人と旅行に行くことができた。	10代	女
2	なるべく外に出る	70代	女
2	近隣の散歩、買い物など、日常生活から離れた時	50代	男
2	旅行で非日常を楽しむ事ができました	30代	女
2	山歩きや旅行で親しい友人と楽しい時間を過ごす時	70代	女
2	娘達との食事、お出掛け	60代	男
2	施設入所している知的障害の次男の外出のチャンスの可能性が広がった	50代	男
3	本人が意欲を以って『鼻うがい』を始めた。夫婦でインフルエンザで悩んでいたのが効果があった	70代	女
3	妻が花キチ(!)なので鈍感な私に指摘する。3級が老眼シニアに尋ねる	70代	女
4	健康被害者と散歩、買い物等	50代	男
4	大勢の方々と生活を共にした一ヶ月自分は楽しく修業出来たのは今まで親を支えてきたつもりでいましたが本当は皆に支えられここまでこられたのがわかったそうです	50代	女
6	離れている(まご)があそびにきてくれる機会を多くしてくれる	60代	女
6	新しい知識が得られたこと(研修などで)	80代	男
6	声に出して言うのが一番。	20代	男
6	皆同じなやみを持つてる事の安心感	20代	男
6	自分の思っていることをしゃべりだす。	20代	女
6	声に出して言うのが一番。	20代	男
6	皆同じなやみを持つてる事の安心感	20代	男
6	自分の思っていることをしゃべりだす。	20代	女
6	相談や連携を取れる環境があり、不安が解消できた	80代	男
6	かくれていた植木鉢に花が咲いていたのを発見して。	50代	男
6	母親の子離れを思いました	50代	女
6	私の問題は社会の問題であり、社会の問題は私の問題なのである	70代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「②-1 通院時に注意している点」

参考15

内 容	性別	年代
家族がたえなければならぬ事は一緒に同行して先生につたえています	80代	女
通院時には夫の車で行動を共にしている	60代	女
普段慣れている医療機関であれば単独通院も行っている	50代	男
妻の運転で同行しています	70代	男
行き方は決まっているので困らない	60代	女
毎週子供による送迎	70代	女
タクシーで私がついて行きます	70代	男
コロナがはやっているためしょうどく手洗いを院に入る時や帰宅してから行う	50代	男
1月は京都府立大眼科にも検診にて行きまして自宅から同行援護してもらいました	70代	女
盲導犬と	40代	女
マイカーと公共機関の併用	70代	女
予約などして、院内の混雑を避ける	50代	女
一般のタクシーを利用する	60代	男
千葉の大学病院では自分の病気のため行くのがたいへんで今は比較的安定している。近くの病院にて見てもらっている。なにかがあれば千葉病院にて見てもらおう事になりました。	60代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「②-2 治療を受けるときに注意している点」

参考16

内 容	性別	年代
気管切開しているのでインフルエンザ、コロナウイルス等に特に注意している。	40代	女
現在コロナウイルスが流行っておりマスク、消毒。通院回数を減すなど注意をしている	60代	男
使用してはいけない薬などを伝える	70代	女
既往歴を告げるとあまり接極的に見て頂けない様な感じを受けます。	70代	女
なし	20代	男

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「②-3 治療を受けるときに困ったこと」

参考17

内 容	性別	年代
SJSは最近、どの医師も理解するようになったと実感している	70代	女
同じ病院に通院している	70代	女
自分自身のアトピー性皮膚炎症状とSJS急性期以降の後遺症症状と家族の視覚的感覚から様々な専門皮膚科受診を勧められ行って見たものの結果どこの皮膚科に行っても説明を求めても双方の皮膚科症状の因果関係は全く無いと言われた。現在は極力交通費のかからない地元の徒歩通院可能な皮膚科受診で比較的落ち着いており続けて受診している	50代	男
お薬の処方断了	50代	男
使用できない薬を伝えたがその薬が原因かどうかわからないと言われたことがあった	70代	女
理解度が浅い、医師が諦めている	70代	女
担のう炎を患って一応見て頂いたのですが私の場合SJS患者のため抗生剤は出せないと言われ不安でした	70代	女
薬剤の使用をちゅうちょされる(検査、投薬の制限)ワクチン接種	50代	女
大学病院なので担当医が変わるため若い医師ではSJSを知らない者もいる	60代	男
ちがう薬はどうですか?と聞いてもものんでみないとわからないと言われてもそれは残念でした。そうだけどネ	60代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「②-4 その他注意している点」

参考18

内 容	性別	年代
虫歯や歯石等々の治療に訪問診察を歯科医にお願いしている。	40代	女
今まで服用して来た薬で合わない物を書きとめて伝える。	20代	男
薬物アレルギーは今もあります。新しい薬の時には飲ませてから家族がそばで何時間か一緒にいます	80代	女
普段外出時において単独で通えている都心など遠方にある公的な障害サポート機関や私用で訪問する場所であっても、その時その時の時間帯やケース毎に同行援護ヘルパーを利用して途中における人間関係のトラブル防止や事故防止にあたる事もある	50代	男
マスク、エタノール持参(どこにあるか見えない)	60代	女
なし	20代	男

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考19

男女別・年代別の「③-1 過去にあった困ったこと」

(1. 外出に関すること 2. 仕事に関すること 3. 日常生活に関すること 4. その他)

区分	内 容	性別	年代
1	コロナ感染が心配。ヘルパーさんもデイサービスも休んで家族で介護している。	10代	女
1	歩道を自転車がスピードを出して走ること。点字ブロックの上に駐車する(駐輪も)	60代	男
1	物にぶつかることがふえた	40代	男
1	台風のためひなんするときは体育館などではトイレなどでもむずかしいので行政がうまくやっけてすぐにやっけてこれない	60代	女
1	急に病院に行き度い時等買物(食料品)等の時、社協には申し込みなくどうしようかと困ってしまう事がある	70代	女
1	盲導犬が入れない所が多い	40代	女
1	長女の東京転勤二女の修業の支度等姉や母が手伝ってくれたので大変だとか困ったと言うより銀座で働く姿や晴れてお寺の手伝い出来ることなど楽しみの方が多かったです(人生なるようにしかならないというのがモットーです)	50代	女
3	息切れ等で歩行が苦しくなってきた。マスクが買えない	60代	女
3	電気製品のエラー表示が見えなくて困った	50代	女
3	視力が悪くなり今までできていたことができなくなった	60代	女
3	全く見えない事。何から何迄やって上げないと一人では出来ない	70代	男
3	日常生活の制限	40代	男
3	身の回りのこと、家(家族)のこと、いっぱいいっぱい	50代	女
3	体重(本人)がなかなか減らない。	20代	男
3	介護者の加齢による体力の低下。	40代	女
3	スマホの使用範囲を拡げたい。画像が見えないので説明不十分で理解出来ない場合	70代	女
3	すぐに風邪を引いて寝込んでしまう	40代	女
3	手紙etc. 公的機関からのお知らせ・通知	80代	女
3	体力がずい分落ちて来た事と病院に行く事が多くなった	70代	男
3	介助者が見つからない	50代	男
3	体調不良の悪化、経済的	50代	男
4	昨年の暮れから今年の初めにかけて認知症や転倒の恐れのある父親が再度の単独外出時に事故入院に加えて立て続けに親戚で不幸が起こり病身の母が一人でも日頃施設入所生活依頼している障害を持った弟の自宅への一時帰宅のため奔走し、今にも次の葬儀を出さんばかりに心労で体調を崩しかけたがどうにかコロナショックの現在においても体調維持は出来ている	50代	男
4	眼症状の悪化	50代	男
4	母の老化と障害者の体重ふえ介護大変。母より先に死なせるにはどうすればよいか、楽に死なせてやりたい。	50代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考20

男女別・年代別の「③-4 解決策(解決した方)」

(1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他)

区分	内 容	性別	年代
1	おしゃべり	50代	女
5	ガイドヘルパーの支援を受け不安を解消できた	80代	男
5	ヘルパーさん、家族、知り合いに見てもらった	80代	女
5	身内の者やヘルパーの方に同伴してもらうことで、解決できた	60代	女
5	身内の者やヘルパーの方に同伴してもらうことで解決できた	60代	女
6	単独世帯で生活保護受給者であった伯父は年明けすぐになんとか私自身の依頼可能な同行援護ヘルパーが個人アポで見つけられたおかげで、早急に市の生活保護課に訪問し総裁扶助手続きをし市の保障で火葬費用まで負担してもらえたり、父の入院期間を多少延長してもらえいくらか助かった面もあったが2月末までは本当に慌ただしかった	50代	男

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考21

男女別・年代別の「③-5 解決策(解決していない方)」

(1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他)

区分	内 容	性別	年代
2	座位・会話不能故、他人の介護では無理。この様な重度障害者は楽に死なせてあげる法律を作ってもら。きれいな事をうわの空で説いてもらっても仕方ない。母より先に楽に死なせてやる方法を考えている。(施設等は信用できない。入れられるのが不ピンである)	50代	女
2	体力的な事ですので、毎日少しでも散歩してもらいます	80代	女
3	その時はやはりがまんです。日を改めてヘルパーを頼んで行きます	70代	女
5	コロナが落ちつくしかない。	10代	女
5	視力が戻らない以上、難しいと思います	50代	男
5	縁石に塗料が塗ってあるとわかりやすいです	50代	男
5	難病なのでどうしようもない。経済的支援も低い	50代	男
5	一人一人の理解が必要	40代	女
5	補助者が必要。	40代	女
6	不可能	50代	女
6	現時点、解決策はない。あるとすればヘルパーの増員。	50代	女
6	道交法の罰則を厳しくする	60代	男
6	医学の進歩	70代	女
6	視力の回復	50代	男
6	不明	40代	男
6	よくわからない	40代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考22

男女別・年代別の「④-1 満足度の理由」

(1. 満足 2. やや満足 3. やや不満 4. 不満)

区分	内 容	性別	年代
1	自分の出来る事を一つ一つ増して生活を送る	60代	女
1	ヘルパー、ガイドヘルパー、デイサービス、訪問看護、主治医の連携が取れ安心して生活が送れている	80代	男
2	心疾患は悪化しましたが毎日は楽しいです	60代	女
2	身体上、生活上大きな変化はなかったから	50代	男
2	友人と旅行に行くことができた。	10代	女
2	大きく体調くずすことが無かった。	40代	男
2	外出する際、周囲に対して不安感や不便さを感じることもあるが、そのほかは特に不便さを感じずに過ごせたため	60代	女
2	制限のある中でも可能な事は実行する	50代	女
2	今までより動きにくくなった	60代	女
2	不自由な事は多さんあるが金銭的には心配がないこと	70代	女
2	夫が入院してその介護をしなくて良くなったから	70代	女
2	家族の協力	60代	女
2	私の場合夫が亡くなり今まで全て頼ってこのアンケートも主人が記入してくれましたけど一人でしなければならないという事のつらさ、きびしさがありますが娘やヘルパーさんなどの協力で過ごしています	70代	女
2	盲導犬と一緒に人にたよるしか外に出れなかったが、実家等近くの場所へ行ける様になった	40代	女
2	視力が著しく低下して全盲が避けられていること	70代	女
2	もっと安心して外出できるような社会になってほしい	60代	男
3	自分でしたい事が少しずつ出来なくなって来たから	80代	女
3	やはり就業し一定の収入がなく障害者基礎年金や機構からの謝金だけでやりくりするしかなかったのが今のところどうにかコロナに感染してはいないがいつ自分や家族の感染が発覚するか。万が一の感染時の家族からのフォローについても周囲は高齢で両親しかいなくて、物理的援助の可能性が少なく経済的にもすごく心配要素が多い	50代	男
4	日々の生活だけで精一杯。趣味、余暇、外出(イベントなど)の時間がない	50代	女
4	状況がかわらないから	40代	男
4	目が見えない事でストレスでいらいらしている	60代	男
4	生きているのがつらい	50代	男
4	1. 症状悪化 2. たぶんTENだと思のに認定されない(制度の中の差別) 3. 先行きの不安	60代	女
4	台風19号で被災しており現在アパートに住んでいるので	60代	女
4	不健康(身障者である為)	50代	男
4	目の痛み、呼吸の苦しさが常にある	40代	女
4	視覚情報の共有が出来ないこと	70代	女
4	見えないため、音が気になる。また、昼間緊張しているためか？夜ナカナカ入眠出来ない	80代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「⑤ 日常生活を満足するために一番やりたいこと」

参考23

内 容	性別	年代
草花の手入れ。	40代	女
外泊で自宅に戻る。	40代	男
コンサートに行く、演歌歌手を鑑賞する楽しみ。今は新型コロナウイルス感染拡大抑止のために外出が出来ません	60代	女
自分のマッサージ 現在就労移行支援で訓練中のビジネスPCスキルを生かした企業内ヘルスキーパーへの就職	50代	男
該当なし	50代	男
友人、親、姉との会話、食事会 カウンセラー	50代	女
外出は大変だが姉妹子供達と温泉などへ行きたい	70代	女
なにもやりたくないじっとしていることがいちばん	70代	女
家事のみの生活→自分の時間が欲しい	50代	女
時間がほしい	40代	男

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考24

男女別・年代別の「⑤-2 一番やりたいことを実現できるかどうか」

(1. 経済的理由 2. 健康上の理由 3. 精神的理由 4. 家族や友人に関する理由 5. 周辺的环境 6. その他)

区分	内 容	性別	年代
1	以前より時間がとれるようになったが経済的にあまり余裕はないので積極的にけんとう中	60代	女
1	衣・食・住の生活で一生懸命だから	50代	女
2	身体状況が不安定であるから	50代	男
2	みえないため	40代	男
2	病状が改善しないため	40代	男
2	体力的に無理しない。	40代	女
2	計画はあるが目の具合、体調が良ければ行けると思います	60代	女
2	年令的な事なので	80代	女
2	体が動く(健康であること)ことで可能	70代	女
4	移動する際サポートしてくれる友人などの気を許せる人が同伴してくれれば実現できると思う	60代	女
4	協力者がふえてきたため	50代	男
4	つれて行ってくれる人達がいるから	70代	女
4	本人の意思がある程度、親以外にも伝わる。	20代	男
4	家族と一緒に行けたらいいと思う	60代	男
4	介護が大変。	40代	男
4	家族とともにだったら可能	80代	女
4	家族旅行を娘達が計画してくれて、年に1~2回位は出かける事ができそうです	60代	男
5	サポートしてくれる人がいればいけます	50代	男
5	目が痛くて疲れ、体もだるくなる。新しい(慣れない)場所を歩くのに不自由。	70代	女
5	人との対話がすき	50代	女
5	レンタルDVDなど見たり、聞いたり…。	20代	男
5	自分で楽しめるよう努力する	60代	女
5	可能な範囲で行う	50代	女
5	積極的に外出すること	60代	男
5	働いているとむり	40代	男
5	今までと変わらずガイドヘルパーの支援を受けることで安心して外出をしたい	80代	男
6	コロナウイルス騒動などで、家にとじこもらざるを得ないので…	70代	女
6	実現一今は普通の外出でも新型コロナウイルスで自由に出来ない	40代	女
6	今回はコロナショックになるまでは自分自身が努力していけばある程度は就職の可能性も広がられると思いき、訓練についてもはじめてみたが日々刻々と感染爆発のリスクが高まるとともに、世界全体の経済状況もこれまでに人類が経験したことのないほどの経済的恐慌になりそうな勢いで進行しており、家族の健康ももちろん自分自身の就職活動再開のタイミングの計り方についても全く見通しが立てられないから	50代	男
6	コロナがおさまらない事。いっしょに行動してくれる人があるかどうか	50代	男
6	コロナによる外出規制	60代	女
6	コロナ感染の為、ショートステイも閉鎖。自身の感染も心配。	10代	女
6	コロナインフルが落ちついて自分の病気もよくなれば	60代	女
6	特にありません	40代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考25

男女別・年代別の「⑥ 日常生活で工夫したこと」

(1. 生活環境、家屋等の構造の工夫 2. サービスの活用 3. 補助器具等の活用 4. 生活習慣の工夫 5. 精神面の工夫 6. その他)

区分	内 容	性別	年代
1	家で段差のあるところに目印をつけておく・危ないので軽い食器を使うようにしている	60代	女
1	最近では家庭内でのAIスピーカー利用の応用で音声指示により家電リモコンでエアコン操作やネット動画視聴、地方の放送局の視聴などがとても容易になり情報量入手も得やすくなってきている	50代	男
2	病院で知りあった方などの悩み相談や友人の子供さんのコンサートは殆んど参加している	50代	女
4	ipadを利用して意思ツールとして使っている。	20代	男
4	一人でする事を増えるよう身の回りにそろえる。	20代	男
4	食材を切る時にみやすいので黒いまな板を使っています	50代	男
4	けがのないよう注意する	50代	女
6	該当なし	50代	男
6	なし	20代	男
6	特になし	50代	男
6	特にありません	40代	女
6	特になし	70代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考26

男女別・年代別の「⑧ 必要な福祉サービスなどについてご意見、ご要望」

(1. 介護サービス(介助者関係) 2. 制度の充実 3. 施設面 4. その他)

区分	内 容	性別	年代
1	介護者が具合が悪い時(インフル等)でも頼ることができるサービス。	10代	女
1	各サービス事業所から助言やアドバイスを頂けるので満足している	80代	男
1	私が利用出来る福祉サービスは主に同行援護であるが依頼等での利便性を良くしてほしい	50代	男
1	ガイドヘルプサービスの充実。視力障害者に特に配慮した老令者住宅の充実	70代	女
1	タクシー利用補助券のIC化・障害者手帳のカード化	50代	男
1	掃除支援(年に数回でよい)	70代	女
1	どんなサービスを利用できるか情報がほしい	60代	女
1	配食	50代	女
2	毎年同内容の書類をつくることになるので、もっと簡素化できない? 例:障害1級だとあまり級は変わらないので、デジタル出力したものを送り変更点を赤	40代	男
2	要望希望を聞いてもらえるだけでもあんしんする	60代	女
2	移動の支援 車での送迎を含む柔軟なガイド	50代	男
2	生活支援用具の2度目の購入の申請までの期間を短かくしてほしい。	50代	男
2	サービスなのだから、自己負担金が発生するのはおかしい。支給できる時間がなぜ制限されるのか? わからない...	60代	男
2	福祉サービスが必要になったら考える	70代	女
2	書類が多いため、簡素化して頂きたい	80代	女
2	SJSの被害救済が年(58年)がなくなり、すべての患者さんに適用される事を切に願います	80代	女
2	福祉サービスを受けるために必要な書類が多すぎる	60代	女
3	映画で視力障害者用の解説(音声)サービス・プールでの助泳者派遣	50代	女
3	充実したリハビリを受けさせたい。	40代	女
3	将来、グループホームに入れたいけど無いです。簡単にはつくれないう様子。	20代	男
4	旅行をサポートしてくれるようなサービスがほしい。	20代	男
4	特にありません	40代	女
4	今はまだ元気なので行動できるため特にない	60代	男
4	わからない	70代	女
4	現行の障害者総合支援法の下での同行援護制度や居宅支援、そして障害者就労関係法の中では到底どこかの組織への就労にしてもまた自分自身による起業にしても、どちらにしても利用する場所や状況によって時間の不足や制限に阻まれ、ほぼ地域図書館やコミュニケーション館来館またその同等の専門職員派遣による在宅サービスでのいかなる書籍や資料持ち込みの依頼内容に際して代筆、代読(PCやスマートホン入力も含む)サービスを一刻も早朝に受けられるような無償の制度化、予算化を整えてほしい。様々な生活面においての地元自治体独自サービス選択保障をしっかり整えてほしい。またこのPMDAの謝金制度を課税対象から除外してほしいとともに、この経済危機の社会状況なので極力STS発症や原因薬不明の立場の患者においても、個人の所得に応じて月々の保証額を少なくともせめて最低10万円ぐらいの増額を要望します	50代	男
4	SJSの医療の情報サービス 福祉サービスを受けるのも専門医療を受けるのも救済制度に認定されていない者にとって大変経費がかかりとてもムリなことです。現在も進行中のこの被害を考え科学的方法で救済を見直しこのアンケートに参加している人々で症状の重い人たちを認定して頂きたい。この差別化している制度について問題ありと思います。私は薬とそれを認証した政府に一生をこころされたかと常に思っています。SJS、TENの発症率はもっと多かっただと思います。私たちのような者を除いているとしたらあの数は不確実です。つまり薬の安全性はもっと低く政府は嘘を流していると思います。	60代	女

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考27

男女別・年代別の「⑨ 今必要な情報について具体的に知りたいこと」

(1. 医療・福祉サービス 2. 年金 3. 趣味・娯楽 4. 住環境 5. 社会活動・就職 6. 経済面 7. その他)

区分	内 容	性別	年代
1	小児科から内科へ移行時の事例。	10代	女
1	もっと頻繁に家事代行サービスを利用したい	40代	女
1	県外の病院に行く事がむずかしい。福山～京都へ	70代	女
1	医学の進歩により治療情報	70代	女
1	眼科治療の最先端を知りたいです	60代	女
1	治療に関する情報が知りたい	60代	女
1	目薬の処方が少ない(本数がたりない)一般の人と違いSJSの場合必要量が多いので処方量を増やしてほしい	50代	男
1	視力障害者が受けられるサービス	50代	女
1	治療に関する情報を知り度い 特にSJSの後遺症と思うのですが口腔の舌の事と爪の先生を知り度い	70代	女
3	点字図書を利用しているので娯楽になる様な情報があれば…	70代	男
5	おなじ仲間がどうやって暮しているのですか	70代	女
5	役所ではみんなよく聞いてくれる	60代	女
6	親が亡くなった後の本人に対しての支援について。	20代	男
6	公的年金以外の支援金の有無と自己申請ではなく行政側からのお知らせにして欲しいです	50代	男
6	治療の事の情報 年金は金額がどうなるのか	50代	男
7	障害年金を受けている人の配偶者は扶養の対象にならないってホント？	40代	男
7	なし	20代	男

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

V 用語の解説

【用語の解説】

1 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

概要

医薬品医療機器総合機構は、平成13年に閣議決定された特殊法人等整理合理化計画を受けて、国立医薬品食品衛生研究所医薬品医療機器審査センターと医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構及び財団法人医療機器センターの一部の業務を統合し、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づき平成16年4月1日に設立された。

当機構は、医薬品の副作用や生物由来製品を介した感染等による健康被害に対して、迅速な救済を図り（健康被害救済）、医薬品や医療機器等の品質、有効性および安全性について、治験前から承認までを一貫した体制で指導・審査し（承認審査）、市販後における安全性に関する情報の収集、分析、提供を行う（安全対策）ことを通じて、国民保健の向上に貢献することを目的としている。

名 称：独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

Pharmaceuticals and Medical Devices Agency (PMDA)

設 立：平成16年4月1日

法人の種別：中期目標管理法

2 医薬品副作用被害救済制度

創設：昭和55年5月1日

医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により入院治療が必要な程度の疾病や障害等の健康被害を受けた方に対して各種の副作用救済給付を行い、被害者の迅速な救済を図ることを目的とし、医薬品医療機器総合機構法に基づく公的制度として設けられた。

救済給付に必要な費用は、医薬品の製造販売業者がその社会的責任に基づいて納付する拠出金が原資となっている。

3 保健福祉事業

保健福祉事業は、昭和54年10月に医薬品副作用被害救済基金（現医薬品医療機器総合機構）が設立される際、救済制度の目的が医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図ることにあり、この目的の達成には、健康被害者について救済給付の支給以外に保健福祉事業を行う必要のある場合が考えられることから法制化された。

当初、事業内容としては、医薬品の副作用による健康被害の治療研究等が考えられていた。

具体的には、救済給付を行った死亡、障害等重篤の事例等について、早期診断、治療等に関する研究を行うことにより、救済給付の受給者及び今後発生する健康被害者の治療に役立てること。

根拠 独立行政法人医薬品医療機器総合機構法（平成14年12月20日 法律第192号）
第三条 独立行政法人医薬品医療機器総合機構（以下「機構」という。）は、医薬品の副作用又は生物由来製品を介した感染等による健康被害の迅速な救済を図り、並びに医薬品等の品質、有効性及び安全性の向上に資する審査等の業務を行い、もって国民保健の向上に資することを目的とする。

第四条～第十四条 略

第十五条 機構は、第三条の目的を達成するため、次の業務を行う。

一 医薬品の副作用による健康被害の救済に関する次に掲げる業務

イ 医薬品の副作用による疾病、障害又は死亡につき、医療費、医療手当、障害年金、障害児養育年金、遺族年金、遺族一時金及び葬祭料の給付（以下「副作用救済給付」という。）を行うこと。

ロ 次条第一項第一号及び第二号に掲げる給付の支給を受ける者並びに同項第三号に掲げる給付の支給を受ける者に養育される同号に規定する十八歳未満の者について保健福祉事業を行うこと。

ハ～ニ 略

二～五 略

2 略

4 ライ症候群【英字】（Reye's syndrome）

インフルエンザや水ぼうそう等のウイルス性疾患にかかった小児に、アスピリン等のサリチル酸系を投与すると、その後嘔吐、意識障害、けいれん等の急性症状を起こす。予後は悪く死亡率は高い。

5 SJS（スティーブンス・ジョンソン症候群【英字】（Stevens-Johnson syndrome））

皮膚粘膜眼症候群。皮膚粘膜等に発生する高熱性、炎症性の疾患。全身倦怠、食欲不振につづき結膜炎、口内炎、外陰部の炎症を伴う。気管支炎をおこすこともある。原因は不明であるが薬物、ウイルス等が考えられる。

6 QOL（生活の質）【英字】（quality of life）

一般に生活を物質的や技術的で量的側面からではなく、内容としての質的側面から捉え、生活者自身の満足感、幸福感、安心感、安定感等の諸要因のことをいう。医療、福祉、政策、環境等の広い分野で使われ、ADL、IADL、労働問題、情報保障、自己選択、自己決定、自己実現、障害や差別の改善等がある。生活環境を整え、健康で文化的な生活の向上を目指していて、価値観も含む。

7 ADL【英字】（activities of daily living）

日常生活動作の事。人間が毎日の生活を送るための基本的動作の事。

8 IADL【英字】（instrumental activities of daily living）

手段的日常生活動作の事。ADLが食事、入浴、排泄等の日常的の基本動作であるのに対し、IADLは電話の使い方、買い物、食事の支援、家事、洗濯、移動、外出、服薬の管理、金銭の管理の八項目で構成されておりADLで使用する動作を応用した動作が必要な活動を指す。

9 訪問介護（ホームヘルプ）

高齢者、障害者、難病患者等を対象に、家庭等にホームヘルパーを派遣し、入浴、排せつ、食事等の介護、調理、洗濯、掃除等の家事や生活等に関する相談、助言等日常生活上の世話をを行うサービス。巡回型と滞在型がある。

10 訪問入浴介護

介護保険の給付対象となる居宅サービスの1つで、在宅の要介護者等の居宅を訪問して行われる入浴の介護のことを指す。

11 訪問看護

居宅で介護を受ける要介護者・要支援者に、看護師、准看護師、保健師、理学療法士、作業療法士等が訪問して、必要な診療の補助を行うことを指す。

12 訪問リハビリテーション

要介護者等の居宅において、心身の機能の維持回復を図り、日常生活の自立を助けるために行われる理学療法、作業療法、その他必要なりハビリテーションを指す。

13 居宅療養管理指導

医師、歯科医師、薬剤師等が利用者宅を訪問し、療養上の管理や指導を行う介護保険の居宅サービスのひとつ。

14 通所介護（デイサービス）

在宅の高齢者等に施設に通ってもらい、生活指導・機能訓練・食事・入浴・健康チェック等のさまざまなサービスを日帰りで提供するサービス。

15 通所リハビリテーション（デイケア）

精神症状や問題行動が激しい痴呆性老人を対象とするデイケアで、生活機能の回復への訓練や指導、家族に対する介護指導を行う。

1 6 短期入所（ショートステイ）

居宅で暮らす要介護者について、介護を行う者の疾病その他の理由により、老人短期入所施設、特別養護老人ホーム、障害者支援施設等の福祉施設に短期間入所させ入浴、排泄、食事等の介護その他の日常生活上の世話および機能訓練を行うことである。

1 7 移送サービス

交通機関の利用が難しい高齢者や障害者を対象に、運転・介助等を行う送迎サービス。

1 8 同行援護

障害者自立支援法の地域生活支援事業において、視覚障害者が外出する際、その障害者に同行し、移動に必要な情報の提供や移動の援護等を行うこと。

1 9 就労移行支援

就労を希望する 65 歳未満の障害者に対して、生産活動、職場体験その他の活動の機会の提供、その他の就職に必要な知識及び能力の向上の為に必要な訓練、求職活動に関する支援、その適性に応じた職場の開拓、就職後における職場への定着の為に必要な相談、その他の必要な支援を行うこと。

2 0 就労継続支援 A 型

障害により通常の事業所に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が可能である者に対して行う雇用契約の締結等による就労の機会の提供および生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援事業のこと。

2 1 就労継続支援 B 型

障害により通常の事業所に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して行う就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援事業のこと。

VI 保健福祉事業の一環として実施する調査研究報告書
(生活状況調査票)

※記入しないでください。

保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書
(SJS 等用)

第1・四半期分 (2019年4月 ~ 2019年6月)

調査票記入者氏名		本人との関係	
----------	--	--------	--

提出方法

この保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書は、切り離さず基本情報及びA票（毎月記入用）とB票（四半期ごと記入用）と併せて7月1日から7月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課
〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-2
TEL:03-3506-9460
FAX:03-3506-9439

記入例

1. 健康被害者情報

基本情報

(ふりがな) きこう たろう
 氏 名 機構 太郎 性別 男 女

生年月日 大正 昭和 平成 **30年00月00日**

自宅住所
 (〒100-0013)
東京都千代田区霞が関0-00-0

[電話番号 (00) 0000-0000]

[FAX番号 (00) 0000-0000]

2. 家族構成

同居家族全員を記入してください。

月末日現在

副作用被害者本人との続柄をお答え下さい。	年 齢	主に介護をしている方に○を付けてください。
(記入例) 母	(記入例) 60	(記入例) <input checked="" type="checkbox"/> 主に介護をしている
父	65	<input checked="" type="checkbox"/> 主に介護をしている
		<input type="checkbox"/> 主に介護をしている
		<input type="checkbox"/> 主に介護をしている
		<input type="checkbox"/> 主に介護をしている
		<input type="checkbox"/> 主に介護をしている
		<input type="checkbox"/> 主に介護をしている

3. 障害の種類・程度

視力障害

1級

級

1. 健康被害者情報

基本情報

(ふりがな)

氏名 _____ 性別 男 女

生年月日 大正 _____ 年 月 日
昭和 _____
平成 _____

自宅住所
(〒 _____)

[電話番号 (_____) _____]
[FAX番号 (_____) _____]

2. 家族構成

同居家族全員を記入してください。

6月末日現在

副作用被害者本人との続柄をお答え下さい。	年齢	主に介護をしている方に○を付けてください。
(記入例) 母	(記入例) 60	(記入例) 主に介護をしている
		主に介護をしている

3. 障害の種類・程度

級

級

記入例

A票

(S J S等用)

毎月記入

生活状況調査票

月末日現在

答えられる範囲でお答え下さい。

(1. 点眼液の利用状況)

現在使用している点眼液はどれですか。

- | | | | | | |
|---------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|----------|----|----|
| ① ソフトサンティア | <input checked="" type="radio"/> 右眼 | <input checked="" type="radio"/> 左眼 | ② クラビット | 右眼 | 左眼 |
| ③ ヒアレイン | 右眼 | 左眼 | ④ フルメトロン | 右眼 | 左眼 |
| ⑤ 0.1%ヒアレインミニ | 右眼 | 左眼 | ⑥ リンデロン | 右眼 | 左眼 |
| ⑦ 0.3%ヒアレインミニ | 右眼 | 左眼 | ⑧ 血清点眼 | 右眼 | 左眼 |
| ⑨ その他眼科処方薬 (内服薬を含む) | | | | | |
| (処方薬 | | |) | 右眼 | 左眼 |
| (処方薬 | | |) | 右眼 | 左眼 |
| ⑩ 涙点プラグ | <input checked="" type="radio"/> 右眼 | 左眼 | | | |

(2. 福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。

現在、受けている福祉サービスはどれですか。あてはまるものに○を付けて下さい。

(複数回答可)

- ① 障害者総合支援法に基づく福祉サービス
→ (3. 障害者総合支援法に基づく福祉サービス) へ
- ② 介護保険制度に基づく福祉サービス
→ (4. 介護保険制度に基づく福祉サービス) へ
- ③ 上記①, ②以外の福祉サービス

具体的にお書き下さい:

- ・遠距離の眼科に通う時の宿泊施設の利用 (ボランティア運営)

A票

生活状況調査票

毎月記入

4月末日現在

答えられる範囲でお答え下さい。

(1. 点眼液の利用状況)

現在使用している点眼液はどれですか。

① ソフトサンティア	右眼	左眼	② クラビット	右眼	左眼
③ ヒアレイン	右眼	左眼	④ フルメトロン	右眼	左眼
⑤ 0.1%ヒアレインミニ	右眼	左眼	⑥ リンデロン	右眼	左眼
⑦ 0.3%ヒアレインミニ	右眼	左眼	⑧ 血清点眼	右眼	左眼
⑨ その他眼科処方薬 (内服薬を含む)					
(処方薬) 右眼 左眼		
(処方薬) 右眼 左眼		
⑩ 涙点プラグ	右眼	左眼			

(2. 福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。
 現在、受けている福祉サービスはどれですか。あてはまるものに○を付けて下さい。
 (複数回答可)

① 障害者総合支援法に基づく福祉サービス
 → (3. 障害者総合支援法に基づく福祉サービス) へ

② 介護保険制度に基づく福祉サービス
 → (4. 介護保険制度に基づく福祉サービス) へ

③ 上記①, ②以外の福祉サービス

具体的にお書き下さい:

(3. 障害者総合支援法に基づく福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。 各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。 (複数回答可)	
① 同行援護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
② 就労移行支援 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
③ 就労継続支援A型 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
④ 就労継続支援B型 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
⑤ 上記以外のサービス 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
(サービス名：)	上記の理由

次頁へ続く↓

(4. 介護保険制度に基づく福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。 各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。 (複数回答可)	
① 訪問介護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
介護内容 1. 身体介護中心型 2. 生活援助中心型 3. 通院等乗降介助 4. その他 ()	上記の理由
② 訪問入浴介護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
	上記の理由
③ 訪問看護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
看護内容	上記の理由
④ 訪問リハビリ 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
リハビリ内容	上記の理由
⑤ 居宅療養管理指導 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
指導内容	上記の理由

次頁へ続く↓

記入例

⑥ 通所介護 月に 8 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
介護内容 入浴 食事介助	上記の理由 職員が親切である
⑦ 通所リハビリ 月に 8 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
リハビリ内容 運動機能を訓練	上記の理由 効果が現れない
⑧ 短期入所 月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
入所内容 1. 短期入所療養介護 2. 短期入所生活介護 (ショートステイ) 3. その他 ()	上記の理由 必要がない
⑨ 送迎サービス 月に 8 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
サービス内容 施設への送迎	上記の理由 月に利用できる回数を増やしてほしい
⑩ 上記以外の福祉サービス 月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
サービス内容 :	上記の理由 どのようなサービスがあるかわからない

⑥ 通所介護 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
介護内容	上記の理由
⑦ 通所リハビリ 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
リハビリ内容	上記の理由
⑧ 短期入所 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
入所内容 1. 短期入所療養介護 2. 短期入所生活介護 (ショートステイ) 3. その他 ()	上記の理由
⑨ 送迎サービス 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
サービス内容	上記の理由
⑩ 上記以外の福祉サービス 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
サービス内容：	上記の理由

記入例

(S J S 等用)

答えられる範囲でお答えください。

(5. 診察回数の状況)

現在、月に何回 S J S の診察のために通院していますか。

- ① 隔月に 1 回程度
- ② 月に 1 回程度
- ③ 月に 2 回程度
- ④ 月に 3 回程度以上
- ⑤ その他 (回程度)

(6. 通院に係る交通費の状況)

S J S の診察で通院される際の 1 回往復交通費であてはまるものに○を付けて下さい。

- ① 1,000 円未満
- ② 1,000 円～10,000 円
- ③ 10,000 円～30,000 円
- ④ 30,000 円～50,000 円
- ⑤ 50,000 円以上
- ⑥ その他 (円)

(7. 入院有無の状況)

今月、S J S に係る治療にて入院をされましたか。

- ① はい
- ② いいえ
- ③ その他 ()

(S J S 等用)

答えられる範囲でお答えください。

(5. 診察回数の状況)

現在、月に何回S J Sの診察のために通院していますか。

- ① 隔月に1回程度
- ② 月に1回程度
- ③ 月に2回程度
- ④ 月に3回程度以上
- ⑤ その他 (回程度)

(6. 通院に係る交通費の状況)

S J Sの診察で通院される際の1回往復交通費であてはまるものに○を付けて下さい。

- ① 1,000円未満
- ② 1,000円～10,000円
- ③ 10,000円～30,000円
- ④ 30,000円～50,000円
- ⑤ 50,000円以上
- ⑥ その他 (円)

(7. 入院有無の状況)

今月、S J Sに係る治療にて入院をされましたか。

- ① はい
- ② いいえ
- ③ その他 ()

B 票

生活状況調査票

4 半期毎記入

I 期	4 月～6 月分	2019 年 6 月末日現在
-----	----------	----------------

答えられる範囲でお答えください。
(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答え下さい。
(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

① 健康被害者が過去3ヶ月間に外出しましたか。(いずれか1つに○を付けて下さい。)

1. ほぼ毎日
2. 週に4から5回
3. 週に2から3回
4. 月に2から3回
5. まったく外出していない

①-1 外出された方にお聞きします。
主に誰の介助を受けて外出しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助なし
2. 配偶者
3. 親
4. 子供
5. その他の家族
6. 親戚
7. ホームヘルパー
8. 隣人・知人
9. 雇人
10. ボランティア
11. その他 ()

② 外出するうえで、または、外出しようとするうえで、困ることや不満に思うことはありますか。

1. ない。
2. ある。

②-1 上記②で「ある。」とお答えいただいた方にお聞きします。
困ること又は不満に思うことの具体的なものは何ですか。
(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助者がいない
2. 経費がかかる
3. 人の目が気にかかる
4. 人と話をすることが困難
5. 外出に必要な情報が得られない
6. 電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便
7. 道路や駅などの公共の場所の利用が不便
8. 利用する建物の設備(階段、トイレ、エレベーター等)の利用が不便
9. 人の混雑や車に身の危険を感じる
10. 駅などにおける人間関係のトラブル
11. その他 ()

次頁へ続く↓

記入例

② - 2 外出するうえで工夫したことは何ですか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

【外出前の準備について】

1. 予め、交通機関(時刻や乗り換えなど)や経路について調べておく
2. 介助者を依頼する(同行支援・行動支援など)
3. コースを事前に決めておく
4. その他()

【服装・持ち物について】(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 目立つ服装をした
2. 目の保護のためサングラス、帽子を着用した
3. 白杖の使用
4. 両手が使えるよう、リュックサックを使用した
5. その他()

【移動手段について】(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 自家用車を利用(家族、友人・知人による送迎)
2. 介護タクシーを利用
3. 公共交通機関を利用
4. その他()

【上記以外に外出するうえで何か工夫したことがありましたらお書きください。】

③ 健康被害者が過去3ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)などをしましたか。

1. まったくしていない
2. 参加(活動)した

③ - 1 まったくしていないとお答えになった方にお聞きします。
余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)をしなかった理由は何ですか。
(該当するもの1つに○を付けて下さい。)

1. 介助者がいなかった
2. 時間的・経済的余裕がなかった
3. 体力的に余裕がなかった
4. その他()

③ - 2 参加(活動)したとお答えになった方にお聞きします。
余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)をするきっかけについてお書きください。

③ - 3 参加(活動)した方にお聞きします。そればどのような内容でしたか。

(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学
2. スポーツ教室、大会などへの参加
3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動
4. 趣味の同好会活動
5. ボランティアなどの社会活動
6. 障害者団体の活動
7. 地域活動
8. パソコンを利用した社会参加
9. 友達との遊び
10. その他()

次頁に続く↓

<p>② - 2 外出するうえで工夫したことは何ですか。(該当するもの全てに○を付けてください。)</p> <p>【外出前の準備について】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予め、交通機関(時刻や乗り換えなど)や経路について調べておく 2. 介助者を依頼する(同行支援・行動支援など) 3. コースを事前に決めておく 4. その他()
<p>【服装・持ち物について】(該当するもの全てに○を付けてください。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目立つ服装をした 2. 目の保護のためサングラス、帽子を着用した 3. 白杖の使用 4. 両手が使えるよう、リュックサックを使用した 5. その他()
<p>【移動手段について】(該当するもの全てに○を付けてください。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自家用車を利用(家族、友人・知人による送迎) 2. 介護タクシーを利用 3. 公共交通機関を利用 4. その他()
<p>【上記以外に外出するうえで何か工夫したことがありましたらお書きください。】</p>
<p>③ 健康被害者が過去3ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)などを行いましたか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. まったくしていない 2. 参加(活動)した
<p>③ - 1 まったくしていないとお答えになった方にお聞きします。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)をしなかった理由は何ですか。 (該当するもの1つに○を付けて下さい。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介助者がいなかった 2. 時間的・経済的余裕がなかった 3. 体力的に余裕がなかった 4. その他()
<p>③ - 2 参加(活動)したとお答えになった方にお聞きします。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)をするきっかけについてお書きください。</p>
<p>③ - 3 参加(活動)した方にお聞きします。そればどのような内容でしたか。 (該当するもの全てに○を付けてください。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学 2. スポーツ教室、大会などへの参加 3. 旅行・キャンプ・釣りなどの活動 4. 趣味の同好会活動 5. ボランティアなどの社会活動 6. 障害者団体の活動 7. 地域活動 8. パソコンを利用した社会参加 9. 友達との遊び 10. その他()

次頁に続く↓

記入例

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。
 (いずれか1つに○をつけてください。)

①. 健康被害を受けた人
 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
 4. 介護者が回答

⑤ 日常生活についてお聞きします。
 (各項目の過去3ヶ月間の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

⑤-1 ものが見えにくいために、新聞や本を読むことはどのくらい不自由ですか。	<table style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">まったく 不自由 はない</td> <td style="padding: 2px;">あまり 不自由 はない</td> <td style="padding: 2px;">とても 不自由</td> <td style="padding: 2px;">見えにくい のでやめた</td> </tr> <tr> <td colspan="4">①.....②.....③.....④</td> </tr> </table>	まったく 不自由 はない	あまり 不自由 はない	とても 不自由	見えにくい のでやめた	①.....②.....③.....④			
まったく 不自由 はない	あまり 不自由 はない	とても 不自由	見えにくい のでやめた						
①.....②.....③.....④									
⑤-2 目や、目のまわりの痛みや不快の程度はどのくらいですか。	<table style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">まったく ない</td> <td style="padding: 2px;">かすかに ある</td> <td style="padding: 2px;">中くらい ある</td> <td style="padding: 2px;">かなり ある</td> </tr> <tr> <td colspan="4">①.....②.....③.....④</td> </tr> </table>	まったく ない	かすかに ある	中くらい ある	かなり ある	①.....②.....③.....④			
まったく ない	かすかに ある	中くらい ある	かなり ある						
①.....②.....③.....④									
⑤-3 ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがありますか。	<table style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">ない</td> <td style="padding: 2px;">ある</td> </tr> <tr> <td colspan="2">①.....②</td> </tr> </table>	ない	ある	①.....②					
ない	ある								
①.....②									
⑤-4 物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがありますか。	<table style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">ない</td> <td style="padding: 2px;">ある</td> </tr> <tr> <td colspan="2">①.....②</td> </tr> </table>	ない	ある	①.....②					
ない	ある								
①.....②									

⑤-5 視力以外の状況はございますか。(該当するもの全てに○をつけてください。)

【皮膚や爪に関する症状】
 ①. 皮膚のかゆみ、乾燥
 2. 癬痕が残る
 3. 爪の変更、剥離
 4. その他 ()

【内臓機能に関する症状】
 1. 高血圧
 2. 粘膜不全(粘膜部分からの出血等)
 ③. 心肺機能の低下・異常
 4. 肝機能の低下・異常
 5. 腎機能の低下・異常
 6. その他 ()

【聴覚・呼吸機能に関する症状】
 1. 音声聞き取りにくい(難聴)
 2. 気管支炎、ぜん息
 ③. アレルギー性鼻炎
 4. その他 ()

次頁に続く↓

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。
(いずれか1つに○をつけてください。)

- 健康被害を受けた人
- 本人の意向を聞いて介護者が記入
- 本人の意向をくみとり介護者が記入
- 介護者が回答

⑤ 日常生活についてお聞きします。
(各項目の過去3ヶ月間の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

⑤-1 ものが見えにくいために、新聞や本を読むことはどのくらい不自由ですか。	まったく不自由はない ①.....	あまり不自由はない ②.....	とても不自由 ③.....	見えにくいのでやめた ④
⑤-2 目や、目のまわりの痛みや不快感の程度はどのくらいですか。	まったくない ①.....	かすかにある ②.....	中くらいある ③.....	かなりある ④
⑤-3 ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがありますか。	ない ①.....	ある ②		
⑤-4 物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがありますか。	ない ①.....	ある ②		

⑤-5 視力以外の状況はございますか。(該当するもの全てに○をつけてください。)

【皮膚や爪に関する症状】
1. 皮膚のかゆみ、乾燥
2. 癬痕が残る
3. 爪の変更、剥離
4. その他 ()

【内臓機能に関する症状】
1. 高血圧
2. 粘膜不全(粘膜部分からの出血等)
3. 心肺機能の低下・異常
4. 肝機能の低下・異常
5. 腎機能の低下・異常
6. その他 ()

【聴覚・呼吸機能に関する症状】
1. 音声が聞き取りにくい(難聴)
2. 気管支炎、ぜん息
3. アレルギー性鼻炎
4. その他 ()

次頁に続く↓

【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】

1. さかさまつげ
2. ドライアイ（涙が出ないなど）
3. 角膜の炎症
4. その他（)

【口腔に関する症状】

1. 口内炎
2. 味覚障害
3. 口の中が乾く（乾きやすい）
4. その他（)

【精神的な症状】

1. 不安障害
2. 睡眠障害
3. うつ
4. その他（)

【視力以外の症状で上記に掲げたほかにございましたら、お書きください。】

次頁へ続く↓

記入例

(主たる介護者の状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。

(いずれか1つに○を付けてください。)

- ①. 主として介護をしている配偶者
 2. 主として介護をしている親
 3. 主として介護をしている兄弟姉妹
 4. その他 ()

⑥ お答えいただいた方の健康状態について
 (3ヶ月間のあなたの状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

たいへん	まあ	やや	たいへん
良好	良好	悪い	悪い
①	②	③	④

⑥-1 その理由は何ですか。

常に介護が必要なため

⑦ この1年間に介護をしていく中で、
 困ったことが、

- ①. 増えた 2. 減った
 3. 変わらない 4. 困ったことはない

⑦-1 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。

急な用事の際、すぐに代替りの介護者が見つからなかった

⑦-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)
 ※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてください。

- | | |
|---|------------------|
| 1. 親 (a 父親 <input checked="" type="radio"/> b 母親) | 2. 配偶者 (a 夫 b 妻) |
| 3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻) | |
| 4. 兄弟姉妹 | 5. 祖父母 |
| 6. 友人・知人 | 7. 会社の上司・同僚 |
| 8. 学校の先生 | 9. 医師 |
| 10. 看護師・保健師 | |
11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市(区)役所 d 民生委員 e 身体障害者相談員)
12. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の保健福祉相談窓口
 13. 障害者の団体(親、家族の会を含む)
 14. 障害者相談支援センター(相談支援事業者を含む) ※1 15. 地域包括支援センター ※2
 16. その他 ()
 17. 相談する人はいない

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

次頁へ続く ↓

(主たる介護者の状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。

(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 主として介護をしている配偶者
2. 主として介護をしている親
3. 主として介護をしている兄弟姉妹
4. その他 ()

⑥ お答えいただいた方の健康状態について
(3ヶ月間のあなたの状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

たいへん	まあ	やや	たいへん
良好	良好	悪い	悪い
①.....	②.....	③.....	④

⑥-1 その理由は何ですか。

⑦ この1年間に介護をしていく中で、
困ったことが、

- | | |
|----------|-------------|
| 1. 増えた | 2. 減った |
| 3. 変わらない | 4. 困ったことはない |

⑦-1 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。

⑦-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)

※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてください。

- | | |
|--|-------------------|
| 1. 親 (a 父親 b 母親) | 2. 配偶者 (a 夫 b 妻) |
| 3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻) | |
| 4. 兄弟姉妹 | 5. 祖父母 |
| 6. 友人・知人 | 7. 会社の上司・同僚 |
| 8. 学校の先生 | 9. 医師 |
| 10. 看護師・保健師 | |
| 11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市(区)役所 d 民生委員 e 身体障害者相談員) | |
| 12. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の保健福祉相談窓口 | |
| 13. 障害者の団体(親、家族の会を含む) | |
| 14. 障害者相談支援センター(相談支援事業者を含む) ※1 | 15. 地域包括支援センター ※2 |
| 16. その他 () | |
| 17. 相談する人はいない | |

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

次頁へ続く ↓

【ご参考】

調査票 B 票中の設問⑦-2の中に記載されております「医薬品医療機器総合機構（PMDA）の保健福祉事業相談窓口」につきましては、以下の事業となっております。

■ 健康被害者等に対する精神面などに関する相談事業

PMDAの保健福祉事業の一環として、医薬品の副作用及び生物由来製品を介した感染等により健康被害を受けた方及びそのご家族に対し、精神面のケア及び福祉サービスに繋げる助言を行うことを目的として、相談事業を実施しています。

・ 事業内容

副作用等により健康被害を受けた方等に対し、精神保健福祉士または社会福祉士の専門家による相談事業を行います。

・ 相談事業対象者

医薬品副作用被害救済制度における副作用救済給付、又は生物由来製品感染等被害救済制度における感染救済給付の支給決定を受けた者、及びそのご家族を対象者とします。※保健福祉事業に参画されている方及びそのご家族もご利用可能です。

・ 相談の方法

相談を希望される方は、PMDAより配布いたします「精神面などに関する相談事業の手引き」に記載の、指定する電話番号（フリーダイヤル）に電話してください。なお受付日は、月曜日から金曜日まで（祝日・年末年始を除く）となり、受付時間は、午前9時から午後5時までとなります。

PMDAの精神保健福祉士または社会福祉士は、受給者等からの悩みや不安等について、丁寧に話を聞いた上で、必要なメンタルヘルスや福祉サービス利用のご案内などを行います（相談の秘密は厳守いたします）。

・ 相談を希望される方へお願い

相談を行うには「精神面などに関する相談事業の手引き」が必要となります。問い合わせ先にご連絡の上、「手引き」をご請求ください。

・ 問い合わせ先

独立行政法人医薬品医療機器総合機構 健康被害救済部企画管理課
電話：03-5069460

※記入しないでください。

保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書
(ライ症候群等用)

第1・四半期分(2019年4月～2019年6月)

調査票記入者氏名		本人との関係	
----------	--	--------	--

提出方法

この保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書は、切り離さず基本情報及びA票(毎月記入用)とB票(四半期ごと記入用)と併せて7月1日から7月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-2

TEL:03-3506-9460

FAX:03-3506-9439

1. 健康被害者情報

基本情報

記入例

(ふりがな)

氏名 _____ 性別 男 女

大正
生年月日 昭和 年 月 日
平成

自宅住所
(〒 -)

[電話番号 () -]
[FAX番号 () -]

2. 家族構成

同居家族全員を記入してください。 3月末日現在

副作用被害者本人との続柄をお答え下さい。	年齢	主に介護をしている方に○を付けてください。
(記入例) 母	(記入例) 60	(記入例) 主に介護をしている
		主に介護をしている

3. 障害の種類・程度

_____ 級
_____ 級

1. 健康被害者情報

基本情報

きこう たろう
氏名 **機構 太郎** 性別 男 女

大正
生年月日 **昭和 30年00月00日**
平成

自宅住所
(〒 **100-0013**)
東京都千代田区霞が関0-00-0

[電話番号 (00) 0000-0000]
[FAX番号 (00) 0000-0000]

2. 家族構成

同居家族全員を記入してください。 月末日現在

副作用被害者本人との続柄をお答え下さい。	年齢	主に介護をしている方に○を付けてください。
(記入例) 母	(記入例) 60	(記入例) 主に介護をしている
父	65	主に介護をしている
		主に介護をしている

3. 障害の種類・程度

視力障害 _____ **1級**
_____ 級

A票

生活状況調査票

(ライ症候群等用)

毎月記入

4 月末日現在

答えられる範囲でお答え下さい。
(福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。 各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。 (複数回答可)	
①訪問介護 月に 日(回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
介護内容 1. 身体介護中心型 2. 生活援助中心型 3. 通院等乗降介助 4. その他 ()	上記の理由
②訪問入浴介護 月に 日(回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
介護内容	上記の理由
③訪問看護 月に 日(回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
看護内容	上記の理由

④訪問リハビリ 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
リハビリ内容	上記の理由
⑤居宅療養管理指導 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
指導内容	上記の理由
⑥通所介護 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
介護内容	上記の理由
⑦通所リハビリ 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
リハビリ内容	上記の理由

次頁へ続く↓

⑧短期入所 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
入所内容 1. 短期入所療養介護 2. 短期入所生活介護 (ショートステイ) 3. その他 ()	上記の理由
⑨送迎サービス 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
サービス内容	上記の理由
⑩上記以外の福祉サービス 月に 回 (サービス名)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
サービス名： サービス内容：	上記の理由

記入要領

この報告書は、調査研究対象者が答えられる範囲で回答し、切り離さず、生活状況調査票A票（毎月記入用）及びB票（四半期毎記入用）と併せて、7月1日から7月10日までの間に提出してください。

記入例

(ライ症候群等用)

生活状況調査票

毎月記入

月末日現在

答えられる範囲でお答え下さい。
(福祉サービス)
福祉サービスの利用状況についてお聞きます。
各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。
(複数回答可)

①訪問介護 月に 5回(回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
介護内容 1. 身体介護中心型 ②生活援助中心型 3. 通院等乗降介助 4. その他 ()	上記の理由 必要ときに依頼しているから
②訪問入浴介護 月に 0回(回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
介護内容	上記の理由 必要と感じない
③訪問看護 月に 0回(回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
看護内容	上記の理由 必要と感じない

④訪問リハビリ 月に 0回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
リハビリ内容	上記の理由 施設のリハビリに通っている
⑤居宅療養管理指導 月に 0回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
指導内容	上記の理由 必要と感じない
⑥通所介護 月に 8回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
介護内容 入浴、食事介助	上記の理由 職員が親切である
⑦通所リハビリ 月に 8回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
リハビリ内容 運動機能訓練	上記の理由 効果が現れない

次頁へ続く↓

- 1 -

⑧短期入所 月に 0回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
入所内容 1. 短期入所療養介護 2. 短期入所生活介護 (ショートステイ) 3. その他 ()	上記の理由 適当な施設がない
⑨送迎サービス 月に 8回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
サービス内容 施設への送迎	上記の理由 月に利用できる回数を増やしてほしい
⑩上記以外の福祉サービス 月に 0回 (サービス名)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①.....②.....③.....④ ⑤
サービス名： サービス内容：	上記の理由 どのようなサービスがあるかわからない

- 3 -

- 2 -

- 4 -

B票

生活状況調査票

4半期毎記入

I期	4月～6月分	2019年6月末日現在
----	--------	-------------

答えられる範囲でお答えください。

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答え下さい。

(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

① 健康被害者が過去3ヶ月間に外出しましたか。(いずれか1つに○を付けて下さい。)
(外出には通園・通学を含みます。以下の質問も同じ。)

1. ほぼ毎日
2. 週に4から5回
3. 週に2から3回
4. 月に2から3回
5. まったく外出していない

①-1 外出された方にお聞きします。
主に誰の介助を受けて外出しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助なし
2. 配偶者
3. 親
4. 子供
5. その他の家族
6. 親戚
7. ホームヘルパー
8. 隣人・知人
9. 雇人
10. ボランティア
11. その他 ()

② 外出するうえで、または、外出しようとするうえで、困ることや不満に思うことはありますか。

1. ない。
2. ある。

②-1 困ることや不満に思うことがある。とお答えいただいた方にお聞きします。
困ること又は不満に思うことは何ですか。
(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助者がいない
2. 経費がかかる
3. 人の目が気にかかる
4. 人と話をすることが困難
5. 外出に必要な情報が得られない
6. 電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便
7. 道路や駅などの公共の場所の利用が不便
8. 利用する建物の設備(階段、トイレ、エレベーター等)の利用が不便
9. 人の混雑や車に身の危険を感じる
10. 駅などにおける人間関係のトラブル
11. その他 ()

②-2 外出するうえで工夫したことは何ですか。

③ 健康被害者が過去3ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)などを行いましたか。

1. まったくしていない
2. 参加(活動)した

③-1 参加(活動)した方にお聞きします。それはどのような内容でしたか。
(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学
2. スポーツ教室、大会などへの参加
3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動
4. 趣味の同好会活動
5. ボランティアなどの社会活動
6. 障害者団体の活動
7. 地域活動
8. パソコンを利用した社会参加
9. 友達との遊び
10. その他 ()

④ 屋内での生活で工夫したことがありましたらお書きください。

次頁に続く↓

記入要領

この報告書は、調査研究対象者が答えられる範囲で回答し、切り離さず、生活状況調査票A票（毎月記入用）及びB票（四半期毎記入用）と併せて、7月1日から7月10日までの間に提出してください。

記入例

(ライ症候群等用)

生活状況調査票

4半期毎記入

	期	月～	月分	年	月末日現在
--	---	----	----	---	-------

答えられる範囲でお答えください。
(日常生活)

①以下の質問に回答していただける方についてお答え下さい。
(いずれか1つに○を付けてください。)

①健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

①健康被害者が過去3ヶ月間に外出しましたか。(いずれか1つに○を付けて下さい。)
(外出には通関・通学を含みます。以下の質問も同じ。)

1. はば毎日 2. 週に4から5回 3. 週に2から3回 ④月に2から3回
5. まったく外出していない

①-1 外出された方にお聞きします。
主に誰の介助を受けて外出しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助なし 2. 配偶者 3. 親 ④子供 5. その他の家族
6. 親戚 7. ホームヘルパー 8. 隣人・知人 9. 雇人
10. ボランティア 11. その他()

②外出するうえで、または、外出しようとするうえで、困ることや不満に思うことはありますか。
②ある。

②-1 困ることや不満に思うことがある。とお答えいただいた方にお聞きします。
困ること又は不満に思うことは何ですか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助者がいない
②経費がかかる
3. 人の目が気にかかる
④人と話することが困難
5. 外出に必要な情報が得られない
⑥電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便
7. 道路や駅などの公共の場所の利用が不便
8. 利用する建物の設備(階段、トイレ、エレベーター等)の利用が不便
⑨人の混雑や車に身の危険を感じる
10. 駅などにおける人間関係のトラブル
11. その他()

次頁に続く1

(主たる介護者の状況)

①以下の質問に回答していただける方についてお答えください。
(いずれか1つに○を付けてください。)

①主として介護をしている配偶者
2. 主として介護をしている親
3. 主として介護をしている兄弟姉妹
4. その他()

②お答えいただいた方の健康状態について
(3ヶ月間のあなたの状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

たいへん	まあ	やや	たいへん
良好	良好	悪い	悪い
①	②	③	④

③-1 その理由は何ですか。
常に介護が必要なため

④ この1年間に介護をしていく中で、①増えた 2. 減った
困ったことが、 3. 変わらない 4. 困ったことはない

⑤-1 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。
急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからなかった

⑦-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)
※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてください。

1. 親(a父親 ①母親) 2. 配偶者(a夫 b妻)
3. 子供(a息子 b娘 c娘の夫 d息子の妻)
4. 兄弟姉妹 5. 祖父母 6. 友人・知人 7. 会社の上司・同僚
8. 学校の先生 9. 医師 10. 看護師・保健師
11. 公的機関の職員等(a身体障害者更生相談所 b福祉事務所 ③市(区)役所 d民生委員 e身体障害者相談員)
12. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の保健福祉相談窓口
13. 障害者の団体(親、家族の会を含む)
14. 障害者相談支援センター(相談支援事業者を含む) ※1 15. 地域包括支援センター※2
16. その他()
17. 相談する人はいない

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。
※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

⑦-3 解決策はありましたか。 ①解決した 2. していない

⑦-4 解決したと答えた方にお聞きします。それは、どのような方法で解決しましたか。
身内の者に頼んだり、公的介護制度を利用した

⑦-5 していないと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決できると思いますか。

⑧ 主たる介護者を支えるようなものがありましたか。 ①あった 2. なかった

⑧-1 それは具体的にどのようなものですか。
患者の会で病院や介護施設の情報交換をした

⑨ 介護者等が過去3ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)などをしましたか。

1. まったくしていない
②参加(活動)した

⑨-1 参加(活動)した方にお聞きします。それはどのような内容でしたか。
(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学
2. スポーツ教室、大会などへの参加
3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動
④趣味の同好会活動
5. ボランティアなどの社会活動
⑥障害者団体の活動
7. 地域活動
8. パソコンを利用した社会参加
9. 友達との遊び
10. その他()

⑩介護をしていく中で、新しい発見や気分転換などがはかれましたか。 ①あった 2. なかった

⑩-1 あったと答えた方にお聞きします。それはどのようなこと又はどのようなときですか。
散歩で公園を通る時に、季節毎の草花を見て季節を感じられることが、気分転換になっている

【ご参考】

調査票 B 票中の設問⑦-2の中に記載されております「医薬品医療機器総合機構(PMDA)の保健福祉事業相談窓口」につきましては、以下の事業となっております。

■ 健康被害者等に対する精神面などに関する相談事業

PMDAの保健福祉事業の一環として、医薬品の副作用及び生物由来製品を介した感染等により健康被害を受けた方及びそのご家族に対し、精神面のケア及び福祉サービスに繋げる助言を行うことを目的として、相談事業を実施しています。

・ 事業内容

副作用等により健康被害を受けた方等に対し、精神保健福祉士または社会福祉士の専門家による相談事業を行います。

・ 相談事業対象者

医薬品副作用被害救済制度における副作用救済給付、又は生物由来製品感染等被害救済制度における感染救済給付の支給決定を受けた者、及びそのご家族を対象者とします。※保健福祉事業に参画されている方及びそのご家族もご利用可能です。

・ 相談の方法

相談を希望される方は、PMDAより配布いたします「精神面などに関する相談事業の手引き」に記載の、指定する電話番号(フリーダイヤル)に電話してください。なお受付日は、月曜日から金曜日まで(祝日・年末年始を除く)となり、受付時間は、午前9時から午後5時までとなります。

PMDAの精神保健福祉士または社会福祉士は、受給者等からの悩みや不安等について、丁寧に話を聞いた上で、必要なメンタルヘルスや福祉サービス利用のご案内などを行います(相談の秘密は厳守いたします)。

・ 相談を希望される方へお願い

相談を行うには「精神面などに関する相談事業の手引き」が必要となります。問い合わせ先にご連絡の上、「手引き」をご請求ください。

・ 問い合わせ先

独立行政法人医薬品医療機器総合機構 健康被害救済部企画管理課
電話：03-3506-9460

VII 健康状態報告書(診断書様式)

※記入しないでください。

健康状態報告書

提出方法

この健康状態報告書は10月1日から12月末日までの間に病院又は診療所で証明してください。

なお、保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書と併せて1月1日から1月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2
TEL 03-3506-9460
FAX 03-3506-9439

健康状態報告書

患者氏名		男・女	生年月日	昭和 平成	年	月	日	カルテNo.
------	--	-----	------	----------	---	---	---	--------

(測定日： 年 月 日)

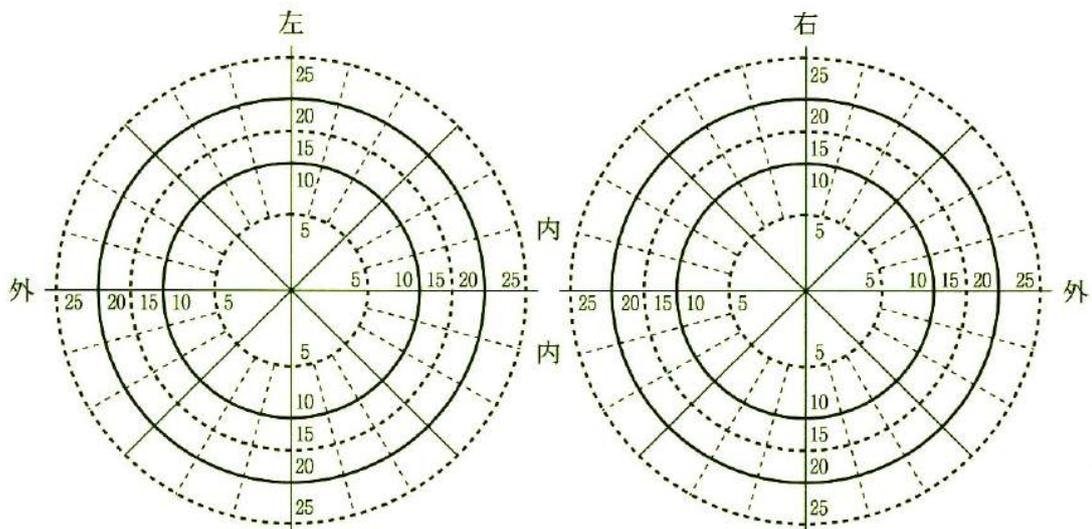
① 視力 (視力測定の際の照度は200ルクスとします。)

	裸眼	矯正	矯正眼鏡
右眼			D
左眼			D

② 所見 (必要なときは適宜図示してください。)

前眼部所見	中間透光体所見	眼底所見
右	右	右
左	左	左

③ 視野 (傷病から視野障害を測定する必要があると認めた場合には測定してください。)



④ QOL（生活の質）の改善のために医学的に行えることについてご意見がありましたら具体的にお書きください。（眼科医の視点からのQOL改善について）

⑤ その他に呼吸機能障害、運動機能障害等の症状がある方の現況（眼科医の視点から）

令和 年 月 日

病院又は診療所の名称

診療担当科名
医師氏名

印

所在地 〒

電話番号

※記入しないでください。

健康状態報告書

提出方法

この健康状態報告書は10月1日から12月末日までの間に病院又は診療所で証明してください。

なお、保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書と併せて1月1日から1月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2
TEL 03-3506-9460
FAX 03-3506-9439

健康状態報告書

患者氏名		男・女	生年月日	昭和 平成	年	月	日	カルテNo.
------	--	-----	------	----------	---	---	---	--------

① 一般身体所見として特記すべき事項

② 知的障害に関わる所見

③ 神経学的所見

- 起立：可能 ・ 介助があれば可能 ・ 不可能
- 歩行：可能 ・ 介助があれば可能 ・ 不可能
- 四肢の運動機能：自発運動可能 ・ 自発運動不可能
- 深部腱反射：正常 ・ 亢進 ・ 低下
- 筋トーン：正常 ・ 亢進 ・ 低下
- その他の神経学的所見

④ 日常生活状況（現在入院中・入所中・その他）

ア 全般的状況について（家庭及び家庭以外の者と対人関係についても具体的に記載してください。）

イ 知的障害に関連した日常生活能力について（該当するものを選んで、いずれか1つを○で囲んでください。）ここで言う知的障害とは、病的体験・欠陥・痴呆・知能遅滞・性格変化等をいいます。

- (ア) 社会生活は普通にできる。
- (イ) 家庭内での日常生活は普通にできるが、社会生活はできない。
- (ウ) 家庭内での単純な日常生活はできるが、時に応じて介護が必要である。
- (エ) 身のまわりのことはかろうじてできるが、適当な介護が必要である。
- (オ) 身のまわりのことは全くできない。

